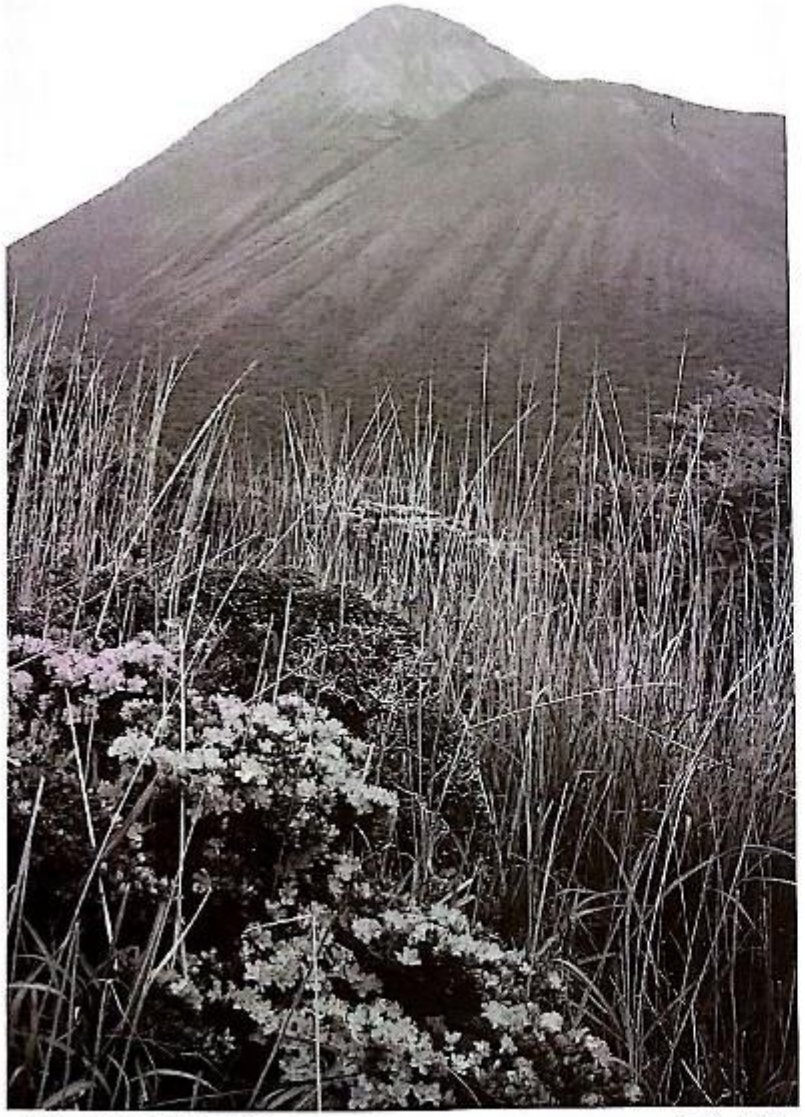


霧島・中岳から望む高千穂峰　　三浦　弘幸

早春を踏みしめる。

Live MOUNTAIN
—自然好きなことにこだわりたい。

New Stndard Backpack
年々進化するバックパック。背面調整や容量調節に様々な工夫が凝らされています。使い勝手の良い快適な新定番バックパックをピックアップ。新緑の低山から雪のアルプスまで、GWの山々に機応く対応するODBOXオススメ中型バックパックです。

OSPREY/バックサイド
¥26,800 容量40L。
OSPREY独自のストレート
ショゲットシステムが
安全なパッキングと軽々な
容量調節を実現。
スキー、スノーボード
取付時の安定感は抜群。
荷物の出し入れも
容易で使いやすさ抜群。

KARRIMOR/リッジ40
¥19,000→¥15,200
容量40L。
カーリーバックの値
KARRIMOR社の新定番。
あかるみのクラスパンチング
ポケットは軽量で使い勝手
抜群に良い。
ウェストベルトのポケットも
行動食などが収納に便利。
シンプルなデザインは他に
でも使えます。

ZEROPOINT/チャチャパック45
¥11,600
容量45L。
背面のウィングポーン
システムが時代の要望と
フィット感に効果を発揮。
収納可能な内側面の
ポケットから物の整理や
収納の増加に多く
対応します。

充実！春の雪山での必需品
アイゼン、ピッケル、ストック、ショベル
など春の雪山に必要なギアをいろいろ取り
揃えています。

CAMP　GRIVEL　charlet　BLACK DIAMOND　KAJITAX　ORTOVOX

イベント情報
「自然と友達になる会」山行
●奥多摩　御前山　日時：4月28日
テーマ：カタクリの花を見に行こう
●生駒山　日時：5月6日
テーマ：桜を見に行く
詳しくは、ODBOX各店までお気軽に
お問い合わせ下さい。

新ハイキング会員の方に特別割引
新ハイキング会員証をご提示頂ければ
10%割引。
新ハイキング会員以外の方も
会員証の申し込みをご相談ください。

大阪店
ビッグスケップ前
地下鉄心斎橋駅より徒歩5分

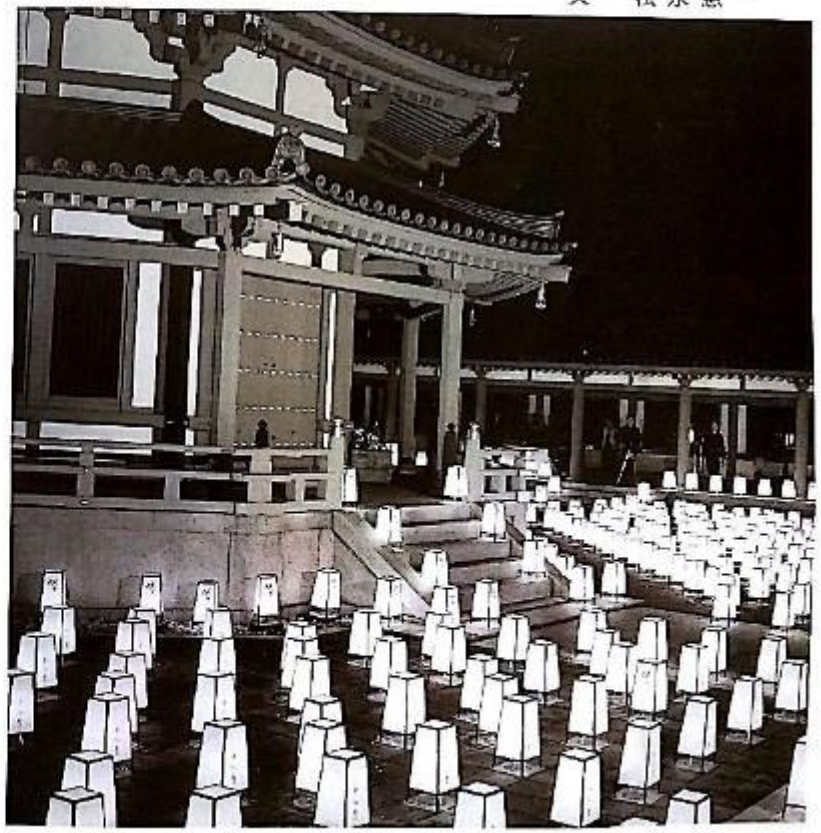
クリエイティブ・アウトドアショップ
遊衣 登食 潜住 自然で暮らす。
OD BOX

「通信販売」でもお買得品をゲット！
ご来店出来ないお客様にも便利な通信販売を。お電話で、FAXで、E-MAIL、ホームページ掲載で、お気軽にお問い合わせ、ご注文下さい。
ホームページアドレス：http://plaza27.mbn.or.jp/~odbox
メールアドレス：odbox@cb.mbn.or.jp

Photo essay

夏の彩

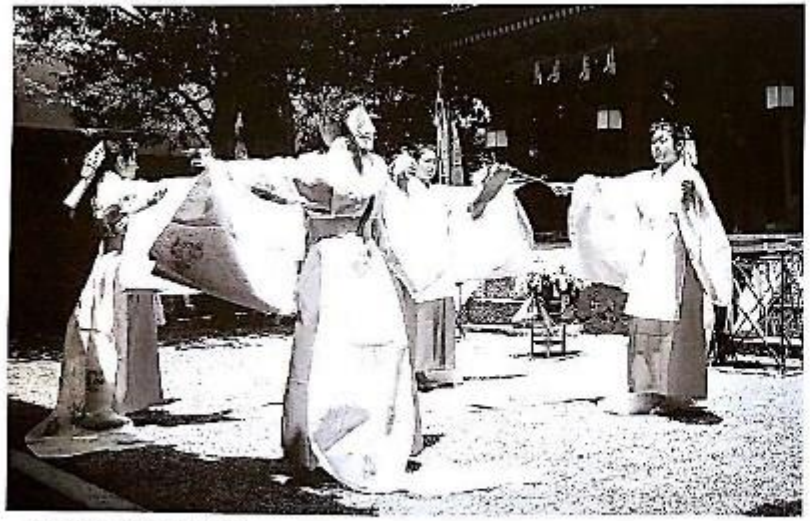
題字　中田関石
撮影　由井　収
文　松永恵一



玄奘・三蔵会（薬師寺）

アジサイ（岩船寺）

六月十七日は三枝祭
ゆりまつりとして広く知られる
　はねかずら今する妹をうら若み
　いざ率川の音の清けさ
『古事記』に残る百合伝説
淡いピンク色の花
笹の葉のような葉
神前が三輪山の笹百合で飾られ
巫女達が舞う　うま酒みわの舞
吹き渡る風が優やかな香りを運ぶ
芳しい香り
古代への夢をかきたてる
艶やかな黒髪　緑のサネカズラ
静寂をおびた空気の中で
じっと見つめていた



ゆり祭（三枝祭・率川神社）

季節の実景

初夏

撮影　武市通治

苔

ツツジ

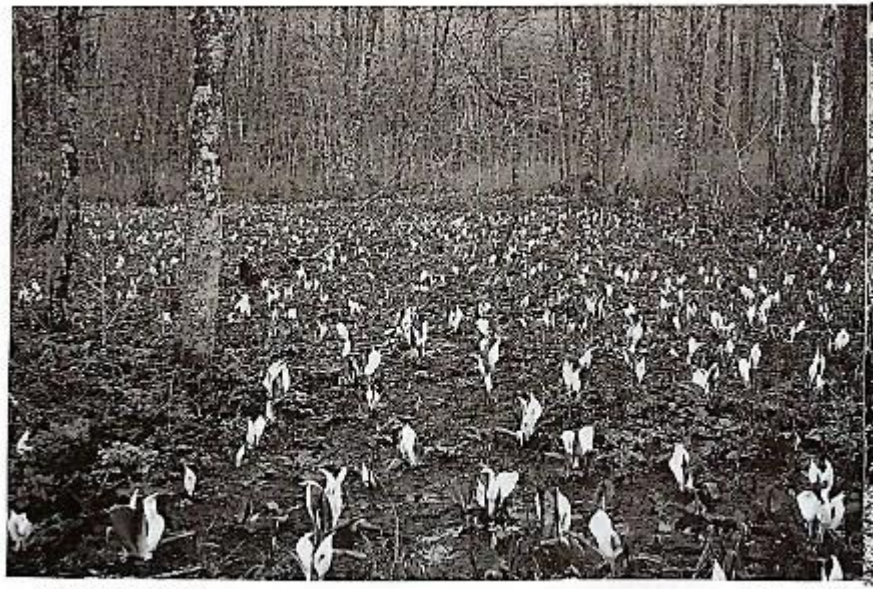
カキツバタ

滝

清流

タニウツギ　　中川　光郎

修験葉山はヒメシャラの山㉓（美杉村）　　今村　悦子



ミズバショウ（戸隠）　　中川　光郎

修験葉山はヒメシャラの山⑲（美杉村）　　今村　悦子

新ハイキング 別冊 関西の山
'00年5・6月 初夏 第52号

●目次

表紙：松田敏男「黎明の赤石岳」（南アルプス）

●自名プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。[illegible]、南アルプス[illegible]小屋、東京ギャラリー百号、他。[illegible]山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
夏の彩……撮影 由井 収
季節の表景（初夏）「カキツバタ」他……武市 通治 4
（口絵）三浦弘幸 奇岩侵子 山川光郎 長田英一郎

随想（山のエッセイ）
再び「ポンポン山」について……綱木 逸雄 10
オランダ暮らの築造年……柴田 昭彦 13

紀行
台高山脈中部縦走（貳）……松田 敏男 16
不動岳と鹿の平（南アルプス）……金谷 昭 20
三瓶山と浮布の池（山陰）……木村 太郎 24

連載 日本霊山紀行 番外編（補遺①）
『新編武蔵風土記稿』（その2）……浅野 孝一 28
越後駒ヶ岳（越後）……日野 節雄 30
野谷荘司山（白山）……篤見 守源 34
奄美諸島の山（薩南）……多摩 雪雄 38
四国遍路みちを歩く1 焼山寺読え（四国）……杉本 一高 42

連載 三角点を訪ねて⑬地ヶ峯八丈島（伊豆）……篠部 純 46
比良を歩く⑯コメカイ道から地蔵山・蓬明山……秦 廣夫 52

●一等三角点峰（500m以上）548座完登の記録（第18回）
下北・津軽半島の山旅……坂井 久光 48
●海上の森5（最終回）「篠田池」……山口 淳有 56
●近世の庄登り山 都介野岳・其那木山登山……中村 敏文 58
●文学歴史探訪ハイク㉜「紀見峠駅から岩湧山へ」……松永 惠一 62

コースガイド
①富士（長野丹波）……慶佐次盛一 66
②熊四郎山と大蛇峰（新紀）……山形 歳之 68
③坊主岳（木曽）……西尾 寿一 70
④相場峠山（田中山）（湖州）……柴田 昭彦 72

沿線ハイキングガイド……76
サービスチェーン……80
せせらぎ……80
新ハイ関西山行計画と報告……95
バス時刻表（大峰山系）……102
編集後記・広告索引……104

巻頭言

ハイキングの楽しみ方と山行目の前後にやっておくべきことについては、第49号に記しましたが、私の経験からいって、やはり山行計画を練るのが一番楽しく、しかも大切なことだと思うようになってきました。

計画に必要な要素といえば、まず行き先、そして期日・コースとタイム・集合・交通機関・宿泊所・予算などですが、それらの全てがうまくいかないと、計画として発表できません。

交通機関の運行ダイヤが変更になっていたり、当てにしていた宿泊所が休館になっていることはしばしばです。また費用や時間は幾らかかってもよいという訳にもいきません。最少の予算でもっとも効率よく歩くにはどうしようかと悩んだりします。しかもこれらをクリヤーするには、方々の関係機関に問い合わせ、参加人数を予測してそれらへ予約もします。

計画を発表したのちも、参加された人に少しでも楽んでもらえるために下山後の楽しみを考えます。周辺の温泉であったり、打ち上げ反省会の場所などです。

新ハイキング関西（代表）石田 智敏

ニリンソウの咲く頃 －金剛山カトラ谷にて－

長田 英一郎

クリンソウ

ヤマシャクヤク

ニリンソウ線乱の道を行く

再び「ポンポン山」について

網本　逸雄

以前、この欄で「ポンポン山」を山岳宗教の山として紹介したことがある（第231号）。その時は神峰山寺のある摂津国側からの説明だった。同山は現在の高槻市と京都市の境界よりやや京都寄りにある。今回は山城国側から紹介してみたい。

ポンポン山は別名「加茂勢山」であることは周知だが、山城側にはこの山域についてふれた旧乙訓郡の小塩村（現京都市西京区大原野小塩町）ほか近郷各村の近世・近代文書などが幾つか残っている。

主に入会山として林野の利用を巡っての紛争（山論）や管理に関するものだ。入会とは近世から明治期にかけて存続した農用林野利用の一形態。一定地域の住民が特定の権利を持って一定の範囲の林野に入り共同用益（薪材・柴草・松茸などを採取）すること。薪炭の原料となる柴木採取、肥料となる下草刈りは稲作生産にとって重要な条件だった。

「加茂勢山」が初めて古文書に登場するのは、小塩村領の鳴谷山の山論に関する寛文九年（1669）9月7日の京都所司代ら公儀の裁許状（裁判の判決書）である。

鳴谷山は小塩集落周辺の山で、この山の用益権を巡っての争論が、小塩村と今里（現京阪三条）・井ノ内（同）・鶏冠井（現西京区）・上植野（同）四ヶ村の間で起こった。幕府は検使を遣わし裁定した。

裁許状によると「小塩村之奥かもせ山之麓は、白井、東土川、西土川、菱川、井ノ内、今里、鶏冠井、上植野、小塩此九ヶ村立会之芝山にて、互に申し分之無く候（異議ない）」なのに、つまり「かもせ山」という入会山があるのに、その内山である小塩村領の鳴谷山に四ヶ村が立ち入って山林を荒らすので難儀をしているという。裁定では、「（四ヶ村はこれまで通り鳴谷山の）柴草は刈るべし。立木は先規の如く小塩村支配と為すべし。四ヶ村一切伐り採るべからず」と四ヶ村の入会権が公式に確認され、以後明治まで二百年以上尊守される。

この文書にみるように、小塩村以外の旧乙訓郡近郷の村（現京都市南区・伏見区、向日市、長岡京市にまたがる）は平野部にあり、運上金（林業従事者に課せられた税）を払って、遠くの他村の領内や「かもせ山」まで、燃料や肥料として欠かせない柴草刈りに出かけていた。「かもせ山」「鳴谷山」の用益権はすでにこの頃形成され、おそらく中世以来の慣習として成立してきたの

随想（山のエッセイ）

だが、鳴谷山の立木・下柴草刈りなどの権利が未分化のままだったため争論が生じたのだった。

この時の裁許状には彩色の「鳴谷山山論絵図」が裏書きされている。中心部に「鳴谷山」が描かれ、山の中央東西に貫通する山道は西にずっとのびて、遠く離れてそびえ立つように描かれた「かもせ山」山頂に至る。山は緑色の草山として描かれ、まばらに立木がある。「小塩村よりこのかもせ山まで三十六町（約3・9㎞）」とある。「鳴谷山」と「かもせ山」の間は「善峯寺山」「三鈷寺山」と墨書され、その南は「摂津国山」「摂津国大沢村山」に接している。「かもせ山」は東南は摂津国山、北は灰方村山に接している。山の西側山腹から出灰川までは無地で「出羽（灰）村山」と記され境界が不明である。

争論の中心だった「鳴谷山」の境が朱で線引きされ確定しているのに比べて、乙訓の村々にとっては、乙訓側に見える山が「かもせ山」であり、反対の出灰村側とか摂津国山との境はあまり重要でなかったようだ。

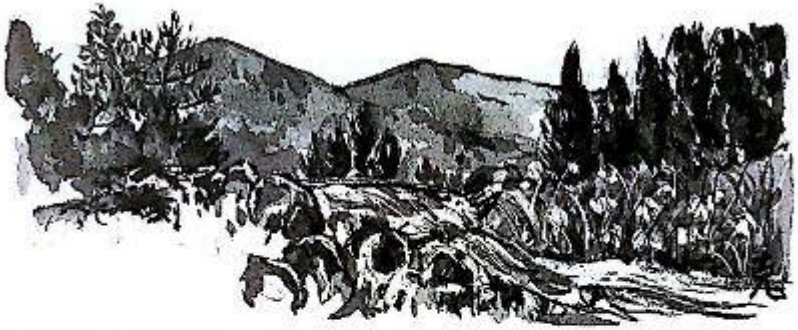
また、「鳴谷山」は土地・立木・柴草刈りの権利が確定されたが、「かもせ山」はすべてを含めて九ヶ村の共有（のちに若干変動）という用益権の未分化な山だった。このことが明治以降、再び紛争の原因になる。

文化七年（1810）鳴谷山で山崩れがあり、小塩村が「止山願」を土砂留奉行に提出し、三ヶ年の止（留）山が決定したが、困惑した今里・井ノ内・上植野・鶏冠井の四ヶ村は、柴草刈りは山留令（港山二年）に関係ないと「明け山願」を出し、「御柴勝手ニかき取候様」（小塩家文書）と許可された。

寛文裁許から二百十五年経った明治十七年（1884）、鳴谷山の入山を妨害したと、小塩村を相手どって井ノ内・今里・上植野・鶏冠井の四ヶ村が訴訟を起こす。

対する小塩側の言い分は、寛文の「御判文」通り、旧慣のごとく「鎌」で柴草刈り取るだけなら何ら差し支えないが、立木を伐採し割木を盗み不法に増長したからだとしている。さらに重要な収入源である「板告村ニ於テ営業ニ為シタル松茸ヲ取り荒シ」たからだと答弁している（「入山妨害ノ訴ノ答」同十九年三月、京都始審裁判所判事三浦峰高殿宛）。

当時小塩村の重要な収入源となっていた松茸などキノコ類も四ヶ村に採取権があるかどうか争われたわけだが、というよりこれが争いの主たる原因のようだが、同十九年5月に和解。「和解書」には、「百姓に「板告村於いては松茸、木ノ子、雑茸等自村一已ニ取り来り候証拠書類等差当り不十分ニ付」、つま



り「御判文」「裁許絵図」などに松茸についてふれていないので、原告四ヶ村には柴草刈りと共にキノコ類の権利も認められた。

この裁判ではまた、小塩側は「鴨谷山ヲ拒（距の誤りか）ル三十町（約3・3㌔）バカリ西当リ、字鴨瀬山ト唱ヘ近縁十一ヶ村立会伐木適宜タルヘキノ処（随意に伐採）、近来ミダリニ伐木シ山林荒シ」たので、明治十五年十一ヶ村が協議し、下芝草を刈るには鎌で十分なので斧鋸ナクなどを携えて入山することを禁止した。ところが、形は鎌に似せてナタより優れた刃物を持って伐木する悪習が広がり、明谷山にも及んだと答弁している。「鴨瀬山」の権利が未分化なので、乱伐による山林の荒廃を招いたのだった。

以後、各村は伐木の制限と植林を行い、山林保護に努めるようになる。その背景には明治政府がデレーケらを招聘して、田上山にみるようなはげ山の全国的治山工事を強力に推し進めたからだろう。加えて、明治の地租改正以後、農民保有地の私的所有権が認められたため、乙訓でも各村が「鴨背山」の持ち分を決め責任を持って山林管理をすることになる。

明治三十五年（1902）「鴨背山地上権設定ニ関スル規約。今般植林ノ目的ヲ以テ、鴨背山ヲ分割一（小塩町自治会所蔵文書）することが共有各村の協議によって決められた。

規約は▽植林の目的をもって各使用地は苗木を植え継ぎ、習慣だった立入濫伐は今後廃止▽植林の習用と収益は各分有村の負担または所得とする▽分割区域は互いに侵さないよう境杭を建て、建て替えの時は関係各村の立会を求めるなどを取り決めている。

ただ、規約では「乙訓郡大原野村大字小塩小字鴨背山第壱番地ノ壱　実測坪反別八拾九町六反九畝拾歩　内反別参反九畝弐拾歩　ポンポン山共有」と、文書では初めて登場したポンポン山が分割の対象から外された。「ポンポン山は加茂勢山の一番高い山頂のこと」（現地記井区長）で、現在の山頂と一致し今も共有山である。

江戸～明治時代を通じて加茂勢山は、村人の生活や生産に必要な自然の恵みを分け合う共有の山から、保護のため山林管理の山、山の分有と変化してきた。現在も分有地は鵜冠井・上植野など各区事務所が山林組合・植林組合を組織し管理している。

だが、「わしらが若い頃、三十年くらい前までは、植林や下草刈りをしていたが、今はやっていない」（自区長）ので、高度経済成長期頃の燃料革命以後、人手があまり入らない里山になってしまった。

最後に、「加茂勢山」の歴史

随想（山のエッセイ）

からすでにお気づきとおもうが、近世・近代文書では、山名は「かもせ」「鴨瀬」「鴨背」と様々だ。明治の地租改正に伴って同十四年（1881）発行されたこの柴草山の地券では、所在地が「小塩村加茂勢山字壱番地」だ。古文書にみる小字地名の漢字表記は当て字であることが多い。だから地名語源を「漢字解釈」から探る傾向があるが、実りある結果が得られるとは限らない。私自身も「ポンポン山」の由来は、今なお霧のなかである。

オランダ堰堤の築造年

柴田　昭彦

滋賀県大津市上田上桐生町にはオランダ堰堤があって、鶏冠山・金勝アルプスのコースガイドによく紹介されている。それらの記事を比較してみると、オランダ堰堤の築造年がまちまちであることに気がつく。どうして、このようなことになっているのであろうか。

〈明治5年説〉

・『角川日本地名大辞典25滋賀県』（285頁）（昭和54年）

〈明治6年説〉

・『大阪周辺の山200』（山と渓谷社、1985年、のちに『大阪周辺の山』に改題）

・『京阪神周辺ハイキングガイド』（JTBるるぶ情報版1-63、1989年、現在は『99～00関西ハイキング』に内容を継承）

・『京阪神ワンデイ・ハイク』（山と渓谷社、1992年）

〈明治8年説〉

・内田嘉弘『京都滋賀南部の山』（ナカニシヤ出版、1992年）

〈明治11年説〉

・友保深雪編著『京阪神ベストハイク&キャンプ30』（七賢出版、1995年）

〈明治15年説〉

・『関西ハイキングガイド』（創元社、1996年）

〈明治22年説〉

・『滋賀県の地名』（日本歴史地名大系25）（274頁）（平凡社、1991年）

以上のように、六つの年代が見られ、混乱している。

真相を確認するために、『新修大津市史10年表・便覧』（昭和62年）を調べてみたところ、明治十一年の項目に、「この年、通称オランダ堰堤が、政府のお雇いオランダ人技師デレーケの指導により築造されるという（『滋賀県の砂防』）」とあった。

『新修大津市史5近代』（昭和57年）には、「政府は（中略）明治五年十月、（中略）甲賀郡長野村（甲賀町）・雲井村（同前）、栗太郡上田上村に、水源砂防工事を起こしたのである。（中略）工事は翌六年竣工し、同七年から同十年の間も（中略）継続工事が行なわれた。明治十一年に

は、内務省土木局のお雇い外国人デレーケの指導で工法を改良し、土木局と滋賀県の立会施工、同十五年からは土木局のみで工事を施工した（『滋賀県の砂防』ほか）とある。また、写真の説明には、「この堰堤も彼の設計で、明治11年築造と伝え、オランダ堰堤と通称されている」とある。しかし、『滋賀県の砂防』（滋賀県、大正九年）を調べても、オランダ堰堤の築造年は見当たらないのである。

『日本砂防史』（全国治水砂防協会、昭和56年）によれば、エッセル、チッセン、デレーケの三工師らの来日は明治6年9月から10月にかけてのことである（133頁）。デレーケは、明治8年3～6月に木津川支流の不動川水源で、自ら考案し、後に「デレーケ砂防」と呼ばれた各種の試験工法を実施している（441頁）。同書には、「この時期の代表的な構造物は、大戸川支川天神川の鎧ダムおよび明治15年（1882）につくられた草津川上流のオランダ堰堤である。これらはいずれも明治22年（1889）に完成していてデレーケの指導によるものとされているが、設計者は田辺義三郎技師と記録されている。」（442頁）とあり、オランダ堰堤の築造について、明治15年と同22年の二つを示していて奇妙に感じられる。

設計者とされる田辺義三郎は、内務省大阪土木局二木局長・四等技師（『新修大津市史5』306頁）で、明治17年2月には、デ・レーケと共に琵琶湖疏水工事の調査を行なったことが、『近江を築いた人びと　下』（滋賀県教育委員会事務局文化財課、平成四年）の「デ・レーケ」の章（村上康蔵執筆）に見える。その中で、村上氏は「田上山砂防工事の記念碑的存在として、明治二十二年完成のオランダ堰堤や鎧ダムがある。前者は大津市の史跡に指定され、最近は日本の産業遺産三〇〇選にも選定されている。これらはデ・レーケの指導によるものとされているが、現在のところ確証は得られていない」と述べている。どうやら、築造は明治22年のようである。

現地のオランダ堰堤のそばには、大阪営林局大津営林署が平成八年三月に立てた説明板があり、次のように書かれている。

「オランダから砂防工事の技術者ヨハネス・デレーケ氏を招いた。ここに現存するえん堤は、明治十五年同氏の指導の下に作られた割石積えん堤で、わが国最古のものとして、現在もなお働き続けているところから生きた遺跡ともいわれ、通称オランダえん堤と呼ばれている。」

デ・レーケ（1842～1913）は明治六年に来日し、三十六年の帰国まで、河川の改修と築港、砂防工事の企画・設計の

随想（山のエッセイ）

指導に従事し、日本に徹底した治山重視の治水思想を導入したとされる（村上氏「デ・レーケ」）。

明治三十六年の離日までに指導した堰堤は四十に近い数であるという（芝村文治「草津百山三角点を行く　上」86頁、かもがわ出版、1992年）。

『デ・レーケとその業績』（建設省中部地方建設局木曽川下流工事事務所、昭和60年）は、信頼できる資料に基づいた、詳細な研究書であり、その中に「オランダ堰堤は、明治22年（1889?）、デ・レーケの指導、田辺義三郎の設計によって築造された」とある。

『淀川百年史』（建設省近畿地方建設局、1974年）によれば、オランダ堰堤のある草津川流域で政府の直轄砂防事業が始まったのは明治21年のことである（1577頁の表を参照）。

『日本の砂防』（全国治水砂防協会、平成2年）には、「草津川は、明治16年、地方費をもって砂防工事に着手し、同21年には直轄事業となった」とある。これらの事実は『滋賀県の砂防』にすでに記載されており、『新修大津市史』の執筆者はオランダ堰堤が草津川流域にあることを見落としているように思われる。

大阪営林局大津営林署が発行している『国有林　治山の森ふれあいマップ』（平成5年）には、オランダ堰堤は明治11年完成とあり、『兵庫神戸ストハイク&キャンプ30』の解説の出典となっているが、一方、現地の案内板には明治15年完成とあることは先に紹介した通りである。この点について、大津営林署におたずねしたところ、次のような返答を頂戴した。

「工事記録台帳に、オランダえん堤の記録がなく、文献により記述が異なる原因と考えられます。なお、当署が過去に調査した報告書によれば、明治21年に草津川流域の直轄砂防事業が開始され、明治22年に完成されたとあり、これがほぼ正しいものと思われます」

かくして、通称「オランダ堰堤」が明治22年に完成したことが確定する。設計者は田辺義三郎技師である。オランダ人技師デ・レーケの指導を受けたと伝えられているが、明確ではない。通称はオランダ人による設計と誤解させやすく、日本人技師の業績を軽視している。

以上のことから、明治5・6・8・11・15年といった年代は誤りであることがわかるが、いずれも政府の砂防事業やデレーケに関係のある出来事の年代であるので、資料を十分に吟味できなかったために生じた誤解と考えられる。

本誌12号の綱本氏の随想は精確であり、オランダ堰堤は明治二十二年完成と明記している。

地味な山域が華やぐ時

台高山脈中部縦走

松田敏男

台高

わが会の岩井さんが、月例会で「ゴールデンウィークは台高に行きましょう」と言った時、行き先のもの足りなさで私はうれしい気分にはなれなかった。これまでこの期間と言えば、笈ヶ岳（石山北方）、三峰三山・畳沢岳・双六岳（以上北アルプス）、白見岳（南アルプス）など、ピッケルとアイゼンを使って雪稜を登るというのが定例になっていたからだ。

私の思惑など全く意に介せず、岩井さんは熱っぽくこう繰り返した。

「アケボノツツジがきれいやで。馬ノ鞍峰のアケボノツツジはええで。アケボノツツジが過ぎていたらシャクナゲや。もう最高やで」と。花の好きな岩井さんとの山行ではこれまでに何度も美しい花爛漫の世界に出会えているから、そして心底山の好きな人の言葉というのは聞いている者をその気にさせてしまう力があるようで、岩井さんの押しの一手で台高山脈中部縦走に決まった。

久しぶりに4日間の休日が巡ってきたのに、1日残した2泊3日というのは少し残念という気持ちもあったが、車に乗せてもらう身でもあり、5人もの参加者が集まると自然に山行も楽しくなるから、単独で別のどこかへ行こうという気にはならなかった。

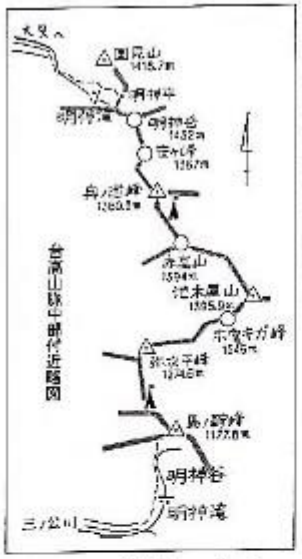
コースは三ノ公川明神谷出合から馬ノ鞍峰に登って北上し、池木屋山を通って明神平まで行き、大又へ下山するという計画だ。縦走なので、まず下山口の大又へ車二台で行き、岩井さんの車に5人全員乗って三ノ公川明神谷出合へ向かった。メンバーは他に時高さん、田辺さん、西村さんである。

池木屋山の登山道

明神谷沿いの道を歩きだしてしばらくのち、右手に明神滝への分岐があった。それまで杉の植林が続いていたのでたいして期待していなかったが、ちょっと立ち寄ってみることにした。予想に反してなかなか立派な滝だった。今回の山行の大又下山コースにある同名の滝よりも水量があって迫力がある。滝の付近だけは太い幹の広葉樹が残されていて風情がもった。

三ノ公川上流の明神滝

分岐に戻って、また単調な植林のなかを登る。谷が二股になっている平坦な所で迷いかけたが、少しは人の歩いている道なので、すぐにはっきりとした道に戻ってジグザグに登り始め、谷から離れていった。



いよいよ待望の明るい尾根に出た。暗い植林とはこれでお別れである。落ち葉の降り積もった尾根は歩きやすく、その足元の薄茶色に日差しを通した若葉の緑の絵が重なって、安らぎ感いっぱいの尾根道になっている。樹間には白髭岳が望見できた。

先頭の岩井さんが叫んだ。

「左の斜面に赤いものが見えるで」

後ろ4人は岩井さんの指す方向に目を凝らした。

「まだ蕾のようやな」

「アケボノツツジには間違いないで」

「この標高で蕾やったら、上はまだ咲いてへんな」

5人の間隔はそれほど離れていないのに、樹間にこだまするほどの元気な声が飛び交った。たとえこの先咲いていなくても、この樹林の雰囲気がたまらなくいい。

馬の鞍峰の最後の登りにかかった。ちょっとした登りで頂上に着く。この山は地味な山域の中であっても、特に耳にしない山名と言えるのではないだろうか。しかし、頂上の風情はすばらしかった。ツガ・ブナ、そしてヒメシャラなどの大木の姿に心を奪われたのである。

頂山より北に直角に曲がり、初めてのくだりが始まった。枝ぶりが古木ならではの厳粛さと優しい表情を併せもつ。そんな木々のなかを埋もれるように尾根を進む。私は開放的な気分に満ちてきた。目の前に次々現れる古木たちの、太陽や雨の恵みを受け、また風雪の辛苦に耐える長い年月を重ねた経験から発散する、深い含蓄のある大哲人のような佇まいに、私はただただ身を小さくするばかりだった。己れの弱さを全部解放して静かに小さくなれる喜びに浸れたのだった。

「今度は咲いてるで」、先頭を歩いていた岩井さんがまた大きな声で叫んだのに導かれて、アケボノツツジとのご対面にみんなその斜面へ向かった。今度は少し咲きかけている。葉がほとんど出てなく花の密度が高いから、豪華な見映えの

する花だ。大きい木が多いぶん地面が広々と見え、落ち葉が一面に敷きつめられた上にツツジが点々と咲いている。まさに自然公園といった情趣に満ちている美しい尾根だ。

エアリアマップ（昭文社）に水場マークが記されていない1166㍍地点から西へ行って北へおりた所が、きょうのテント場である。この時期に水が流れているかどうかを、リーダーの岩井さんは役場に問い合わせて確認しているので一応安心なのだが、こんな丸っこい尾根からすぐの所に水場が本当にあるのだろうかと、自分の目で確認するまで少々気がかりだった。

テントが張れそうな平坦に近い所が点在している広い尾根に着いた。意外にも三張の先客があった。こんな地味な山域に、これだけの人が集まっているとは。どのテントからもある程度距離を置いた所を選んで張る。目の前にはハッとするほど美しい色のミツバツツジが、夕方の色になりつつある光を受けて妖艶に浮かび上がっていた。西側の斜面にもアケボノツツジがそこここに、まだ蕾の状態に近かったが咲いていた。水場への道は幾重にも積もった落ち葉を踏みしめるしっとりとした道だった。

夜はコノハズクが一定の調子で数時間鳴き続けていた。私はまだ鳴き声に著しい特徴のある鳥しか判らないので、朝のさざめきをどう表現したらいいか。いろいろな鳥の鳴き声と共に明るい朝がやってきた。

きょうも美しい樹相の尾根を進む。とメシャラの大木の枯れたのが林立している場所は独特の風情があった。小さなピークに立つたびに池木屋山の三角形が楚間に大きく見えるようになってきた。ホウキガ峰まで来ると、前方には複雑な尾根がなくなり、これから進むたわんだ尾根の向こうには何もさえぎるものがなく、池木屋山を大きく望むことができた。雲が暗くたれ込み始め、写真には美しく撮れない状態になっていたが、すっきりとした山容が美しかった。

この登りの尾根がまたすばらしかった。丈の短かいササがじゅうたんのようにやわらかに敷きつめられていて、大木が間隔を大きく開けて亭々と立っているなかを、どこでも好きに登って行ける広い尾根だった。花は全くないので本当に地味な光景なのだが、奥深い台高山脈のなかでも最高に深みのある美しい所だった。

池木屋山は以前宮の谷から往復している。さして抜きん出た高さではないのだが、谷沿いの道といい、迫力のある山だ。頂上では谷沿いから往復する登山者が10人ばかり憩っていた。私たちもその一角に坐って昼食にした。樹林に囲まれた地味な頂上だったが、心やすらぐ温かな風情があった。

北へ下山を始める。樹林は粗い木が多くなり平凡になった。小さな浅い池の横を通って徐々に高度を下げていく。伐採の手が深く入っていて樹相は単調で浅い。西側の山腹から木を伐るような機械音が聞こえてきた。高度が低いからひとつ尾根を変えるだけで、深山から伐採の里山に変わる。

赤崖山付近は赤茶けた土が露出して植林は殺がれていた。そのぶん見晴らしはよくなっていて、きょうのテント場の沢が遠望できた。枯いた石で埋まっているように見え、きょうも不安になる。岩井さんが役場に問い合わせて、水は溜れていないという確証はあるのだが。

北へ方向を変えてくだって行くほどに

樹相が落ち着いてきて、エアリアマップの水場マークが近づいてきているように思えた。下草の薄い踏み跡を伝って東側へくだって行くと、流れがあった。今夜の水が確保できてホッとする。テントの張れそうな所を求めて対岸を川沿いに上がって行った。1時間程前に遠望した乾いた石が点在している大斜面を登っているのだが、どこにも6人用テントを張る平地がない。樹林帯に川が入っている

1泊目のテント場にて

手前で流れを渡り返して戻って行くと、対岸からは見づらい所に広場があって焚火の跡も残っていた。

テントを張って食事が済む頃にはポツリポツリと雨になった。寝てしまうほどに酔ったあとなので、幸せな気分でシュラフに入る。静かな流れの音を聞きながらグループで夜を明かすテントというのは何と心なごむことか。自然はすべての人に心の角やかげりを溶らかにしてくれる。気にかかることといえば、寝入る時間が早過ぎ、また寝心地がいいので熟睡できるぶん、夜明け前に早く目覚めてしまうことぐらいである。

家の定、暗闇のなかでコンロに火をつけて夜が明けるのを待つ人が出現したが、そんなこともできるように雨はやんでいた。用を足しに踏み跡を登るとほんの少しで尾根道に出てしまった。水場を示す標識もある。地形や現在地などを深く考えない人のほうが、たやすくテント場にたどり着けそうで、少々拍子抜けした。

10年前に明神平より往復したことのある奥の迷峰を過ぎ、しっとりとした樹林の笹ヶ峰を越える。そしてこの山行の、またこの山域の最高峰でありながら単なる通過点のような明神岳を通り、広々としたササの大斜面の明神平へとくだった。

何度か通っている明神平から大又へおりる道は、明神滝を見る地点あたりまでは以前と変わりなかったが、その下方は昨年の台風による倒木で荒れ果てていた。倒木をまたいだりくぐったり、時には倒木の上を伝ったりしながらくだった。林道に出ても対岸の斜面や沢の中は荒れるにまかせたままという状態だった。杉の植林のもろさを露呈していた。

大又の少し下流の「やはた温泉」で汗を流したかったが、若巻えは登山口に駐車してある岩井さんの車の中にあるので、国道370号線まで出て、岩井さんが車をとりに行くのを待った。その間に付近の温泉を探したが適当な料金の温泉がなかったので、あきらめてそのまま帰った。

（平成11年5月2日～4日歩く）

△コースタイム▽

三ノ公川林道明神谷出合（5時間）1泊目のテント場（7時間）2泊目のテント場（3時間30分）大又林道終点

△地形図▽

昭文社『「大台ヶ原・大杉谷・高見山」

南アルプス

南アルプス深南部
不動岳と鹿の平

金谷　昭

一昨年、南アルプス深南部の黒法師岳へ登山した時、浜松市からの単独行の人に出会い、黒法師岳の北にある不動岳とその直下にある鹿の平のすばらしさを聞いた。彼は自分の死後、この鹿の平に散骨するよう家人に遺言を認めているほどに惚れていて、毎年通いつめているそうだ。その時彼から不動岳と鹿の平への熱心な誘いを受けたが、私の目標が黒法師岳の登頂の由、辞退したものの、次の宿題となってしまった。

そして、不動岳の登頂は昨年4月末の連休に実現した。好天に恵まれたこともあったが、不動岳と鹿の平のすばらしさを満喫し、彼が惚れたのもむべなるかな、の感を覚えた。

この「鹿の平」は、近くの丸盆岳の「かもしか平」、池口岳と知冠山間の「笹の平」と並ぶ南アルプス深南部の秘境として挙げてもよいだろう。この山域での私の少ない踏査経験ながら、賛同される人も多いと思う。

東名高速道を浜松インターで降り、一路秋葉街道（362号線）を水窪へ車を走らせた。水窪ダムを経て戸中林道の中小屋作業所のゲート前に車を置き、作業所前の広場にテントを張った。

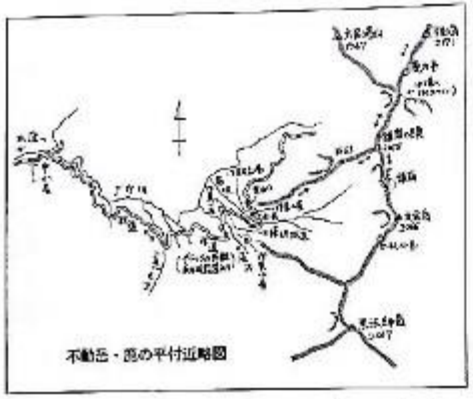
夕暮れに奥から作業用車が降りて来たので、明日の作業とゲートの開門の有無を訊いたところ、残念ながら作業はなく開門しないとのこと。もしかしたら登山口まで車で乗り入れられるかもと期待したが、登山に甘えは禁物、林道をテクることになった。

鎌崩の頭から不動岳と直下に鹿の平を見る

宵の口は不動岳への期待からか少し興奮気味で寝つかれず、逆に明け方に熟睡してしまった。夜明け前の出発予定だったが、うっかり寝過ごし、目覚めた時には空はすっかり明かるくなっていた。

登山口までの林道歩きは標高差約500m・距離約7kmと、かなり急勾配のために約2時間はたっぷりとかかると考えていた。が、林道はよく手入れされていたので時間短縮できた。よく手入れされていると言っても至る所に落石防護ネットが設けられ、そのネット内には今にも落ちそうな岩石が詰まっていた。荒天の際には落石に注意が必要である。

南アルプス深南部の豊富な森林資源の開発と林業振興のためとはいえ、伐採後の植林が不可能な急傾斜地に設けられた林道は、やがて山崩れを伴い早晩荒廃するのは目に見えている。黒法師岳登山口への日蔭沢林道はすでに荒廃が著しく、その典型であろう。


不動岳・鹿の平付近略図

その日蔭沢林道の分岐を右にやり過ごし、発沢を渡り10分程歩くと、作業用広場のある道幅の広がった所に登山テントが一張あり、その山側に不動岳への登山口があった。登山口の手前には水場と作業小屋があるが、この水場は不動岳への最後の水場でもあった。

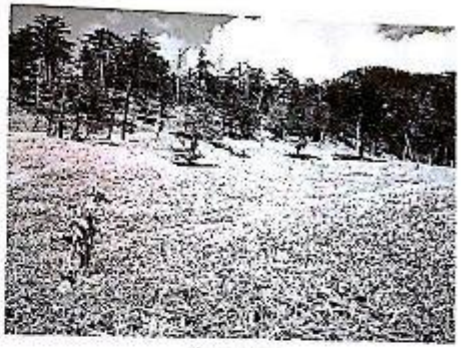
取りついた所は鎌崩の頭からの尾根の末端の急な斜面の伐採採地。登山道はジグザグに付けられているが、浮石が多くて滑りやすく、コース中最も危険を感じた所であった。この伐採地を抜けると杉の植林帯に入って行く。スリップの危険はなくなったが、風通しが悪く一汗かかされる。取りついてから30分程で尾根稜線に飛び出す。これより杉林のなかの背丈を超えるササのやぶ漕ぎの急登となる。ササをかき分けると、足元にはほっきりとした踏み跡があり、忠実にたどればよいが、両手を使っての苦しい登りとなった。15分も登ると原生林に変わってきたが、ササのやぶ漕ぎに続き見通しはきかない。結局このやぶ漕ぎからは鎌崩の頭の手前まで解放されなかった。

尾根途中の1863m標高点手前の大きなガレが稜線左側に現れると、ブナ等の原生林を透かして黒法師岳や丸盆岳等、付近の山々が見え隠れする。鎌崩の頭に近づくと、やっとササも低くなるが踏み跡が多少乱れている。登りはよいとしても下山時は要注意だ。

暗い原生林の苦しい登りからいきなり明るい稜線に飛び出すと、そこに「鎌崩の頭」の表示板が樹木にかかっていた。

主稜線は鎌崩へは樹林帯となっているが、これから向かう不動岳へは膝までのササを敷きつめた明るい疎林で展望も開けている。ドーム状の不動岳の手前には、心はやる秘境「鹿の平」がまるで芝生を敷きつめたような平坦地となって広がっている。戸中川側はすっぱりとガケとなって落ちている。

小休後、勇躍不動岳へ向かう。いったん鞍部にくだり、登り返すと鹿の平である。浜松の人の言うように中学校の運動場の広さはあろうか、水は涸れているが、



鹿の平

中央にヌタ場のある隊までの低いササ原が広がり、所どころに疎林を配している。美しい山上庭園である。

ここで登山口のテント泊の2人の登山者と出会った。共に20歳前半の横浜の青年で、最近中高年層が多い登山にあってめずらしかった。いっしょに休憩をとり、楽しい山談義がはずみたちまち意気投合した。不動岳山頂へは彼らと同行する。上空は晴天、寸又側はガスがかかっているが、動きは早く晴れていく気配だ。疎林とササ原のなかの踏み跡をたどって行く。頂上近くになると白い枯れ木が多くなり、四国の瓶ヶ森山頂の景観を呈してきた。

登り着いた不動岳（2177㍍）山頂は3等三角点標石を中央に置く背の低いササ原で、ササというより芝生に近いほどで、どこに坐っても360度の展望が得られる。

北には残雪に光る上河内岳と光岳、それより西に加加森山、それとはっきり分かる双耳峰の池口岳。西には遠く聖岳と荒那山が、東には山頂にガスがかかっていたが、奥寸又の山々がどこまでも連なっていた。とりあえず彼らと缶ビールで乾杯。少し早いが昼食にし、好天の山頂でのすばらしい展望に山登りの至福のひとときを過ごした。

立ち去り難い感慨を胸にいだきつつ下山。帰途の鹿の平の景色を十分に目に焼きつけた。再訪したいが他に登りたい山も多く、二度とは来られないだろう。鹿の平を何回もふり返りながら鎖崩の頭に戻った。

下山道との分岐を過ぎ、鎖崩のキレットの偵察に行ってみる。キレットには寸又側をかなり下降するトラバースルートが付いているのを確認し、再び分岐に戻って尾根道をくだる。

林道まではずれ道の登山者はなかったが、登山口からの林道歩きの途中に出会った登山者は四グループあった。いずれも黒法師岳をめざす者ばかりであった。

不動岳と鹿の平はもう少し登られてもよいのではないかと思う一方、やぶ漕ぎ派の聖地として、いつまでもこのままであって欲しいと思ってみたりもした。

たどり着いた林道ゲートは朝から開けられた気配はなく、登山者の車が数台駐められていた。

（平成11年4月29日・30日歩く）

△コースタイム▽

戸中林道中小屋ゲート（1時間40分）登山口（2時間30分）鎖崩の頭（35分）鹿の平（45分）不動岳（35分）鹿の平（35分）鎖崩の頭（1時間50分）登山口（1時間30分）中小屋ゲート

△地形図▽2万5千1寸又峡温泉

○コース途中は道標なし。テープもわずかで登山者向き、初級者は熟練者と同行すること。

屋久島　宮之浦岳と縄文杉
◆出発日：5月25日(3泊4日) ◆¥124,000

利尻山と礼文島ハイク
◆出発日：6月16日・23日・30日
7月7日・13日（3泊4日）
◆¥124,000

雲取山と両神山縦走
◆出発日：5月26日(2泊3日) ◆¥68,000

石鎚山縦走と東赤石山縦走
◆出発日：5月26日(2泊3日) ◆¥39,800

尾瀬ハイキング
◆出発日：5月26日(2泊3日) ◆¥48,800

霧島連山縦走と開聞岳
◆出発日：5月26日(2泊3日) ◆¥82,000

久住山・大船山・由布岳
◆出発日：6月2日(2泊3日) ◆¥77,000

花の浮島　礼文島縦断
◆出発日：6月9日(2泊3日) ◆¥132,000

富良野岳・芦別岳・アポイ岳
◆出発日：6月22日(3泊4日) ◆¥128,000

浅草岳と守門岳
◆出発日：6月23日(2泊3日) ◆¥74,000

羊蹄山とニセコアンヌプリと樽前山
◆出発日：6月23日(2泊3日) ◆¥89,000

夕張岳と暑寒別岳
◆出発日：7月1日(3泊4日) ◆¥129,000

荒島岳と赤兎山
◆出発日：7月1日(1泊2日) ◆¥32,000

早池峰山・秋田駒ヶ岳・八幡平
◆出発日：7月1日(3泊4日) ◆¥119,000

大雪山縦走と愛山渓
◆出発日：7月7日・13日(3泊4日) ◆¥129,000

沼ノ原～トムラウシ
◆出発日：7月12日(3泊4日) ◆¥142,000

羅臼岳～硫黄岳縦走
◆出発日：7月13日(3泊4日) ◆¥162,000

尾瀬全周と至仏山
◆出発日：7月14日(2泊3日) ◆¥79,000

大雪山　北鎮岳とコマクサ平
◆出発日：7月14日(3泊4日) ◆¥129,000

羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳
◆出発日：7月14日・21日、8月4日(3泊4日)
◆¥152,000

初心者のための
カナディアンロッキーとナイアガラの滝
◆出発日：6月11日(8日間) ◆¥428,000

花のピレネー登頂&ハイキング
◆出発日：6月14日(9日間) ◆¥458,000

カナディアンロッキー
憧れのアイニボインロッジ泊ハイキング
◆出発日：6月25日(9日間) ◆¥448,000

初心者のための
スイスアルプスハイキング
◆出発日：6月29日(12日間) ◆¥498,000

高山植物咲き乱れる
大姑娘山　登頂
◆出発日：7月1日、8月5日(11日間) ◆¥358,000～

エーデルワイスの五台山
フラワーウォッチング
◆出発日：7月6日(6日間) ◆¥208,000

花のツール・ド・モンブラン
◆出発日：7月6日(9日間) ◆¥438,000

お申し込み・お問い合わせ 運輸大臣登録旅行業第1366号 (社)日本旅行業協会 ボンド保証会員
アミューズトラベル(株) ☎06-6456-3366
〒531-0001大阪府大阪市北区梅田1-1-3第3ビル7F FAX 06-6456-3377

「万葉集」歌枕紀行

三瓶山と浮布の池

石見

木村太郎

大阪を発ち三瓶山へ

『万葉集』を代表する歌人柿本人麻呂の出身地は、柿本一族の本拠のあった大和国添上郡櫟本（天理市櫟本町）とされている。一説では人麻呂の生国を石見国だとみる考えもあるが定かではない。一方人麻呂の終焉地は、万葉集に「人麻呂、石見国に在りて死に臨む時」の辞世の歌があるため、石見で没したことが通説となっている。

鴨山の岩根しまける我をかも
知らにと妹が待ちつつあらむ
（巻二―二二三）

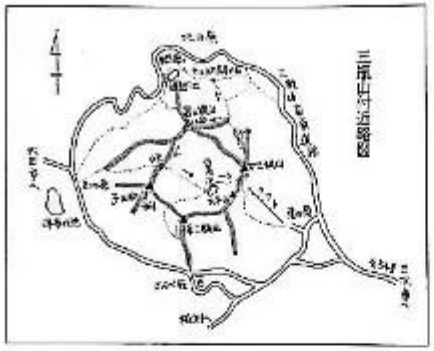
斎藤茂吉は幾度かの踏査を重ねて、島根県湯抱温泉にある鴨山を人麻呂が生涯を閉じた場所と結論づけた。かねがね私はその鴨山を訪ねてみたいと思っていた。山仲間の信田君を誘って三瓶山へ登った後に、鴨山の地を訪れるという計画を立てた。史跡探訪を愛好し我流の歩きをする私と違い、信田君は山を愛し自然を愛する純粋な岳人である。登山歴二十年の彼は三瓶山へ西の原を起点に十五年前に登っていた。

彼は愛車で大阪の平野区を未明に出て、私が住む千里ニュータウンへ迎えに来てくれた。午前3時半を過ぎた頃に出発。中央環状線を走り、池田インターから中国道に入った。彼お気に入りのカセットを聴きつつ、少しずつ白み始めるハイウェイを突っ走る。車のハンドルを交代で握り、休息を取り合って三次インターをめざした。三次から出雲街道へ降りて北上、三瓶山高原道路へと向かった。朝がほほ笑み始めていた。

三瓶山北麓の北の原に着き、国立「三瓶青年の家」近くに車を駐める。すぐさま登山靴に履き替えザックを背負って歩きだす。信田君と山を登る時は、いつでも私が前を歩く。なぜなら背の高い彼が先を行くと、年上で足が遅い私のほうは置き去りにされかねないからだ。

三瓶山北麓の浮布の池より三瓶山

三瓶青年の家からの道に入り、三瓶山北斜面の自然林のなかを進む。低木の繁るマント群落と草類の繁るソデ群落を通る。この道は自然観察路らしく、所どころに解説板が立ち植物名札を付けた木々も目につく。中腹にかけてはシデ林が広がり、中腹から頂上にかけてはブナ林の道が続いている。



男三瓶山と女三瓶山

風が吹き抜ける頂上直下の草原には、黄金色をしたのマノアシガタが咲き群れている。夏になればオオバギボウシが群生し、秋にはススキの野面に模様が変わるという。金鳳花の花を刺繍した緑の絨毯を越えて、男三瓶山（1126㍍）の頂上に立つ。整地された台地状の山頂を見渡して、昔に登った印象と違っていると信田君は首を傾げている。

山頂の小祠に掌を合わせ、山頂の展望所へ廻った。山からの眺めは霞のベールがかかって遠望はきかない。但馬大山も隠岐島も見えなかった。かすかに淡く北方に日御碕沙質海岸と、島根半島の西端日御碕までの海岸線が見えていた。

『出雲国風土記』によれば、この三瓶山は古くは佐比売山と言われていた。国引き神話で、八束水臣津野命が新羅の国から杵築の崎を引いて来た時、この山を捷え杭にした。眼下に弓なりにのびる海岸線は、崎と山とを結びえていた綱のようにも見える。

出雲と石見との国境の空の下、1等三角点のある山頂で、私は人麻呂の羇旅歌に思いを馳せていたのだった。三瓶山の西麓に浮布の池と名がついた山湖がある。石見を旅した時の、この浮布の池を詠んだ歌一首が柿本人麻呂歌集に残されている。

君がため浮沼の池の菱摘むと
我が染めし袖濡れにけるかも
（巻七―一二四九）

昔に天から三つの瓶が降ってきた。その一つは三瓶山に鎮まり、一つは麓の浮布の池に沈んだと、佐比売山神社の社記に伝えられている。天から降った瓶とは、火山の噴出物を象徴的にたとえた話なのだろう。この三瓶山はトロイデ型の山容を特色としている。はるか昔に錦状の山塊が噴火した時に、せきとめ湖が形成されて、三瓶山の分身でもある浮布の池ができたのであろう。

男三瓶山の南斜面のガレ場の横を通り過ぎ、子三瓶山に向かって急下降する。峠までおりて子三瓶山への登り返しをあきらめ、東の道を選んで樹海のなかに入っていく。自然が造形した迷宮のような室内池のまわりには、東の原からリフトで来た観光客も集っていた。孫三瓶山の高みへ親愛の気持ちを伝える会釈をして、火口湖のような室内池を後にした。峠の休憩所まで出て、すり鉢状の室の内の池

を眺め直してから女三瓶山へ向かった。

マイクロウェーブの塔が立つ女三瓶山に着き、男三瓶山をふり返る。その堂々たる山容を目の当たりにして、一つの目的を果たした感慨で満たされる。南の方向を望むと、広大な中国山地の山並が続いている。その中に明日ピストンで登る予定の奥出雲の琴引山と大万木山を見つけ出した。

高き天空より山の稜線の端まで、5月の陽光が降り注いで明るかった。明日の好天を保証するかのような晴れ渡った四方の景色に勇気づけられる。何の憂いもなくやせ尾根をたどって、出発点の北の原に戻ることにした。

浮布の池と鴨山公園

北の原におりて三瓶自然館の裏手に廻り、カキツバタが群生している姫逃池へ足を向けた。そして山陰道の歌枕の地を見定めるために、市で高原道路を西へ周回して浮布の池へ寄ってみた。池畔越しに三瓶山を眺められる場所に、浮布の池を詠んだ人麻呂の歌碑が碑文も新しく建っていた。

石見国府の役人であった人麻呂は、石見各地の巡察の途中に三瓶山の麓を歩いていたのだ。この付近を通る中国自然歩道は姫逃池から浮布の池を結び、さらには湯抱の地へとのびている。

斎藤茂吉は昭和十二年1月、湯抱を訪れて鴨山を実地に踏査している。昭和十四年5月再訪した時に、ここ浮布の池に立ち寄った。昭和五年から18年間をかけて、茂吉は七回もの鴨山探索の旅を試みた。その時々に詠んだ紀行歌が残されている。

佐比売山その高原と鴨山と
人かよひけむことをおもはむ
（斎藤茂吉「鴨山」より）

人麿が国府をいでて佐比売山の
原に誰かと俺せりけめ
（斎藤茂吉「浮宿池」より）

姫形図上に道は記されているものの、三瓶山高原から湯抱へ歩いて行く時間の余裕はなかった。とにかく今晩の寝ぐらを確保しなければと、予約しておいた国民宿舎「さんべ荘」へ向けて信田君は車を発進させた。宿舎は三瓶山の南麓温泉街の近くにあった。

宿泊の手続きを済ませ部屋にザックを置くと、夕食までの空き時間を湯抱へ向かうことにした。江の川の支流らしい川沿いの道路を進み、特徴に出て大田市へ通じる国道375号線を走行し、斎藤茂吉鴨山記念館に着く。そこで鴨山公園への道順を聞いて、丘の上に建つ茂吉の歌碑と対面できたのだった。

人麿がつひのいのちををはりたる
鴨山をしもこと定めむ
（斎藤茂吉「湯抱」より）

茂吉歌碑のそばには木柵が設けられ、鴨山の位置を指し示している。果してこのような山峡のひなびた土地で、人麻呂は最後の時を迎えたのであろうか。石見銀山と同じように、このあたりには今も鉱山の跡があちこちに残るという。タタラの噴分に来て病にかかった人麻呂は、湯が湧く湯抱の地で療養していたと想像することもできる。

人麻呂の終焉地鴨山については、柳原猛氏の石見鴨島説、土屋文明氏の大和高城連山説など諸説がある。だが茂吉歌碑に対面する時、探索の果てに湯抱村字鴨山を、人麻呂万葉歌の鴨山だと確信した茂吉の大いなる情熱をうかがい知ることができた。

この鴨山は杉と檜におおわれた平凡な姿をした低い山で、登山道も付いていない。何の変哲もない鴨山だが、旅に病んだ人麻呂には、妹（妻）と別れた、あの旅立った日の高角山がダブって見えたのかも知れない。

石見のや高角山の木の間より
我が振る袖を妹見つらむか
（巻二―一三二）

従者の知らせで人麻呂の死を知らされた妻依羅娘子は、夫が没した地の光景もわからないままに、悲傷なる挽歌をつくっている。

今日今日と我が待つ君は石川の
貝に交じりてありといはずもや
（巻二―一三四）

鴨山のそばの女良谷の水岸で茶毘にふされ、人麻呂の魂は蛭となって流れた。海の貝殻に赤川底の砂になったのか、逝き去った遠い時代のことで真相は知りようもない。ただ、今に残された人麻呂の石見相聞歌によって、人麻呂と依羅娘子ふたりの愛の絆を知り得るだけであった。

（平成11年5月29日歩く）

◇コースタイム◇

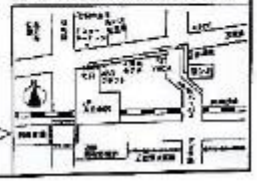
三瓶青年の家駐車場（1時間15分）男三瓶山（30分）峠（20分）室内池（25分）峠の休憩所（30分）女三瓶山（1時間）三瓶青年の家～姫逃池（車10分）浮布池（車10分）国民宿舎さんべ荘（車45分）鴨山公園（車45分）国民宿舎さんべ荘

◇地形図◇

2万5千＝三瓶山東部・三瓶山西部

◇問い合わせ先◇

大田市役所　0854(82)1600
三瓶自然館　0854(86)0216
斎藤茂吉鴨山記念館　0855(75)1070

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
毎ハイの会員証で更に割引します。


山とスキーのヨシミ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(6772)7231

日本山岳会の山岳傷害保険のご案内
◎北海道保険料　3千円（「平和」中途加入同額。）
◎山岳行動警察の適用不可。
◎保険内容　①遭難捜索救助費用　300万円。
②死亡・後遺障害保険金　300万円。
③登山ハイキング行程中の第三人賠償責任保険1億円。
山登りのリスクを社団法人日本山岳協会が山岳傷害保険がバーします。山でのケガや事故、病気の場合の捜索や救助には、莫大な費用（ヘリコプター代は100万円以上の場合あります）がかかります。
上記内容の保険は、原則18歳から65歳までの方のハイキングや登山が対象で、個人行動にも適用され、海外旅行中での病気にも対応します。但し、冒険、岩、雪登り等は対象外です。この保険は共済には新ハイキング常陽グループを通じて加入できます。
希望者は新ハイキング旅行申込書の様式で「特別共済加入希望」と書いたハガキ大の申込書と80円切手をはった返信用封筒、及び金4千円（内千円は当グループ特別会費と事務費）を現金書留で振込し、下記へご送付下さい。加入証明をお送り致します。
〒120-0891　足立郵便局私書箱第17号
新ハイキング常陽グループ　特別共済係　あて
803-3848-1123

連載

日本霊山紀行　番外編（十）

『新篇武蔵風土記稿』（その2）

浅野孝一

文化・文政期に至って幕府は膨大な地誌の編纂に着手したが、個人の力では限度があることから昌平黌内に地理局を設けて、武蔵・相模の国の地誌を完成させることにした。

地理局には幕臣の間宮士信を主任として、松崎純庸、岩崎徳成、村井昱令、戸田氏徳、海老原儀、中里伸舒、三島政行、中神守節等の幕臣中の学者達が選ばれ編纂に従事した。

まず『新篇武蔵風土記稿』等の編纂に当たってその元資料ともなる日本国内の各種の地誌・地図が集められ整理された。それ等をもとに間宮士信等によって「編修地誌備用典籍解題」が作成された。解題は幕府が諸国風土記編纂事業の参考資料として蒐集した書籍の解題目録で、池田藩主池田定常が個人で蒐集した文献を間宮士信が再編輯解説を加えたもので、原本は国立公文書館にあり、活字本は県公立図書館で閲覧することができる。地誌調査上欠かせない参考書である。

編纂員の筆頭であった間宮士信（1777～1841）は代々の旗本で、安永五年五月御院番士間宮公信の二男として生まれ、天保十二年七月十三日六十五歳で没した。文化七年（1810）に地誌調所出役となり、死去した時は千石の旗本であった。武蔵の地誌のほかに『新篇相模国風土記稿』『武州文書』『武鑑解題』その他の編著書を多数残している。

『新篇武蔵風土記稿』は文化七年（1810）に着手し、文政十一年（1828）に完成した。その間約十年の歳月がかかったのであった。総巻数は二六五巻である。その中には江戸市内いわゆる御府内は含まれていない。御府内については三島政行等が別に『御府内備考』として編纂したものがある。

編纂に従事した幕臣達は前記間宮士信以下31名であった。多摩・高麗・秩父三郡の編纂には八王子同心、原胤敦他10名が協力している。その他各種の文献等の整理写筆及び校閲・浄書のために多くの筆生らが従事したものと考えられる。

風土記の作成に当たっては該当地区の責任者である村長等に「地誌取調書上」を提出させ、その書上を資料として郡村ごとに調査出役が村々に派遣され、提出物にわたっては詳細に調査が実施された。その方法として調査出役・調出役並・調書手伝等延べ42人の人員が配置され現場に出張した。

私たち東京に住んでいる者になじみの深い奥多摩の御岳山のことから説明してみる。御岳山は『新篇武蔵風土記稿』巻之百十四、多摩郡之二十六に詳しく述べられている。

即ち「この邊の惣名とする處なれど、御嶽山とさして云へるは、本社の立る中央の山なり　猶社の傍に山せり。」社の傍を見ると「御嶽社中央の山上にあり、東面にて八尺四方の檜皮葺なり、……社内の四方に鶴亀松竹を画きたる組障子を設く、狩野探幽が筆なりと云、……又これは左甚五郎が造る處なりといへど定かならず、元和八年に記せし社簿を閲るに、人皇十二代景行天皇四十年に、日本武尊東夷征伐のため御下向ありしとき、相模國より渡海せられ逆奥を平げ給ひ、それより常陸をしづめ甲斐國に至り、猶信越の諸國を王化に帰せしめ給はんと、上州より當國に来り給ひて、この御嶽山に陣営をすべられ、服するを勝ひ、背けるを誅し給ひて、……」とある。その時、深山の邪神である大鬼が尊一行の前途をふさいだ。また山中で道に迷った時白狼があらわれ尊達を助けた、その返礼として尊の霊を山中の岩倉におさめた、それ故に武蔵（ムサシ）の国名が起こったと記している。

以上が御岳山に関する由来であり、日本武尊の武勇を讃めた山は甲能山であると伝えられていて、この山は現在の奥の院である。鎌倉期にあってはこの地一帯は畠山重忠がおさめた地であったらしく、御岳神社の宝物館には重忠奉納の大鎧や宝夫丸と称せられる太刀等が展示されている。

御岳山から1時間半を登った所に大岳山がある。『風土記稿』には「大嶽山……郡中第一の高山にして、蓋王樵現を鎮座す……攀ぢるに甚嶮岩嶮しらすと雖険阻の所あり、それを過てやうやく絶頂に至る。こゝに五六歩の平地ありて奥院をたつ、相傳へて仙人貪翠の地なりと云ふ、尋常の人たやすく至ることを許さず……」と記している。山頂の下に大嶽神社があり、横手の広場から馬頭刈尾根を前景に奥多摩や大菩薩、丹沢の上に富士山を見ることができる。

奥多摩の入門の山として知られている山に高水三山がある。多摩川をはさんで御岳山の対岸にそびえる1000㍍に満たない山である。昭和初期の登山家で俳句の高畑樵村が高水三山と命名したという高水山・岩茸石山・惣岳山があり、多くのハイカーによって登られている。

高水山について『新篇武蔵風土記稿』巻之百十七多摩郡之二十九三田領土蔵木村の項に「常福院……真言宗新義前と同寺の末、高水山瑞雲寺と號す、……不動堂……字高水山の頂より二町許下にあり、前に鳥居を立つ、……本尊木の立像二尺許、智證大師の作、厨子に入る、浪切不動と云、又甘町を経て奥の院に至れり、奥の院は愛宕の小社にて東向、神體は白幣を建つ、……山内に五段の瀧あり、高さ六間餘、幅は縮に一尺……」と記してあるが、山中はうっそうとした森林のなかで遺の跡を見ることはできない。

山並は岩茸石山・惣岳山へと続き、惣岳山頂には「延喜式神名帳」に記載されている立派な神社惣岳神社があるが、『国土記稿』には書かれていない。

（以下次号）

越後

のんびり、残雪の山旅

越後駒ヶ岳

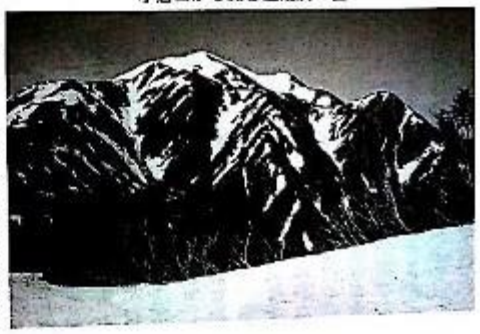
日野節雄

魚沼駒ヶ岳といわれていたのが、国定公園に指定されたのを機会に越後駒ヶ岳に改称された（『四季・日本百名山』より）。

できれば「三山馳け」といわれる八海山・中ノ岳・駒ヶ岳と歩きたいが、年齢と、昨年秋に胃癌の手術をした体には望むべくもなく、昨年8月に空木岳に同行した山友の森さんに相談したら、オーケーの返事で今回は2人旅。

浦佐駅発8時5分のバスに乗れば駒ノ小屋にその日のうちに入れるが、昔から聞いていた伝之助小屋に泊まりたくて、2泊3日ののんびり山行を計画した。また、そこで泊まらなければ枝折峠まで車で送ってはもらえないだろう。

奥只見ダム行きバスは、シーズンにより時刻が変わるので確認が必要だ。浦佐駅発の特急大型バスは私たち2人だけを乗せてひた走り、折立からは「シルバーライン」に入りトンネルばかりとなる。この道は神楽岱までも続いていて（小型車のみ）、バス客は奥只見湖定期船経由で行ける。シルバーとは年寄りくさいが、その昔銀山があり、山道にも「銀の道」があるからだろう。日光橋を渡って「白光岩」で下車すると、きょうはお客のいない大きな銀山茶屋がある。荒沢岳登山口を左に見て、伝之助小屋を探すと右に旅館があった。私はがっかりした。古びた山小屋と想像して来たのに、三年前建て直したという立派な総二階の旅館である。山屋よりイワナ釣り客がずっと多く泊まるそうだ。山菜料理に、庭の水を使ってつくった醸造酒を酌む。



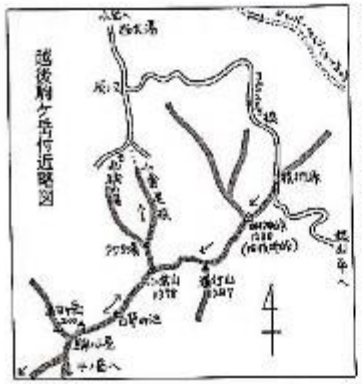
小倉山から見る越後駒ヶ岳

翌朝、お願いしておいた通り、小屋の主人佐藤さんに枝折峠まで車で送ってもらう。雪があったり道路が決壊して車が入れない時は、道行山への登山道が刈り払いされていると聞く。前日調べておいてくれて、通行止めの柵を取り除いて入ったが、一般車・タクシーも含めてバスの通る7月下旬まで通行できないという。峠には車3～4台は置けそうだ。

すぐ南の登山口（標識なし）からすこし急登すると、カタクリやコブシの花に出会うがもっと上部に群生しているので、写真は待ったほうがよい。

峠から駒ヶ岳山頂まで高度差1000㍍。途中の起伏を入れても1180㍍という。そのうち大半はゆるい登りだ。

右に道雅者の観音像があり、奥只見ダムが望まれる。大明神の洞の前でにぎり飯を食う。ここに「銀の道」とある。そのすぐ上が昔の枝折峠だ。



未丈ヶ岳と荒沢岳が大きく見え、カタクリは色鮮やかに上を向いている。イワウチワも多く薄いピンクがかわいい。ショウジョウバカマやシラネアオイなどもちらほら見る。

道行山への道を左上に見たが、銀山平への道は確認できなかった。小倉山の手前から残雪が出てくるが、このあたりは靴の蹴り込みだけでアイゼンは要らない。右上20㍍ぐらいに小倉山を見て、雪渓で休憩する。荒沢岳から駒ヶ岳への残雪と、明える緑のコントラストに、ついカメラに手がいく。鳥が多く、ウグイスは夕方遅くまで絶え間なく鳴き、カッコウ・ホトトギス・ヒガラなど、声のとぎれることがない。熊注意の標識があり、5～6㍍先のやぶのなかで「ドサッ！」と転げ落ちるような音がしたのは、ネマガリダケの竹の子を食べていたカモシカだろうと、後で駒ノ小屋の米山さんに聞いた。

百平の池は雪の下で、ここでアイゼンを着ける。アイゼンに雪が付くからと、付着止めを付けたのが悪く、刃が雪に深く入らないので難儀する。新雪にはよいのかも知れないが残雪には不向きだと知る。きょうは見通しがきくからよいが、霧などで雪渓の先の登山道が分からなくなる時は注意が必要だ。もっともこの道は尾根をはずさなければ問題はないのだが。

見上げると風向風速計のある塔が見える。岩稜と雪渓を繰り返し、ワイヤーロープを過ぎると駒ノ小屋の前の広場に飛び出す。先ず小屋の後方の広大な雪渓に圧倒される。管理人の米山さんがいて「ずいぶん時間がかかりましたね。速い人は3時間だ」と言う。私たちは6時間半かかり、昭文社地図のコースタイムより2時間も多くかかっていた。そのぶんゆっくりと花を愛で、景色を堪能して来たのだが。

昼食をつくり、ゆっくりしてから山頂に向かう。小屋の左の尾根から雪渓に入り、右へトラバースぎみに行くと駒ヶ岳山頂（2002・7㍍）だ。二等三角点と笹田彦の小型の像が立つ。展望はさすがに百名山といえる。南の中ノ岳からぐっと下がってオカメノゾキの峰。上がって八海山が厳しく見える。遠く燧ヶ岳の双耳峰。山頂が平に長い平ヶ岳。右に至仏山が顔を出し、巻機山と続く。北に守門岳・毛猛山・未丈ヶ岳・荒沢岳と360

度の山また山。時には八海山方面に北アルプス、北西に日本海と佐渡島が見えるという。中ノ岳への稜線は左（東側）に雪庇があるが西側にはない。雪がなければお花畑という小屋の上部雪渓は、スキーをする人もいるというが、湿沢上部のようなグリセードもできる広大な急斜面だ。

小屋に戻って、雪渓から小屋に引いてあるチョロチョロと出る雪解け水でウイスキーを割り、山山を眺めいる気分は満足以上に最高だ。年に一、二回はこのような山行も許されるだろう。森さんは寝てしまったが、私は一人で3時間ばかり過ごした。こんなにも山と語らったのは初めてだ。

小屋は中二段になっていて収容40人。素泊まり、毛布一枚貸与あり。米山さんは若く、4月下旬から10月下旬までは、ほぼ毎日（月25日）小屋にいて、湯之谷村の半年職員だという。見上げる中ノ岳への稜線の雪庇は今にも崩壊しそうな割れ目をつくっているが、落ちないだろうと言う。秋になってやっと雪が消えると、春・夏・秋の花がいっせいに咲くんじゃないかと話してくれる。

翌朝は小雨が降っていた。小倉山まで戻り小倉尾根に入る。40～50㍍の急な雪渓が沢状になっている所に出る。ワイヤーロープが雪の下に埋まっている。左の木につかまってくだるが、足元は雪に倒された細木の幹でよく滑る。途中からアイゼンを着けたが、刃が効かないのでストックでは怖かった。木につかまってやっとおりるとまたワイヤーロープのある急坂だった。ひと息ついてくだりだすと男性が一人登って来た。

ブナ林が美しく、コブシ（タムシバかも）が満開に続く尾根を行く。マムシが

山と高原地図シリーズ

定価750円（税込）

※刊行予定
2 ニセコ・羊蹄山
3 大雪山・十勝岳
4 十和田湖・八甲田・白神山地
5 八幡平・岩手山・秋田駒
6 蔵王・月山
7 磐梯・猪苗代湖
8 那須山
9 朝日・吾妻・安達太良
10 飯豯山
11 会津・奥只見・尾瀬
12 湯殿・羽黒
13 日光・男体・男日光
14 筑波
15 越後三山
16 谷川・巻・武尊・赤城山
17 上信高原・草津
18 妙高・戸隠
19 群馬・榛名・浅間
20 奥秩父・雲取・甲武信
21 奥上州・妙義
22 奥秩父・秩父
23 奥多摩
24 八王子・高尾・御岳
25 奥秩父・両神山・荒船山
26 奥秩父・金峰山・甲武信
27 高尾・陣馬
28 房総
29 箱根
30 伊豆
31 富士・富士五湖
32 八ヶ岳・蓼科
33 北ヶ岳・霧ヶ峰
34 北アルプス総図
35 白馬・雪山北アルプス
36 後立山・鹿島槍北アルプス
37 剱・立山北アルプス
38 上高地・槍・穂高北アルプス
39 常念・燕北アルプス
40 西穂山
41 中央・南アルプス総図
42 木曽駒・宝剣・南アルプス
43 甲斐駒・北岳南アルプス
44 塩見・赤石・聖岳南アルプス
45 白山
46 霊峰・伊吹・揖斐
47 御在所・鈴ヶ岳
48 仁尾山系
49 奈良北山1
50 奈良北山2
51 奈良西山
52 紀伊山地
53 六甲・摩耶・有馬
54 琵琶湖・比叡・比良
55 金剛山・岩湧山
56 紀伊高野
57 大峰山系
58 大台ヶ原・大杉谷・青笠山
59 吉野・熊野・伯母峰
60 氷ノ山・扇ノ山・那岐
61 大山・蒜山高原
62 四国剣山
63 石鎚山
64 瀬戸内小島
65 九重・阿蘇
66 祖母・椎
67 屋久島・種子島
※ 隠岐・利尻（刊行予定）

※昭文社の「山と高原地図」は年間巻として毎年否応発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご感想・ご意見がございましたら、編集部「山と高原地図」係宛までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸いです。

株式会社 昭文社
本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代)〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(6303)5721(代)〒532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟・金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

塩を巻き、1㍍以上の青大将が道を横切る。昔はよく見た蛇だが、最近はめったに見ない。この山にはまだいるのかと感心する。ピーピーというカモシカの声もする。足元に咲く一輪のヤブツバキが妙に印象に残る。

急坂三回で左下に駒の湯の屋根と駐車の列が見えてホッとする。古い吊橋を渡るとここにも「銀の道」の標識がある。昨日の道に通じているのだろう。左のコンクリート橋の先が駒の湯だった。

登ってきた尾根を見る

ひなびた山の湯と思っていたがここも新築の旅館で、湯は36度と低いが、1㍍もの高さで湯船の中から吹き上げている。1時間以上浸かるとよいという。疲り香のとてもよい温泉だ。

バス停のある大湯まで一時間はかかるというので、タクシーを呼ぶことにした。バスと列車の時間も調べてもらって、それに合わせるべくのんびりした。

山旅の仕上げは小出駅前のそば屋で、イワナの刺身とそばがとてもうまかった。

車窓から見た越後三山は、またおいでおいで（小出、小出）と言っているかに見えた。（平成11年6月1日～3日歩く）

△参考タイム▽

JR浦佐駅13・25（バス）白光橋14・13—伝之助小屋14・20（泊）～4・25（出）
枝折峠4・45—大阪神社5・15～40—明神峠（旧枝折峠）6・45—道行山7・00—小倉山分岐8・10～25—百草の池9・25～50—駒ノ小屋11・20～13・10—駒ヶ岳13・40～14・00—駒ノ小屋14・20（泊）
～5・25—百草の池6・10～20—小倉山7・00—駒の湯9・10～11・20（タクシー）大湯11・40～50（バス）小出駅12・15～59（電車）浦佐駅13・08

△費用▽

浦佐駅＝銀山平（バス代）　770円
伝之助小屋（1泊2食付き）　7500円
伝之助小屋＝枝折峠（車代1人）　1000円
駒ノ小屋（素泊り）　1000円
駒の湯（入浴・休憩）　500円
駒の湯＝大湯（迎え合むタクシー1台）　1000円
大湯＝小出駅（バス代）　380円

△地形図▽

20万＝高田・日光
2万5千＝五日町・八海山・巻岳・魚沼
見附

△問い合わせ先▽

越後交通小出営業所　025779（2）0117
伝之助小屋　025779（5）2452
駒ノ小屋（湯之谷村役場）　025779（2）1122
駒ノ小屋（来山さん宅）　025779（2）1046
駒の湯株式会社管理組合　020（56）00305

自然観察山行

野谷荘司山

白山

鷲見守康

岐阜県白鳥町から国道156号線を北上し、世界文化遺産に指定された合掌集落で有名な白川郷に入ると、頭上はるかに三方岩山を仰いだ後、廃落のため赤茶けた山肌を剥きだしにした山岳が視界に飛び込んできた。青空を背にかなりの高さを感じる。野谷荘司山だ。

『野谷のバス停を見て脇の林道に入る。ミズバショウの群落で名高い大笹沼への道である。沼を右手に見て、もう少し進んだ地点でガイドブックにある大杉に出会った。登り口を表示する看板も設置されている。三台分ほどの駐車スペースに車を駐め、さっそく身仕度をする。

Kさんらが自宅を出たのは午前4時頃。ワゴン車の後部座席で熟睡していた夫人のY子さんは、まだ夢心地の様子だ。

ひるがの高原あたりでは、濃い霧に包まれていたが、今はすっかり晴れ上がり、かなりの汗をかきそうである。

登山道は大杉鶴平の名をとって鶴平新道と呼ばれ親しまれている。かつて大笹集落の人々が離村したときも、大杉鶴平だけは自然を愛して村に残り、昭和48年にこの鶴平新道を拓いたという。登山口に立つ墓標はその大杉鶴平のものなのだろう。ヤマオダマキが優しげに咲いている。

大笹集落登山口付近の標高は約800㍍。標高1797㍍の野谷荘司山まで高低差約1000㍍である。いつもの通り、Kさんが先頭に立ちその後を私、そしてSさんY子さんと続く。

登山口

登り口から沢に入るが、草いきれでアブなどが多くて蒸し暑い。林の樹冠が開け、陽光が差し込む湿地帯にはミドリシジミ類がめまぐるしく飛び交い、テリトリーをめぐり争っている。

羽裏が銀色に輝いているのはウラグロミドリシジミ。青色が強いのがエゾミドリシジミ、緑色が強いのはメスアカミドリシジミ、そして赤っぽいアカシジミなど、これだけの種が一つの場所に見られるのはめずらしいようで、説明するKさんは興奮気味である。ミドリシジミ類のチョウたちは、ゼフィルス（森の妖精）と形容されているだけに、小さな羽が陽光に照らされて青や緑に微妙に光り、見とれるほどに鮮やかである。

しばらくして斜面に取りつくとブナ林になった。ササがなくて林床に広がりがありさわやかな感じである。しかし、直線的な登りはなかなか厳しく、ひたすら登り続ける。

「この山は〝山屋さん〟が登る山だわね」後方からY子さんが声をかける。息をつける平坦地がなく、ずっとまっすぐな登りが続く。花の姿も見られないため辛い山だ。

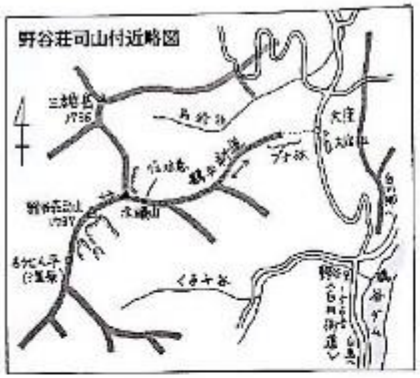
ブナ林は樹齢二百年ほどの大木もあるが、森全体は比較的若くブナの木の肌も白い。大木にはユキノシタ科の低木ヤシャビシャクが着生していた。

登山道をブナ林のチョウであるヒメキマダラヒカゲが飛んでゆく。

ツツジ科のアクシバが目に入り、私が「最近、ウスノキとの区別に迷うことがあるんですよ。分かってたつもりでいたんですが……」と声をかけると、「分かったと思ってたらまた分からなくなる……そんな繰り返しですよね」とKさんから慰めの言葉があり、アクシバは葉先が尖ること、葉裏に網状の脈が目立つことなどの区別点をレクチャーしてもらう。

そして、さらに同じツツジ科のミツバツツジ属の葉を眺め「典型的なユキグニミツバツツジです」と続く。葉を観察すると、葉柄には毛がなく葉裏主脈上には基部付近に綿毛が密生、葉身の縁には基部から2/3あたりに凹みがあるのだ。なるほど、他のミツバツツジ属との違いが鮮明である。ユキグニミツバツツジは日本海側のミツバツツジで、以前はサイゴクミツバツツジと呼ばれていた。

「ムラサキヤシオが見当りませんね」、周囲に視線を配りながら、Kさんが呟く。



確かに、ツツジ科の樹木が多いのだがムラサキヤシオの姿は見かけていない。

ヤシオ（八入）とは、何度も染液に浸してよく染めることなのだが、花色がそれほど濃い紫色であるという意で名付けられたようだ。実際、春も盛りの山で出会ったとき、そのくっきりとした赤紫色からは鮮烈な印象を与えられることが多い。

「アッ、ありました！　ムラサキヤシオです」。ほどなく、Kさんのはずんだ声が響いた。が、私は指差した彼の指先にある葉を見て、心の中で「アレッ！」と叫んでしまった。

1ヶ月ほど前、新ハイ例会山行で恵那の笠置山を歩いた時、その樹木について、私はヨウラクツツジ属のウラジロヨウラクと説明していたはずであった。その際には花を咲かせていたのだから、笠置山のそのツツジの葉は間違いなくウラジロヨウラクだったのだが、ムラサキヤシオの葉とこんなにも似ていたのだろうか。私にはムラサキヤシオの葉のイメージが分からなくなってしまった。

「どうも、ムラサキヤシオの葉っぱを勘違いしていたようです」。

ウラジロヨウラクの花（ツツジ科）

すっかり自信を失った私の言葉に、Kさんからはとくにコメントはない。ところが、しばらく登ったあとで「すみません」と言ってKさんが立ち止まった。「これがムラサキヤシオでした。さっき説明してから、自分でもしっくりしなかったんです」。彼のつまんでいる葉は、まさに私の頭の中にイメージされていた葉形であった。

「そして、さきほどの葉……ここにもありますが、これがウラジロヨウラクでした」。

私は疑問がすっかり氷解したような満足感に満たされていた。

苦しい疎林帯の登りが2時間ほど続いた後、やがて道が明るくなってきた。上部の稜線が見え、岩肌じりのピークに登り着いた。眼下に鳴谷ダムの湖が見える。

高木がなくなり、ミヤマナラ・マルバマンサク・タムシバが続く風衝低木群落である。ミヤマナラはミズナラの矮小化したものといってもよいのだが、ミズナラの幼木というわけではなく、背丈の低い状態のまま花を咲かせドングリをつける。ミズナラからは独立した種と考えるべきなのだろう。

赤頭山への登りは吊り尾根状のやせ尾根である。右側は急峻で切れ落ちている。

逆の真ん中にアカアシクワガタがのっそりと歩いている。虫好きの子どもなら歓声を上げそうな大きさで、名の通り脚が赤い。

続いてキツネの鳴。私がじっと眺めていると、前方でKさんが短く鋭い声を発した。

マムシだ。道端で日向ぼっこの最中だったようだ。困ったことに動こうとしない。そればかりか、至近距離にあるKさんの存在に苛立ってか、尾を振って音を立て威嚇し始めた。Kさんの方を直視し攻撃態勢に入っているようだ。

「真剣に怒ってます」と説明しながら、Kさんはカメラの三脚を立て、撮影を始めた。こんなシャッターチャンスはざらにあるものではない。

マムシと平行して登山道に坐るKさんも後方に立つ私も、マムシの攻撃範囲である50㎝内には位置していない。彼らの攻撃範囲に立ち入らなければまず大丈夫だ。

マムシが動く気配を見せないので、こちらから慎重に距離をとり歩きだしたところ、やっとやぶのなかに消えた。どうも、マムシも私たちとまともに向き合ってしまい、困惑していたのかもしれない。

主稜線の尾根に登り着き、三方岩岳からの道を合わせると赤頭山である。

ウラジロハナヒリノキの花（ツツジ科）

野谷荘司山はさらに登る。斜面の所どころにニッコウキスゲの黄色が灯り、道沿いにはササユリ・オオバギボウシも咲き続いている。

ツツジ科の灌木の花も多く、ヤマツツジ・オオコメツツジ・オオバスノキ・アカモノ・サラサドウダン・ウラジロヨウラク・ハナヒリノキ・ウラジロハナヒリノキなどが咲き、イワナシは実を付けている。ハナヒリノキとウラジロハナヒリノキは並んで咲いており、違いが比較できて勉強になった。

高度を上げるにつれ、キンコウカ・ゴゼンタチバナ・ハクサンチドリなど高山性の花も姿を見せてきた。

4時間ほど要して野谷荘司山頂に到着。飛騨の山並が望見できたが、山座同定ができたのは、東方向の烏帽子山と狼ヶ馬場山、南方向の三方崩山と奥三方岳、北方向の三方岩岳。西方向には一時期ガスのなかに白山が見えた。

山頂部では、さらにムシトリスミレ・オオバキスミレ・ツルタチツボスミレなどを見て、都合45種の花を確認した。

「登ってしまうとけっこういい山ね」と、Y子さんの山の評価の訂正に、皆笑いながら同意した。

（平成11年7月8日歩く）

◇参考タイム◇

各務原市5・00（車）大窪集落登山口7・15～20—赤頭山10・40—野谷荘司山11・20～12・50—大窪集落登山口15・20

◇地形図◇2万5千＝新石間温泉

新刊

大和まほろばの山旅

内田嘉弘 著　四六判・二〇〇〇円

—奈良県北・中部の山—山の辺、大和高原、宇陀、室生、初瀬、飛鳥、金剛、生駒古代史探訪も併せた低山ハイキング。約60山地図、参考タイムつき完全ガイド!!

関西の山日帰り縦走

中庄谷 直 著　四六判・二〇〇〇円

六甲、多紀、京都北山、比良、湖北、生駒、葛城、金剛、和泉…全48コース。一日で縦走できるコースを厳選して詳細地図付で紹介。交通機関や所要時間も。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

神になった三角点柱石

奄美諸島の山

多摩雪雄

薩南

奄美諸島の山と観光を一度の行程で消化しようとすると計画作成に苦労する。まず各島間の航空便は1日一便、双発の中型機で64人乗りが主だから観光時期の団体予約は骨が折れる。フェリーの当月の発着タイムを6ヶ月以前に知ることは難しい。

山登りには、ハブの冬眠する1月、あるいは2月が最適で、ほとんどの人はその頃訪島している。もっともハブのいる島は大島とその付属島及び徳之島で、その他の山の無い島にはいない。

ハブがトグロを捲いて鎌首をもたげている時が飛びかかる姿勢で、長さの二倍は飛ぶ。私が見たのは収縮した和数字の三型で、第一筆の左が鎌首であった。カメラを構えたがフラッシュに感応して飛びつくかも。と、思いとどまった。

東京・大阪から大島直行便はあるが、訪島時以後のスケジュールが思わしくないので、鹿児島乗り継ぎ与論島着12時30分で平日観光してから、フェリーで沖永良部島和泊港に22時30分に着いた。

サブリーダーのひとりの日野節雄が、東京あるいは大阪から沖縄乗り継ぎ与論島着のほうが安いのではないでしょうかと、言うので、帰宅してから調べてみると、那覇経由のほうが九千円も安く、与論諸島着は30分遅れるが、島内観光には差異はない。

井之川岳山頂にて

湯湾岳

奄美諸島の1等三角点の最高峰は大島の湯湾岳（694・42㍍）で、宇検村役場脇の指示標によって、南の展望台との稜部にある湯湾岳公園の駐車場に着く。「阿摩弥姑の太古の時代に天下りし　古き御えの湯湾岳美わし」平成元年二月建立の黒御形模板の下方には、"奥支那海の理想郷蓬莱島まれびと信仰の霊峰"とあり、ここから遊歩道に入る。密生するシダを分けるが道形はよく、わずかに登りながらこの前山を左（西）からぐるりと廻り込んで岩塊を流下する沢を渡る。村界を越えて本峰の左（西）を捲いて行くと大和村名音から登ってくる新しい板段が

途中に出てなおも登り、休憩所を過ぎると、すぐ社寺混淆の広場に着く。

まず、大島笘長興湾大銀の石塔。大島開闢・奄麻美古、志戸桶禮久・二神降臨之霊地の石塔が二基。琉球式家屋にまつられた神理教。アルミサッシ引き戸の新しい堂宇は高野山測候、奄美岳大師鎮座。脇に展望櫓もある。

頂上は、ここから湿地帯を過ぎて山標のわずかなピークを登詰して10分。樹林に匿まれて視界不良。三角点標石は15㌢角なれど大欠落。磁北10度。脇に昭和55年1月1日建立の黒柱には「日本国有地・奄美岳」とあり山標もある。

奄美諸島探訪初めの7日間の気温は日中22～26度で半袖カッターシャツでも大汗であり、素肌に浴衣で夜の街歩きもできたのに、この日は曇天で休憩舎のある駐車場の水呑み場に着いた時、先程からパラパラしていた雨が急に勢いを増し、慌てて車内に駆けこんだ。南コブの展望台には登らずじまいであった。

湯湾岳近略図

⚑コースタイム⚑

往路1時間10分　復路1時間

〈地形図〉2万5千＝湯湾

雨気岳（天城岳）

徳之島北部の雨気岳一等三角点（533・06㍍）は乳房山と別称されているごとく、形のよい二つの乳房（双頭）が県道から望まれ、図上山集落からの林道は、舗装から地道となって200㍍圏から250㍍圏にかけて東南に激高し、三方通岳の東谷面にのびている。

谷間のわずかな平地に「雨気岳（乳房山）」の角柱を見て、なおしばらくするとガードレールに天城岳と大書してある。その少し先の山側に「山にかねがなる、平成元年」とした板り御形黒板タテ60㌢・ヨコ30㌢を見る。この2㍍先が登山口（250㍍）で、初めの支稜に出るまで急登する。

天城町のブリキ板の標識が鮮緑に現れる亜熱帯常緑林中のしっかりした道だ。ハブに注意しつつ登って420㍍圏の町界稜に出ると山標があり、すぐ448㍍の平頂をくだると正面に本峰が見えてくる。

前山の頂から尾根上を直角に右（東）へわずかに登ると、樹林中ながら小広い草地の前山に着く。ここには平成七年10月、池元民30万円、東京の某氏30万円拠出によるコンクリートの堂宇があり、雨気岳地神を勧請し「人口五十余万、徳之島ハワイ楽園誕生者願祈念」と、堂内に奉納してある。

ひと登りで頂上に着く。北から西方は中低木が密生しているが、その他は大展望の草地である。時に10時20分、北の風2㍍、巻層雲1、高層雲2、晴れ、気温24度。標石は15㌢、左書きの新柱石、磁北355度。旧柱石は15㌢の研磨面がまるで破壊されて15㌢の下方柱面上にわずかに下金形に残り、埋定された新柱石の前面に、この山を鎮もる神として崇められている。

三角点柱石が神となった例は全国でも

神格化した旧三角点柱石（雨気岳）

おそらくあるまいと思われる。もちろん私の初見である。

この日、天皇在位十年記念硬貨交換日、親の難便局で各自二枚ずつ交換できた。

△コースタイム▽

登り1時間　下り40分

△地形図▽2万5千＝山

井之川岳

奄美諸島1等三角点第二の高峰は、同じ徳之島中部の井之川岳（645・84㍍）である。行程の都合でこの山が11並びとなるので、時間に余裕をもたせて亀徳の宿を6時50分に出発する。高級旅館やホテルは一万円以上だが、旅館・民宿のほとんどは六千円前後。どの宿も頼めば6時前に朝食の用意をしてくれる。大きな町ではスーパーやコンビニも弁当類もあるが、早朝は無理だ。

タクシーは小型が大半で、中型とジャンボは会社に有無を確かめなければならない。早朝から夕方までの契約で六～七万円位。地元の運転手でなければ知らない名所古跡をしばしば案内してくれた。

大原第一団地を抜け剣岳の東麓から北上して電波塔の駐車場には35分で着く。ここから図上に破線径記入のない町界稜を北へ数個の小さいコブを越えて徐々に登って行く。標高差130㍍、2・5㌔。東の井之川から破線登路が図記されているが、下車地点が170㍍、登り標高差470㍍、2㌔。私の計測だとゆうに3時間はかかる。

ストレッチ体操後、足廻りを厳重にして、亜熱帯樹林の下生えシダを分けるように行くと、いきなり道に横たわるハブに遭遇した。動きは鈍いがストックで突っつくと鎌首をぐっともたげて威嚇する。25分経過すると1000の標示を通過。なお35分で標高580㍍の前山に着く。これまでシダは濃いが道形はしっかりしており、クワズイモが群生し、ヌタ場が多く動物の太いうなり声も聞く。1500と1000の標示の間でハブに二度遭遇した。

シダも海く平らな前山で十分休憩してくだるとすぐ500の標示を見て登る。こんな上部にまだヌタ場があった。後で運転手に訊くと、奄美には小形の猪と野生化した大角のヤギがおり、繁殖して農作物に被害をおよぼすので、駆除しているとゆう。

奄美の山はだいたい松とシダが多いが、0標示の井之川岳の頂上は小広い草地で密生する中低木のヤマナザンカ等に囲まれて見通し不良だが、展望塔に登るとすばらしい眺めが得られる。

南側の高みの大石積上に守護神をまつり、北東方からよく眺まれた井之川登路が合する頂上で、平成11年11月11日、11時11分の記念撮影を終え、1時間30分も滞留した頂上を後にする。

三角点標石は12㌢の左書き新標石。磁北0度。微風、高層雲1、快晴、気温24度、暑い。

△コースタイム▽

登り3時間30分　下り1時間30分

△地形図▽2万5千＝井之川・亀津・伊仙崎・平土野

△参考▽

奄美諸島は北から大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島で、この五島間には航空便及び船（フェリー）便があるが、付帯の有人島に渡るには町営渡船または海上タクシーを依頼する以外にはない。

大島古仁屋港から、駐時中の特攻基地加計呂麻島や密林・踏み跡不明の好望台大山1等三角点（398・40㍍）の諸島には、時間的に海上タクシーを利用するほかない。

大島南西端の1等三角点戸倉山（411・05㍍）は、南麓の林道から急登する樹林中の登山道があり、同じく中部の1等三角点松長山（493・16㍍）は、名瀬市銅戸の林道から稜上に登れば樹林中の登路がある。

各島の名所探訪記は、私が自選作家として所属している俳句結社「斧」に二ヶ月連載した（御希望の方にはコピーして差上げる）。

次年度の冬季計画される方々のため、あえて初島号に登載した。

○今回宿泊して推薦できる宿

①大島古仁屋「旅加倉旅館」
　0997（2）0449（2泊）

②大島名瀬市「徳州屋旅館」
　0997（52）0785

③徳之島平土野「旅館・石」
　0997（85）3033

④沖永良部島和泊「ホテルえらぶシーワールド」
　0997（92）1234

⑤沖永良部島国頭「民宿みさき荘」
　0997（92）0441

⑥喜界島湾「旅館きなま荘」
　0997（65）1126

⑦徳之島亀徳港1分の旅館は大ハズレ

KOBEの登山専門店
手作りザックの店です
新製品紹介
◎ドルフィ Ⅱ

ハイキング用の小型ザック。トップとフロントに小物入れポケット、サイドはボトルポケット、ストックホルダーポケット、ウエストベルトにファスナーポケットを装備、背中にクッションを設えた一本綿の多機能ザック
■カラー　レッド×ネイビー
　ネイビー×レッド
　パープル×マゼンタ
　マゼンタ×パープル
　グリン×タン
■容　量　22ℓ
■寸　法　730g
■素　材　コーデュラナイロン
■価　格　¥6,000

ーイモック山道行くらぶー
春夏秋冬・シーズンを気にせず里山・低山・名山を訪ねます。詳細はお問い合わせ下さい。

IMOCK.
神戸ザック
〒650-002 神戸市須磨区大手町1丁目7-1
TEL(078)621-5861
FAX　621-3528

四国遍路みちを歩く　1

焼山寺越え

杉本　高

四国

10月の連休を利用して徳島県内の四国霊場を巡拝することになり、きょうが初日である。

2月にも徳島県内の霊場巡拝を行ったが、みぞれ混じりの雨のためカットした山間の霊場と、時間の都合で参拝できなかった霊場があり、今回は五ヶ寺を巡拝する予定である。

きのうは、仕事を終えてからJRに乗り舞子駅で下車。高速舞子バス停から高速バスで徳島駅へ着き、駅前のビジネスホテルで旅装を解いた。

きょうは11番札所藤井寺から12番札所焼山寺まで、山越え道の焼山寺越えである。

1番札所霊山寺を発願した遍路みちは、四国三郎と呼ばれる吉野川の北岸に点在する札所を東から西へと進む。各札所間は歩いて1時間前後かかり、1日半ぐらいで10番札所切幡寺に至る。

切幡寺からの遍路みちは南へ方向を変え、3時間程度で藤井寺に至る。ここまでは平野部か山麓部の札所ばかりで、足慣らしともなっている。

きょう歩く焼山寺越えは歩き遍路が初めて経験する本格的な山道で、「遍路転がし」と呼ばれて恐れられている道である。

徳島駅から徳島線に乗り鴨島駅で下車する。駅の待合室で服装を整え、駅前の商店街を歩いて行くと、前方に登山スタイルのグループが急ぎ足で進んでいる。追いついて話をきくと、これから焼山寺まで往復するのだと言う。私の足で5時間半かかる道を往復するとは何という健脚なのだろうかと感心する。

やがて、商店街は国道の交差点に出る。ここを右折し、しばらくで藤井寺の遍路案内板に従い左折する。道なりに進むと、

11番札所　藤井寺本堂

山裾に小さな祠が見え道が行き止まりになる。ここを右折し道なりに進む。約15分で藤井寺の山門へ到着する。

山門で一礼し、手水うがいで身を浄め、本堂の所定の箱に写経と納め札を納め、ローソクと線香をあげ、賽銭を入れ勤行する。同様にして弘法大師をまつる大師堂に参拝し、納経所で納経（ご朱印）を受ける。

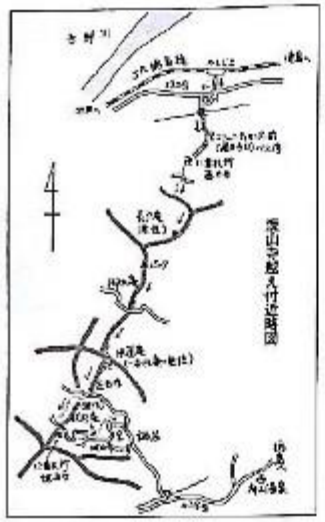
四国霊場では、納経帳は同じものを一巡使用する。初回には寺納・本尊名・寺名を墨書し朱印を押すが、二回目以降は朱印のみを押す。これを重ね判と言い、巡拝した回数だけ朱印が並んでいる。

納経を済ませ、身仕度を整えて出発する。本堂の左手から山道に取りつく。藤井寺の裏山には四国八十八ヶ所の本尊を写した石仏が並んでおり、そのなかを遍路みちが通っている。

急坂を登ると舗装路に飛び出す。標識に従って進むと、やがて舗装が途切れる。そこに端山休憩所のあずまやがポツンと建っている。

ここから、吉野川と阿讃山地の山々、そして鴨島の街が見渡せる。藤井寺から約15分で少し汗ばんでくる。一服するのにちょうどよいタイミングである。

ここで長袖のシャツを脱ぎ、半袖のTシャツの上に浄衣（七分袖の白衣、菅笠に南無大師遍照金剛・同行二人と染められている）を着る。山道となった遍路みちを再び歩き始める。へんろ道保存協力会の草刈り奉仕が9月に終わったところで、足元もしっかりしており、とても歩きやすい道になっている。遍路みちを整備されているボランティアの人々には、頭の下がる思いだ。



私は以前二回この道を歩いているが、ゴールデンウィークと年末であった。季節によってこんなにも道の表情が違うものかと初めて知った。

雑木林から植林帯に入り、吉野川の流れが視界から消えると、やがて前方に竹やぶが見えてくる。この竹やぶのなかに、無住の庵、三戸庵がひっそりと佇んでいる。庵の周囲は竹が伐採され、休憩用のベンチとテーブルが置かれている。この焼山寺越えのよい所は、1時間置き位に休憩に適した庵が点在していることで、三戸庵がその最初である。

庵に向かい勤行をし、汗が引いてから出発する。竹やぶから杉の植林に入り、徐々に高度を上げる。どうという段差ではないのだが、樹木による段が気になる。せっかく昔の人々が踏み固めた道なのだから、人工物を入れないほうがよいと考えるのは、私だけなのだろうか。

小さな屋根を乗り越えると、地道だが自動車が通れる道に出る。この道をくだって行くと道が二つに分かれる。右の上り坂の道へ進む。屋根を越えると遍路みちは杉林のなかを一気にくだる。途中にある建物は柳水庵の奥の院である。あと

浄蓮庵の修行姿の大師像

ひと息で焼山寺越えで唯一住職のおられる庵、柳水庵である。

奥の院寄りに水場が設けられており、湧水があふれている。この水で手水うがいをし喉を潤す。

勤行のあと住職に納経をお願いすると、玄関の冷蔵庫にある飲み物を接待するとおっしゃられた。ありがたくスポーツドリンクを頂戴し、前のベンチで昼食をとった。

食事を終え、本堂に一礼して出発する。コルを通る県道まで舗装路を一気にくだる。県道を横断し向かい側の山道に取りついてひと登りすると、未舗装の林道に出た。

この林道を標識や道しるべに従って進むと、やがて右側の杉林のなかへと遍路みちは吸い込まれてゆく。杉木立が光をさえぎる薄暗い道を黙々と歩いて行く。やがて爪先上がりの坂を登り石段の下に着く。

ふと見上げると、修行姿の弘法大師像が一本の大杉を背にこちらを見下ろしてしてる。浄蓮庵、別名一本杉庵である。

この庵は近年まで住職がおられたようで、自動車も入って来られる。建物も数多く残り清掃も行き届いている。休憩にはうってつけの場所である。ベンチに腰をおろし、飲み物で一服する。

ここから左右内集落まで一気のくだりが待っている。杉と竹が混じる林のなかをよく踏み込まれた道がのびている。みかん畑へ出ると、ふもとの集落に向けてまるで逆落としのようにくだってゆく。集落の中で車道を渡り、左右内川をめざすが、民家の裏側や庭先のような所を通り抜けるため、標識を見失わないよう注意して進んだ。

やがて、川のせせらぎが間近になり、コンクリート橋を二つ渡る。ここからが遍路転がしのなかでも、最も厳しいと言われる坂道である。

二つ目の橋を渡った所に石仏が置かれ、この前で一礼し左手の坂道を登り始める。道端には焼山寺までの距離を示す丁石が置かれているが、二丁の間がとても長く感じられる。

休み休み登っていると、途中で修行姿の若い遍路に出会った。野宿をしながら巡拝していると言う。何が彼をこのような試練にかり立てているのだろうか。

彼に一礼して先に進むが、足が思うように進まない。普段のトレーニング不足を思い知らされた。

ふもとの石仏から30分余り登っただろうか、急に明るい場所へ飛び出し道が平坦になった。林道に出たようだ。舗装されていない林道を10分位歩くと、ここでも修行姿の弘法大師像が温かく出迎えてくれた。

右手の石段の上に銅板葺きの山門が佇む焼山寺に到着した。

手水うがいを済ませ、本堂に向かい本日の焼山寺越えを無事終えられたことに感謝し勤行した。

大師堂でも同様の勤行をし、納経所で納経を受ける。ふもとの鍋岩集落にある焼山寺バス停の時刻を訊ねると、17時35分しかないとのことで、境内でくつろぐことにする。

12番札所　焼山寺

暑いくらいの陽気のなかで、参拝客や修行姿の遍路が思い思いの休日を過ごしている。出家姿の修行遍路が今夜の宿を探していたので、納経所で訊ねてみるようアドバイスしたところ、あわてて納経所へ走っていき、何とかこの寺で泊めてもらうことになったようだ。

20分程休憩して、ふもとのバス停へ行く。ふもとといっても、歩いて約1時間もかかり、しかも急坂のため逆コースをとろうとすると、この坂でバテてしまうことがある。

山門で本堂に向かって一礼し、焼山寺を去る。駐車場の脇から遍路みちが始まっていて畑や林のなかを気持ちよくくだって行く。

車道へおりる所で道を間違えて、地元のおばあさんに教えてもらい無事中腹にある杖杉庵にたどり着いた。

杖杉庵は四国遍路の嚆矢とされる衛門三郎の終焉の地でもある。弘法大師が衛門三郎の墓標がわりに地面に立てた杖が、やがて根付いて大きな杉となったという説話が残されている。

この杖杉庵の下で遍路みちは再び車道から分かれる。杉木立ちのなかの石畳をずんずんくだって行くと、やがて川のせせらぎが聞こえてくる。もう少しくだるとポンと車道に出る。足もとに見える砂防ダムの水の美しさに見とれながら行くと、鍋岩集落が見えてくる。

集落の中程にある広場はトイレやベンチが整備され、バス待ちには都合がよい。

向かいの農家が野菜や果物を直売していたのでみかんを一袋求めたところ、大福をつくったのでと言われ、お接待にと一ついただく。

日も暮れかけた頃、バスの灯りが見えてきた。夕暮れの山々に別れを告げ、バスに乗り込んだ。

（次号へつづく）

（平成11年10月9日歩く）

《参考タイム》

JR徳島駅7・34（電車）鳴門駅8・09～15—藤井寺8・55～9・25—長戸庵10・50～11・05—柳水庵12・00（昼食）12・35—浄蓮庵13・20～35—焼山寺15・00～50—杖杉庵16・20～30—焼山寺バス停16・50～17・35（徳島バス）徳島駅19・08

《地図》

5万＝川島・貞光山

へんろ道保存協力会編『四国遍路ひとり歩き同行二人（別冊）』

《連絡・問合先》

藤井寺　0883（24）2384

柳水庵　歩き遍路のみ宿泊可　要予約　0886（78）1328

焼山寺　0886（77）0112

へんろ道保存協力会（歩き遍路全般）　089（952）3820

連載 三角点を訪ねて ④

綾部北東の山・蓮ヶ峯

丹波

磯部 純

阪急西京極駅前へ7時集合のはずが保田君の姿が見えない。時間にシビアな彼にしてはめずらしい。何か事故でもと思い携帯に電話するも繋がらない。ヒョッとしてと思い家へ電話すると、まだ家に居るではないか！　宇治では降っていなかったが、京都・高槻方面は夜半から明け方まで大雨だったらしく、勝手に山行中止を決めこんでいたのだった。

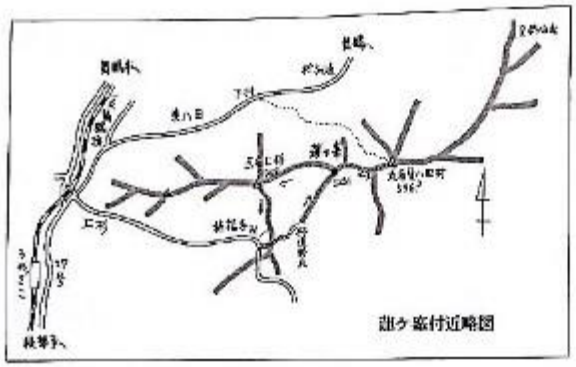
この日の目的地は蓮ヶ峯の北にある「点名東八田村」。綾部市の北東にある丹波のマッターホルンと呼ばれる弥仙山から南にのびる尾根の西端にあたる山である。この三角点峰が、私の京都府下500m以上の三角点峰（3等以上）探訪の最終183番目の山だった。完登を祝し、山頂で記念のパーティを開いてくれることになっていたので、主催者を置いて出発するわけにはいかない。すぐ家を出るということだったので駅で待ち、結局、西京極山発は1時間遅れとなってしまった。出始めから何か起こりそうな霊行きだった。

出発点の施福寺へ着いたのは予定を大幅に遅れた9時40分。施福寺は上杉村から小さな峠を越え東に入った最奥にある寺で、行基の草創と言われている。高野山真言宗に属し、綾部西国28番目の観音霊場に当たる寺で千手観音がまつられている。と言っても寺には人の姿は見えず、荒れ寺と見紛えても不思議のない寺だった。

登山口の施福寺

寺の前に車を置き、天気予報「曇り時々雨」を信じて万全の装備をして出発する。寺のすぐ東の谷道を登ると、間もなく林道に合うが、この林道を北へ15分も歩くと林道は尽きた。ここから蓮ヶ峯手前のピークにある反射板への直登尾根へと取りつくのだ。地図で見て道があるとは期待していなかったが、林道終点から「火の用心」の矢印があり、道が尾根上方へとのびていて反射板まで達しているようだ。急なやぶ尾根を登るのだと思っていただけにホッとした。天気予報を聞いて最悪は雨になることを考え、『京都府の三角点峰』を書いた横田氏が登った西からのルートをとらず、『京都府の山50選』に紹介されているルートを選んだことが

当たったようだった。しかし、登り始めると反射板への道は直登ルートそのもので、ちょっと油断すると足を滑らし転げ落ちてしまいそうな急斜面。雨具を着けていたのだが、登りづらいので脱ぐことにする。



雨具を脱ぎ歩き始めて少ししてカメラが無いことに気がつく。先程まで確かに持っていたはずなのにおかしい？　どこかへ忘れてきたかと思うと自分の馬鹿さ加減に腹が立ち、カ～となって考える間もなくザックを下ろすと、「ここで待っていて」と2人に言って、たった今、ヒイヒイ登ってきた急坂を走りおりた。と言うのも、てっきり先程雨具をザックに仕舞いこんだ林道終点に置き忘れたのだと思い込んでいたからだった。しかし、林道終点のどこを捜してもカメラは無い。ここで頭を冷やして考えればいいものを、カ～ときている時は常識では考えられない行動をとるものらしい。車の所に置き忘れたのかも知れないと思い、さらに車まで戻るが、カメラはあろうはずがない。だれかに盗られたかと当ば諦めて引き返したが、どう考えても林道終点までは持っていたように思えてならない。「おかしい、おかしい」と呟きながら、再び急坂を登り始めると、「あった！」。カメラが無いと気づいた地点のほんの数程下にあったではないか。そこは彼女が雨具をザックに仕舞うのを待っていた場所だった。

30分かけて登ってきた場所から車まで、30分で走って往復したのだから、カメラを見つけたとたん足はガタガタ。それからの登りは急坂だったこともあり、5歩登っては止まり、10歩動かしては休むという状態で、バテバテと言っても過言ではなかった。やっとの思いであえぎ登り、反射板のあるピークへ到着したのは11時15分。30分程で登れる斜面を1時間以上もかかってしまったのである。

反射板の北のピークが蓮ヶ峯（544m）山頂。見晴らしはきかず、何の標識も見当たらなかった。その昔、足利高氏ゆかりの地が麓にあり、熊野信仰にまつわる寺や修験道場がこのあたりの蓮ヶ峯山麓一帯にあったとは思えないほどの静かなブナの自然林であった。

尾根を北へとり三角点へ向かう。微かな踏み跡があったが、コルを越えるとササが行く手をさえぎる。道のないササ原の林を尾根をはずさぬように進む。ピークを二つ越え、登りつめると杉林の尾根に三角点が立っていた。三角点が無ければ何の変哲もない尾根の盛り上がりでしかない場所だった。2等三角点『点名東八田村』（595・3m）、今は無い村の名

点名東八田村三角点にて記念パーティ

から付けられた三角点名である。標石は真南向きで比較的新しく見える。

幸いに、雨に遮わずここまで到達することができた。せっかくの記念登頂に雨だったらどうしようかと思っていたが、天はわれを見捨てなかった。

この場所で、京都府下500㍍以上の三角点を全て踏んだ、ささやかなお祝いのパーティとなる。蕎きそばをつくり、持参の飲み物で「京都府下三角点峰完登乾杯！」

これまで度回となく、道なき京都府の山をいっしょに登った思い出話に花を咲かせながら、ひとときを過ごした。

パーティが終わると、それを待っていたかのようにあたりが暗くなり、いまにも雨が降りそうなので、早々に下山することにした。蓮ヶ峯まで戻った時、ついに雨がパラついてきた。しかし、当初の予定通りもう一つの三角点「点名上杉」へと向かうことにする。相棒は反射板まで戻り、そこから尾根にのるのだと言って聞かなかったが、かまわず蓮ヶ峯から西北西にのびる尾根へとくだる。ちょっと見ると全く方向違いの西へくだるような錯覚に陥る尾根だったが、2人はしぶしぶ後ろをついて来た。しかし、目的の尾根にのったと分かると、今度は先頭になってくだり始める。一つ目のピークまで来ると、さらに雨がきつくなり、雨具を着けざるを得なくなった。尾根には道は全くなく、ササの斜面の下りでは雨具は全く役に立たないに等しい。着ている衣服は汗と雨でビショビショ。川を泳ぎ渡ったように濡れてしまった。とにかく、ひたすら道なき尾根をくだる。やっと三つ目のピークまでくだり、そのピークを登ると送電線鉄塔があった。

鉄塔から10㍍程南にササをかき分け入った所に「点名上杉」（394・8㍍）はあった。三角点広場は狭く、3人坐るのがやっとの広さ。人があまり訪れないのか、四つの保護石がしっかり残っていた。展望は全くなく、長く留まる場所ではないので、雨に打たれながら喉を潤した後すぐ巡視路をくだる。施福寺へ戻ったのは14時35分だった。

最後には、雨でビショビショに濡れてしまったものの、幸いにして登りには雨に遭わず、優雅（？）な「京都府三角点峰」完登記念パーティまですることができた。そのうえ、人に言えないようなトラブルまで体験したことで、忘れられない山行になった。

（平成10年6月14日歩く）

△コースタイム▽

施福寺（30分）林道終点（30分）反射板（10分）蓮ヶ峯（25分）点名東八田村（1時間10分）点名上杉（20分）施福寺

△地形図▽2万5千＝梅迫

連載

下北・津軽半島の山旅

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第19回）

坂井久光

平成元年7月27日、東京の新ハイキング社から一等三角点研究会員3名とその他2名の共著による『一等三角点の名山100』の出版記念と多摩雪遊氏喜寿祝賀会が開かれたので、私が一等三角点研究会の代表として出席することになった。そのついでに、今夏は北海道の山旅はやめ、東北で残っている1等三角点の山を一掃しようと決めた。

京都から普通列車を乗り継ぎ、夕刻その会に出席した後、上野駅から夜行列車で岩手県の水沢駅へ。一番バス石淵ダム行きに乗り終点の原前で下車。小雨で雨具を着け林道をたどった。姥谷集落でひと休し、林道終点から急坂を中沼へ、泥沼のなかを用心しながら登った。アヤメ・ワタスゲ・ウシ・ダケブキの咲く湿地を通って銀明水の避難小屋へ着いた。東京都庁の2人と同宿して一夜を明かした。

翌29日、雨と風が強かったが6時出発。7時5～10分姥石平、姥石岳（1548㍍）へ7時30～35分登頂。高山植物の宝庫だが風雨が激しく、すぐに下山し金明水小屋へ逃げ込んだ。ひと休みして経塚山（1372㍍）へ向かったが、突風がものすごく、1人が倒れ帽子やフライが吹き飛ばしまった。経塚山登頂の頃にやっと雨も風も弱まった。ササの溝状コースを夏油温泉に向かって下山した。夏油をゲトウと読むのは、昔湯と油を間違って書いたのが原因だとか。夏油川には新しい鉄橋がかかっていたが、その手前で崖崩れがありザイルが張っていた。私が先に渡り部庁の2人を注意して渡す。前回泊まった宿で一泊。露天風呂や洞穴風呂に入浴し、夕食後は鬼剣舞を鑑賞して就寝した。

翌30日、バスで北上駅へ出てJRで野辺地駅へ。大湊線に乗り換え吹越駅で下車した。明神平の牧場を横切って東道の登山口へ行き、吹越烏帽子（508㍍）を往復した。山頂は草原でマツムシソウが咲き、小沼があった。展望広大、北に釜臥山、東に太平洋の陸海を見る。下山後むつ市の車をヒッチして矢立温泉に行き一泊した。

翌31日、タクシーで恐山と釜臥山の分岐まで行き、麓下の展望台へ。山頂は航空自衛隊基地で石段を登って釜臥山山頂（879㍍）へ。展望広大、眼下に陸奥湾、対岸に津軽の山々、北に燧岳・大作山が眺望できた。近くには恐山や宇曽利山湖が見えた。ヒッチしてむつ市へ下山。大畑行きバスに乗り終点で下車し、奥薬研温泉行きのバスに乗った。福祉センターに行き自炊で一泊。

吹越烏帽子山頂

翌8月1日、所長の車で佐藤平まで送ってもらい、牧場内の車道を登る。左折して終点と覚しきあたりを北へ登ったが、営林署の切り開きが分からず、ついに山頂直下の台地に至り、木に登って平坦な山頂を探す。ようやく刈り分けを見つけて燧岳（781㍍）に登頂。釜臥山がガスのなかに浮かぶ。大作山も北にうっすら見えた。よい刈り分けを下山し、易国間との分岐で車を拾い奥薬研温泉で下車。河童の湯（露天）で一浴。貞観四年（1100年前）円仁慈覚大師が恐山開山後当地に至ったが、夜になり崖から落ちて怪我をして失神したところ、頭にフキの葉をかぶった河童が出て来てこの温泉へ連れて行き、手当てをしたので程なく全快した。それ以後、河童の湯と言われるとの碑があった。福祉センターに戻り、所長に厚くお礼を述べて大畑に出て、バスで本州再北端大間崎を通って夕刻先井村へ。遅くよく福浦民宿の車に拾われ、なみえ荘で一泊できた。

翌2日、民宿の車で大滝林道のゲートまで送ってもらい、林道をつめブル道をたどった。終点近くの山道を見つけて大作山（776㍍）に登った。付近一帯はアスナロの原生林が見事だった。山頂近くはササやぶとなり、山頂に出たが10㍍四方の平坦地は低いササ原で、約30分も一帯を探したが三角点は見つからなかった。深田クラブ関谷長の小林氏も見なかったと言っている。下山は赤石沢左俣をくだって福浦へ出た。船で青森へ、途中名勝仏ヶ浦の景勝を観光した。

青森は8月2日からネブタ祭りでどこの宿も満員。6月に八幡岳の下山で知り合った木立氏にせっぱつまって電話したら、ぜひ来てくれとうれしい返事。夕食を御馳走になり、その後ネブタを見物して一晩お世話になった。

翌3日、木立氏の車で東岳近くの滝沢まで送ってもらい、約2㌔を30分歩いて月光の滝のある御嶽教会の堂舎の登山口へ着いた。尾根筋のやぶっぽい道を登って東岳（684㍍）の山頂へ。ササやぶで三角点がなかなか見つからず、約30分探して、檜の丸太らしきものを見つけた。下を通して見るとフキやササの下に埋社が見つかり、2㌔程想石が出ているのを発見した。鉈で周囲を刈って写真を撮り下山した。大清水沢を経て舗道へ。滝に行をしに来ていた老夫婦の車をヒッチして青森のバス停へ。バスで駅に行き13時発の津軽線に乗り中沢駅で下車。タクシーを呼んで林道の終点まで行き大倉山（678㍍）へ。林道はさらに2㌔程のびており、尾根筋に出ると登山口の標識があり「3・6K」と書いてあった。前山を越えいったんコルにくだり急坂を登ると山頂で三角点と小祠があった。ガスで展望は悪かった。途中に山岳会の山小屋があった。往路下山。中沢駅まで歩いてJRで蟹田駅へ。ここもネブタ祭りの影響でどこも満員、仕方なく人のすすめで海岸の管理舎の軒下でシュラフにもぐった。蚊の来襲に悩い因った一夜を過ごした。

翌4日、蟹田よりバスで根岸の平館で下車。不老不死温泉に予約して丸屋形山

（718㍍）へ向かう。登山口から尾根筋道を通って、ヒバ（アスナロ）の原生林を通過すると林道に飛び出した。横切って鳴川岳麓の横の刈り分けに出て登路を見つけて鳴川岳へ登った。いったんカモシカ乗越へ急降下し、やぶ道をこいで山頂へ登った。北に袴腰岳、西に奥陸湾や下北半島の山々、西に四ツ滝山や南に津軽の山々が展望できた。休憩後往路下山。乗鞍付近は踏み跡が乱れているので要注意。刈り分けをたどって下山したが林道で切れ、ブル道をくだるが、それも谷で消えたので小谷をくだった。イワナがたくさんいた。登山口に出て不老不死温泉で汗を流し下着も洗濯してサッパリした。登山客に宿泊代を割り引きしてくれた。泉質は無色硫酸泉で皮膚に滑らかでよい湯であった。兄弟で経営していて秋田県にも同名の温泉がある。

翌5日、宿の車で蟹田まで送ってもらった。ここからバス便が悪く大平まで歩いて途中ヒッチして今泉へ、バスで日本海側の脇元へ。荷物を店に預け、タクシーを呼び鰺松林道を奥へ走った。好天で尾根道をたどり3等三角点518㍍に着いたが、その先はやぶだった。所どころテープが張ってあったが山菜採りの仕業だろうと思った。夕刻になり途中のピークからは雨も降りだし、視界不良でやぶはますますひどい。ピークを越えてブナの大木の茂る最高点付近を探すが、点標がなかなか見つからず、四ツ滝山（670㍍）は未確認のまま北へ向かって下山した。ブル道に出てさらに小谷をくだると林道に出た。西へ向かえば小泊に出るはずだと、ヘッドランプを灯けて歩いた。途中焼屋の所を通ったり長い林道を歩いて21時頃小泊に着いた。脇元へヒッチして遅い夕食をとり、タクシーで十三湖の民宿へ行き一泊。なお、四ツ滝山は山形氏と平成7年9月に後述の桝形山と共に登頂し、三角点を確認した。南の桂川からの四ツ滝沢林道終点から良い登山路が出来ている。

翌日は台風のため登山をあきらめ、深浦へ行き駅近くの旅館で二泊した。黄金崎不老不死温泉に入浴に行ったり、祭りを見物したり、夕刻には理髪店も経営する宿の主人と将棋を楽しんだ。次の日も雨で『白神山』の著者岩崎河の西口氏へ電話してから白神温泉へ行き一挙して帰ったが、明日ぜひ来てくれとのことで承知する。

8日、JRで追良瀬駅へ。オサナメ沢出合までヒッチして川沿いの林道をたどり、ブブの大群に悩まされて林道終点から山道を登り小谷の出合に出たが、道が谷筋か尾根筋か分からず尾根筋をとる。ヒバやコナラの茂る急坂で岩が出てきてよじ登ると山頂と覚しき平坦地に着いた。白樺が一本あるやぶ山で霧雨のなかを探したが、桝形山（320㍍）の三角点は見つからなかった。北は急傾斜で一帯はカラマツの植林があった。少急後小谷のやぶの切り開きをくだったが、これが国土地理院のルートではないかと思った。のち、山形氏と点の記を入手して一つ北の屈田の母沢林道からの刈り分けをたどって登頂し、三角点を確認した。

往路の山道に出て下山。JRで岩崎村に行き西口宅で一夜お世話になった。友人の釣師が来ていて渓流釣りの話に花が咲いた。付近の赤石川・追良瀬川はイワナやヤマメが川口近くから釣れ、アメマスも溯上してくるとのこと。

翌9日彼の釣ったアメマスの姿焼きを御馳走になった。（次号へつづく）

（文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。）

連載 比良を歩く ⑯

コメカイ道から地蔵山・音羽山

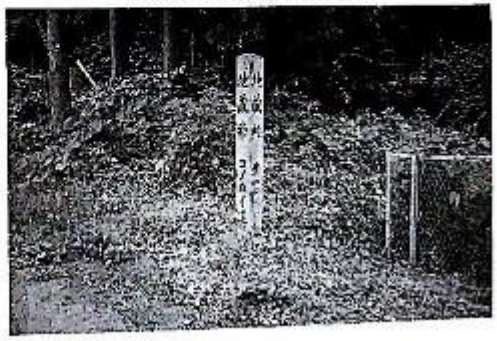
秦 康夫

安曇川側の朽木・栃生方面から奥比良の山脈を越えて高島町側に通ずる峠道は、往時生活物資の交易路として活用されていた。今は利用する人もなく、立ち枯れ廃道となってしまったのも多いが、そのなかのいくつかは地元の人たちによって整備され、現在では格好の登山ルートとなっている。今回はそのひとつ、栃生から「コメカイ道」と名付けられた登山路をたどって、地蔵山に登ることにした。

出町柳駅発の京都バス「朽木村」行きに乗車。「野尻道」の次の「朽木栃生」で降り車道を1分ほど戻ると、畑谷にかかる橋の手前に「地蔵峠登山口〜コメカイ道・ハタ谷口」と書かれた立派な木製の道標がある。朽木村山行会の手により登山道が整備された平成3年に建てられたものだ。総勢27名がここで身仕度を整え、9時15分畑谷沿いに簡易舗装の道をぞろぞろ歩き始めた。

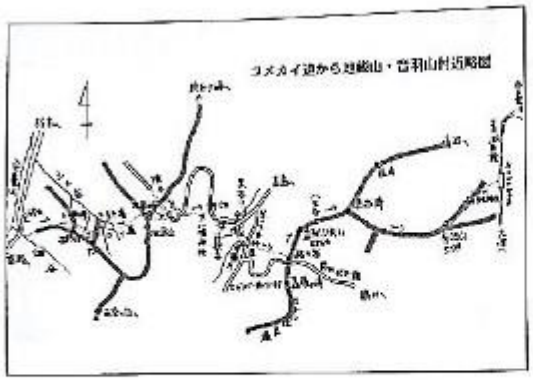
3、4分で道は谷筋を離れ左上に登って行く。そのまま行けば民家に突き当たるが、郵便受け兼用の道標があり登山道は右に曲がる。次の分かれ道をまた右にとり、貯水槽を囲う金網に沿って左に折れると、すぐ山道の登りになった。薄暗い植林帯のなか、ジグザグを繰り返しながらぐんぐん高度は上がるが、とにかく蒸し暑い。早くも大粒の汗が噴き出してくる。

地蔵峠へのコメカイ道登山口



歩き始めてから30分ほどで、ようやく植林帯を抜け東に向かう尾根にのった。松の混じる自然林の明るい尾根だ。広い尾根筋の右に寄ったり左に移ったり、落ち葉を踏みしめてのなだらかな登りが続く。木の幹や落ちた木の枝に付着している白い泡のかたまりはなんだろうと思ったが、アワフキムシのすみかのようだ。

道が尾根の左を巻き始めた所に「右ツルベ岳 左地蔵峠」の道標があった。ここで小休止。ササ峠・ツルベ岳への道は尾根に向かって登るが、地蔵峠へはホトラ山の北斜面に付けられたなだらかな道が東にのびている。右上は植林だが、左は明るい疎林帯が谷まで続く快適なユリ道だ。



「ええとこやなあ!」と、思わずもれる参加者のつぶやきを聞きながらルンルン気分で歩いているうちにシシ谷峠に到着した。峠とはいうものの、ホトラ山から北にのびる支尾根のひとつをひょいと越えるようなものである。

ここからは下り一方だが、まだしばらくは歩きやすいきれいな道が続く。大きなトチノキの葉っぱが薄緑色のアーケードとなって頭上をおおうなか、時おり差してくる木漏れ日を浴びながらの快適なリフレッシュ・ウォーキングだった。

左に深く落ち込むシシ谷の支谷を一つ越え二つ越え、次は急降下で三つ目のやや大きな谷におり立つと、すぐ上流に二段になった美しい滝が見える。ヒジキ滝だ。落差は上が7、8、下が10メートルくらいか。滝間から落ちてきた水流は、いったん途中の流壺でエネルギーを蓄え、改めて狭い落ち口から噴出している。中央にある岩で分かれて二条になって落ちてくる下段の滝は、近くに寄って見上げるとなかなかの迫力である。

登山道は滝の下流を横切って対岸に続く。飛び石を伝って渡ったのはいいが、すぐ道が崩れており、むき出しになった滑りやすい岩場のトラバースになった。距離は7、8メートルだが、スリップすれば数メートル下の川底まで止まらない。立木を支点にしてロープを張り、20分ほどかかってやっと全員が無事通過した。このコース唯一の危険箇所である。

左下にシシ谷を見ながら山腹を捲くような道をどんどんくだる。シシ谷が二段に分かれる少し上流で右股を越え、今度は左股に沿って上流に向かうが、このあたりの道はやや不鮮明である。時おり現れる目印のテープを頼りに、右岸左岸と何度か徒渉を繰り返し、いつの間にかシシ谷の本流を離れ、左（東）に向かう支谷に入ったようだ。

徐々に瀬音も遠ざかり杉林のなかの急な登りが始まった。ジグザグを繰り返すうちに次第に左上の方が透けてきて、薄暗い杉林の黒緑が明るい自然林の薄い緑に変わり、やっと小さなお地蔵さんのある地蔵峠に到着。ちょうど12時だった。

3等三角点の地蔵山（789・7メートル）へは峠から2、3分の距離だ。東側だけが開けていて、新緑に収まる絵のようにリトル比良方面だけが展望できる。嘉嶺ヶ岳の中腹に大きな青いものが見えるのは何だろうと話題になったが、広域林道・

地蔵峠

鵜川村井線の大きなガケ崩れの跡を養生シートでカバーしたもののようだ。登山者でなく山のほうが道難しているようで、見るからに痛ましい姿である。

地蔵山から少しツルベ岳方向にくだった球林のなかでゆっくり昼食。午後は畑の集落までおりてバスに乗る予定だったが、それでは帰る時間が早すぎるとの声があり、相談の結果、リトル北良の岩阿沙利山・音羽山を通って帰ろう、ということになった。

12時50分頃出発。地蔵峠に戻り、蛇谷ヶ峰に向かう縦走路と分かれて畑へおりる道に入る。両側からクマザサと雑木がおおいかぶさる清状の急な下りがしばらく続くが、次第にササの背丈も低くなり両側が開けてきた。明るい自然林のなかの歩きやすい道だ。桑に見えないが、ホトトギスの声があとを追ってくる。

峠から25分ほどで舗装された林道におり立った。登山道は谷沿いにまっすぐ下に向かっているはずだが、林道工事のため崩されてしまって跡形もない。やむを得ず林道を歩いて南から北へぐるっとUの字状に廻り、元の谷筋道の下あたりに戻ってきた。右の谷におりる階段がある。白い金属製の手すりのついた立派なものだ。この70数段の階段をおりると青いガクアジサイの咲く谷沿いの山道となり、数分でみずみずしい棚田の田園地帯に出た。

立派なゲートボール場と杉の巨木が見事な八幡神社の前を通過すると、間もなく畑のバス停。ここで早く帰りたい数人と別れ、鵜川越えの登山口をめざしてバス道を歩き始めたが、この炎天下の舗装道路歩きが一番しんどかった。黒谷口のバス停前を右に折れて、慈敬寺横の農道を東に向かうと梨ノ木林道に突き当たる。その右手にある沙願寺前の、東に入る農道が鵜川越えの登山道だ。

田んぼのなかの草道はいったん谷に近づいてから谷筋を離れ、右へ登る山道となる。道端のアザミと紫色の濃さを競うように咲いているショウブのような三弁の花が気になり、よそ見しながら歩いていると、跳び跳ねている小さな小さな緑色の雨蛙を踏みそうになってびっくりした。

間もなく広葉林道・鵜川村井線に通じる林道に出て、左にくだると砂防ダムに出合う。二つ目の砂防ダムを渡った所が鵜川越えの登山口だ。始めはいい道だが、そのうちに水がちょろちょろ流れる悪路になり、勾配も急になってくる。虎ロープのあるガレ場を過ぎ、登山口から25分くらいでリトル北良の縦走路に出た。例の広域林道の鵜川越から北に一、2分登った所である。

驚ろいたことに、冷やした西瓜のスライスをここまで持ってきた人がおり、あ

りがたくいただきながらゆっくり休憩。道標によると、ここから岩阿沙利山まで0・5㌔とあるが、この0・5㌔が曲者だ。急な登りが終わったかと思うと、また滑りやすい粘土道の急坂が現れ、道うようにして登って岩阿沙利山の三角点まで20分以上を費やした。

少し西にくだって大きな岩の上で、さきほど歩いてきた地蔵山や葵比長方面の展望を楽しんだあと、縦走路に戻る。どんどんくだって八王子の広場を過ぎ、稜線上に大きな岩が横たわる巨岩地帯を乗り越えて鳥越峰に着いたのは、16時過ぎだった。

縦走路を離れて右に入り、関電のマイクロウェーブ用反射板の横を通って音羽山に向かう。ここからが長かった。歩きやすい道だが、だらだらとゆるいくだりが続くので、歩いても歩いても少ししか高度は下がらない。45分ほどかかってやっと音羽山（511・3㍍）に着いた。2等三角点はあるが、切り開きのなかの何の変哲もない山頂で、尾根上の通過点のような所である。見晴山という別名が付いているが、周囲の展望も全くない。一服してすぐ下山にかかった。

鳥越峰から音羽山までは2・5㌔歩いて高度を170㍍ばかり下げただけだが、ここからは1・5㌔ほどの距離で高度が400㍍近く下がることになる。まっすぐ東にのびる尾根と分かれ、東北方向に入ると間もなく精尾根の急坂が始まり、眼下にパッと高島一帯の正園風景が広がる。高度はまだまだ高く、見下ろす琵琶湖は対岸がかすんでまるで海のようだ。

送電線の鉄塔を過ぎ、JR近江高島駅への表示に従って左に曲がると、山腹のトラバース道になった。水平道のような道が山裾を廻り込むように西にのびているが、登山道は途中で右に折れて鉄塔の下をくぐる。二連ある送電線の間をどんどんくだって、やっと遊歩道のような広い道におり立った。「音羽山登山口」の表示がある。

階段状の道をおりて両側が疎並木のきれいな道りを歩き、17時40分頃山王谷の砂防ダムに到着。湖西線からよく見える派手な色彩で飾られた大きなダムである。ガリバー旅行村のPRで、大きなガリバーが望遠鏡で小さなお城を眺めている図柄や、飛行船や風船にぶら下がる人たちが壁画のように描かれている。

ここで20分ほど休憩して着替えを済ませ、あとは日吉神社の横を通って、JR近江高島駅には10分ほどで着いた。

安曇川側から琵琶湖側まで、きょうは20㌔くらい歩いたかと思ったが、地図で計ってみると朽木栃生から畑までが約6㌔、畑から近江高島駅までが約10㌔、計約16㌔だった。

（京都北山グループ例会・平成11年7月11日歩く）

△コースタイム▽

朽木栃生バス停（50分）ヤヤ峠・ツルベ岳への分岐（40分）ヒジキ滝（1時間10分）地蔵山（45分）畑バス停（30分）浄願寺（50分）鵜川越（25分）岩阿沙利山（40分）鳥越峰（45分）音羽山（40分）砂防ダム（10分）JR近江高島駅

△地形図▽2万5千＝北小松

昭文社＝「比良山系」

小休止

泊まってよかった、民宿・山小屋・温泉旅館など、みなさんにすすめたい宿を、新ハイキング関西までお知らせください。

海上の森 5（最終回）

篠田池

山口　淳有

大正池からもと来た道をたどり海上道へ戻る。そして瀬戸市赤津、東山路町へ坂道を進む。左手に物見山から流れる谷川、右手に杉林を見て登ると三叉路へ出る。

三叉路を右にとると物見山、そして海上町へくだることになる。左に行くと瀬戸市赤津、東山路町へ至る。この東山路道の左に通行禁止の小道がある。その小道は草が茂り、人は通らない。所どころに「マムシ注意」と書いてある。

私は昨年の夏にこの道を登ったが、豪雨のあとで、いたるところに土石流の跡を見た。この海上一帯の山々は風化花崗岩地質、そしてサバ土地帯である。いったん大雨が上流の二股方面に降れば、すぐに海上町の至るところで土石流が起き、結果は赤津川・山口川をあばれ川とするのである。

さて、この道を500㍍ほど登るといわゆる「物見台」へ至る。ここにも「マムシ注意」の立て札が幾つかあり、夏から秋にかけては要注意の場所である。

この「物見台」からは、眼に物見山を見るもっともすぐれた場所であり、そして写真のように西に篠田池を望み、さらにセト市街、名古屋市守山区方面を眺望することができる。

そこで下の写真を見ると、前方には彩林（雑林による二次林）があり、手前にはリョウブ（自然林）が茂る。ところで、この篠田池は自然の池であろうか？　この写真の池の前方に堰堤が見えるはずである。

ゆえにこの篠田池も海上の森を守るための砂防工事により出来た池である。前にも書いたように、海上界隈は大雨の降る地域であり、いったん大雨が降れば、いつも土石流の起こる風土である。山土は柔かく、崩れやすい山々である。陶芸にはよい粘土を出す所で、いわゆる「キツネケン」である。

さてさてみなさん！　この篠田池付近にオオタカがいる。というのは、ここはセト市赤津の山路に近い所であるからだ。

山路は江戸時代の村絵図にあるように、「タカの名所」で、毎日ここからタカが海上に向かって飛び立ち、ある時は名古屋でもタカの姿を見ることができたのである。いまこういうことを知っていらっしゃるセトの人々が、いったい何人いらっしゃるのかと私は言いたい。私たちは常に過去の歴史的真実をふまえて未来を語ることが大切であると思う。

話は別の場所へ移る。

いま私はセト市若宮町の旧赤津川の流に佇む。ここは今から45年ほど前は赤津川の急流であった。その赤津川は現在旧赤津川からひと山越えた所を流れている。

赤津川の源流は三州（三河）との境、戸越峠から流れ、セト市赤津を経て海上へ入り、この篠田堰堤から流れる篠田川と合流して、次に山口堰堤から流れる山口川へ注ぎ、さらに矢田川となり、最終には庄内川となるあばれ川である。この赤津川は標高200㍍の山をも壊す強烈な川である。いまこの旧赤津川の流に佇むと、「おんかの坂」の近くに、幾つかの墓石が並ぶ。

現在この地域には2世帯の住宅があるが、かつて江戸時代にはここに寺があり、住宅も10世帯あった。ところが明和四年（1767）の海上の大洪水により、寺も住宅も海のもくずと消えたのである。それがいまのこの篠田池からの洪水である。それほど海上の洪水は恐ろしいものがある。その洪水のあと、だれかがここに住んでした人々を悼んで墓を建て、いまでもお盆になると、墓付近の草を刈り花をささげるなどして亡き人を鎮魂しているのである。

ところで、「海上の森」について書くことはまだまだたくさんあるが、毎日講演やら、創作（小説、作曲など）に追われ、とてもこの続きを書くいとまもない。

この海上に興味のある方は、次の拙稿をお読みいただければ幸せである。

1「海上の森―それはわが心のふるさと―」（『大図』52・津市一身田284-3　高田中・高等学校文芸部刊）

2「海上かいわい・1～54」（『とうめい新聞』瀬戸市陶磁町一丁目八番地）

いずれにしても読者のみなさまが自らの足で「海上の森」を訪ねられることが大切だと考えている。

そして、このたびこの「海上の森」執筆のご縁を促してくださった編集長村田氏に感謝申し上げる次第である。

なお、本稿についてのご感想などがあれば、左記へFAXいただければ幸せである。

FAX　0595(5)1330

山口まで

「物見台」から篠田池・セト市街を望む

旧赤津川流「おんかの坂」にある明治の洪水による犠牲者の墓

近世の岳登り山
都介野岳・貝那木山登山

コースとコースタイム　近鉄橿原駅北口（バス15分）→①吐山バス停（10分）→下部神社（1時間）→②都介野岳（35分）→③国津神社（15分）→④来迎寺（15分）→⑤都祁水分神社（10分）→⑥小治田宮方宮跡（25分）→⑦三陵墓古墳（1時間）→⑧貝那木山（35分）→南貝石バス停（バス25分）→橿原駅（徒歩約12㌔）

中村敏文

古代の斑鳩国と伝承される大和高原の都祁村は、名阪国道が東西に国道369号線が南北に通じ、高原曼荼羅峰の貝ヶ平山・香酔山や額井岳等が南部を区切り、御神体山と立ち入り禁止の野野上山など、近世の岳登りの名残を留める山々が多い。

回数の少ないバスは村の中心の針へは天理駅から890円、近鉄橿原駅から720円だが、橿原駅発10時10分のバスは吐山まで15分、380円で運んでくれる。

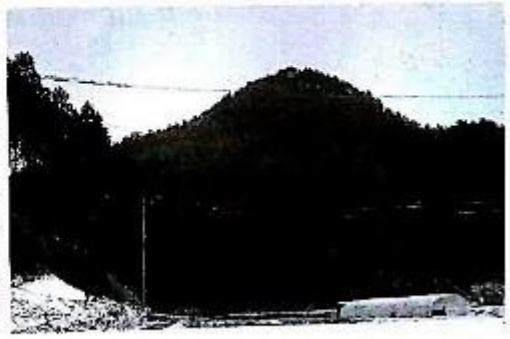
① 吐山（山辺郡都祁村大字吐山）

吐山バス停から東へ笠間川を渡ると、式内の下部神社に比定する吐山の氏神が鎮座する。明治末に東南のオリエ地区から現在地の春日神社へ合祀し下部神社と改め、彦八井耳命と天之児屋根命を祭神として旧吐山村の村社となる。

岳山の山麓の旧社地に「いわくろ」という原始信仰の磐坐相当の石群が残り、古記録の訓にはシモベ・ヲリベ・オリイの社名がある。春日神社は吐山日向守光政が春日大明神を勧請し、諸豪族が並立した戦国時代の弘治二年（1556）には吐山地区の総社となっていた。

境内末社の恵比須神社にもとは成福寺薬師山にあった十二社神社の摂社で、江戸初期に当地へ移され豊作祈願の返礼として、「いさみ踊り」という太鼓踊りを奉納したという。近世の雨乞いの岳登りは成福寺・長野・田町は金平岳、中南は中南岳、小川口は小川口岳、清水・大夫は清水岳へ登った。山頂でかがり火を焚いて夕食を済ませ、般若心経を斉唱し鎌倉踊・山伏踊など「勇踊」を奉納し祝詞を奏上したという。現在岳登りの風習は途絶えたが、元禄・文化時代の踊り歌本と千灯明などの掛軸は残っている。

都介野岳



② 都介野岳（都祁村大字南之庄）

下部神社から東北へ旧街道を500㍍進み左折して国道を渡る。吐山清水の地蔵院の横から西北へ500㍍余り登ると村道へ出る。村道を横切り直進して国津神社からの登山路に入る道をやめ、村道を1㌔ほど伝い左へ大きく廻り込み、右へ大きく廻る所から山頂をめざして西北へ登る最短距離の登山道に入る。

吐山大夫の村道から西へ500㍍ほどややきつい山道を登り、西北へと向きを変え300㍍登ると国津神社からの登山道へ出る。真北へと向かい10分も登ると631㍍の都介岳山頂で、南之庄の人々が雨乞いをした竜王社の小祠がある。

都介野岳は山頂を含めた北側は南之庄で、南側は大部分が相河に広がる。山頂の西南中腹にある五間と六間四方の土塁は竹渕山寺跡で、奈良時代の高僧道慈が隠遁したと伝えられるが詳細は不明である。

山頂は展望がよく開け、眼下には吐山の茶園を伏せたような岳登りの山々、北東方向には貝那木山・野野上山・壺の山が独立して見える。南方には室生火山群の特異な山容の著名な山々が見え、遠くには円錐形の見事な高見山から大台に連なる台高山脈、南方遠くには大峰山を始め吉野の連山が霞んでいる。

都介野岳からの下山は北へ竜王社参詣道を200㍍くだると左右に分岐するが、東南之庄バス停への道を避けて勾配のゆるい国津神社への西側の参詣道をくだる。

都介野岳・貝那木山付近略図

③ 国津神社（大字南之庄）

山頂から30分余りでくだり着いた国津神社は南之庄の氏神で、甲岡・北白石に鎮座する国津神社同様に大国魂命を祭祀する九頭大明神である。貝山中という大和高原の各近国では、古くから農業神・水神としてまつられた神である。

当社社記によると天禄三年（972）に伊賀国同郡二位峰の国津大明神を河内国へ移す途中、当地に一泊したが翌日は神体の白石が動かなくなった。そのため柏峰に社を建て二位峰と称し都祁水分神社の末社に加えたとある。現在神社背後の柏峰には国津大明神鎮座の旧跡という二十数個の岩石群が残り、以前は10月10日に柏峰で参籠し収穫を感謝して踊りを捧げたといわれる。

④ 来迎寺（大字来迎寺～本原）

国津神社から北へ行って県道781号へ入り、西へ700㍍歩いて左折すると、木原の森のなかに無住寺に変化した行基開基の来迎寺がある。抵津源氏一族の多田頼鎮が永久二年（1114）に寺域を設定し、貞応二年（1223）に相河庄の運阿が本堂を建て阿弥陀如来を安置す

る。

その後は多田城主多田経実や東山内衆（小衆悪）が菩提寺として支援し、建武三年（1336）には能阿の孫了尊が諸堂を再建し、その弟子西念が東山中十三ヶ所に十三重石塔建立など寺勢を張る。

現在本堂裏の境内に残る鎌倉・室町時代の百基の五輪塔は、当寺を菩提寺とした東山内衆が建立した供養塔で、室町末期に東山内衆が勢力を失うと急速に寺は衰微する。現本堂は江戸初期に再建された。仏壇のみは鎌倉時代の作で、鎌倉末期作の善導大師坐像は重文、定安後期作の木造阿弥陀如来は県指定文化財である。

本堂裏の2尺大の石造宝塔（重文）は如法経安置のため延慶三年（1310）に造立された。当寺が須磨寺に売却した十三重石塔は嘉暦二年（1327）銘の秀作である。当寺にある十三重石塔は売却二年後に建立した模作の塔である。

⑤ 都祁水分神社（友田～坂窪山）

来迎寺参道口へ戻り、来迎寺集落を北へ抜けると15分で水分神社へ着く。明治四年に郷社となり、その後に式内の都祁水分神社に比定され県社に昇格する。

拝殿・本殿（重文）ともに大和高原第一の立派な建物で、室町中期建立の春日造の本殿前の狛犬は鎌倉末期作である。祭神は速秋津彦命・天之水分神・国之水分神で、当社縁起には水分神を天照大神の分神と記している。古代より大和四水分社として皇室の崇敬を受け、奈良時代に都祁神戸を、平安時代には従五位下より正五位下に昇叙している。

⑥ 小治田安万呂墓（大字中別）

水分神社南側の間道を抜け甲岡へ10分も歩くと、丘陵の南斜面に小治田朝臣墓がある。明治四十五年に茶畑の植え替えで発見され、昭和二十六年に発掘調査して国史跡に指定されたもので、発見された三枚の墓誌に「右京三条二坊従四位下小治田朝臣安萬侶墓（略）神亀六年（七二九）二月九日」と刻んである。「続日本紀」の中級官吏安万呂の昇叙記事などと墓誌銘が一致している。

⑦ 三蔵墓西古墳・東古墳（岡之庄）

甲岡の南端から南へ畷道を抜けて県道7・8・1号を左折して東へ20分、南之正東端の丘陵端に直径40尺の円墳である西古墳と、その100尺東に長さ90尺の前方後円墳とも推定される東古墳がある。

東古墳は明治末期に、西古墳は昭和二十六年に発掘され、五世紀前半頃の築造と推定され岡鹿国造の墳墓とも言われる。

⑧ 貝那木山（大字日石～貝那木山）

三蔵墓古墳から県道を東へ10数分歩き国道の手前で右折する。興善寺下を通り薬師前で左折して国道を横切ると南白石集落の南端へ出る。東南方の597尺の山頂まで東側を廻り込む700尺の山道を半時間ほどで登ると、貝那木城の本丸跡の山頂（597尺）である。南出丸と西出丸もあったが出丸跡は規模がつかみ難く、帯くるわにあった二ヶ所の井戸の一つが残っている。二の丸と西出丸の中間には雨乞いをした八大竜王の参籠所がある。

この山城は東山内衆の大者、多田城主多田延実が出城として天文年間に構築したと言われる。参籠所と南白石を結ぶ旧参道をくだって半時間、南白石から17時発のバスで榛原駅へ25分で到着する。

新ハイキング選書

第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版／上製本／B6判 350頁／定価1690円 一等三角点の知識をこの一冊に収録

第6巻 **花の山を行く** 松本雪枝 著
3刷発売中／上製本／B6判 356頁／定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集

第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著
3刷発売中／上製本／A5変型判／定価1635円 山岳画家足立真伯の珠玉の画文集

第8巻 **旅がらすの山** 冨田弘平 著
3刷発売中／上製本／B6判 358頁／定価1835円 内容豊かな紀行文50編を収めた

第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/冨田弘平/松本治 共著
3刷発売中／B6判 336頁／定価1632円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集

第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中／B6判 360頁／定価1660円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書

第14巻 **百歳までの山登り** 冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判 360頁／定価1835円 法師豊富な著者の紀行と随想集

第15巻 **日本300名山ガイド〈東日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣瀬和嘉 共著
9版発売中／A5判 300頁／定価1680円 新ハイキングの精選5氏実地踏査のガイド

第16巻 **日本300名山ガイド〈西日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣瀬和嘉 共著
6版発売中／A5判 320頁／定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック

第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2版B6判 354頁／定価1660円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書

第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/冨田弘平/松本治 共著
2刷A5判 340頁／定価1800円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介

第19巻 **山との出会い** 冨田弘平 編
B6判 320頁／定価1680円 山の随想集、55名が渾身の経験

第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山陸/高橋生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁／定価1680円 第9,18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介

第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 286頁／定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内

発行所 新ハイキング社
〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話／Fax 03-3915-6110
振替 00130 9146915
●価格はすべて消費税込みです ●郵送でのご注文は送料当社負担

文学歴史探訪ハイク ㊷

紀見峠駅から岩湧山へ

松永惠一

葛城二十八宿

「かつらぎは大和のくにに限るにあらず　このみねは東南に紀の川のながれをしき　西国は友か島　西北は海濱の山際をかぎり　東北は石川のながれをさかへ　大和川の落合よりその水上にいたりては亀瀬といへる所にをはる　惣じて紀泉河和の四か国に跨りて行程二十八里が間の総名なり」と『葛宿雑記』は伝える。

妙　経塚品第一之地　友ヶ島　加太浦
妙　方便品第二之地　一ノ宿光福寺　同神福寺　同明神山慈眼院
妙　譬喩品第三之地　三之宿鳴手村　飯盛が岳　金剛寺　宝良山常仙寺　以上四点を以て三之宿とす　善明寺　鳴滝山同明寺　大峯山金剛寺
妙　信解品第四之地　流畑金剛童子　人江宿除蘆王
妙　薬草喩品第五之地　おし河万福寺　一乗山根来寺　今畑多聞寺
妙　授記品第六之地　中畑来迎寺　神通畑
妙　化城喩品第七之地　楠陰峯山粉河寺　中津川高野堂
妙　五百弟子受記品第八之地　犬鳴山七宝滝寺
妙　授学無学人記品第九之地　番原とちの木谷　嶽の竜王　金剛童子両
妙　法師品第十之地　牛滝山大威徳寺
妙　見宝塔品第十一之地　大沢神福寺　桃林山観音寺　竜宿山三越峠
妙　提婆達多品第十二之地　天女山正楽寺
妙　勧持品第十三之地　鐵の多輪経塚
妙　安楽行品第十四之地　蔵王権現　一乗山勝楽寺　福玉山光徳寺
妙　従地涌出品第十五之地　岩湧寺
妙　如来寿量品第十六之地　流谷金剛童子
妙　分別功徳品第十七之地　天見不動
妙　随喜功徳品第十八之地　岩瀬経塚山
妙　法師功徳品第十九之地　堺原小峰寺　山内東覚寺　神福山大沢寺
妙　常不軽菩薩品第二十之地　石寺
妙　如来神力品第二十一之地　金剛山転法輪寺
妙　嘱累品第二十二之地　朝原寺　水越経塚
妙　薬王菩薩本事品第二十三之地　葛城山一言主寺　くじら経塚
妙　妙音菩薩品第二十四之地　平石峠経塚
妙　観世音菩薩普門品第二十五之地　裾下山高貴寺
妙　陀羅尼品第二十六之地　二上山当麻寺　岩屋の窟　二上権現
妙　荘厳王本事品第二十七之地　逢坂の経塚
妙　普賢菩薩勧発品第二十八之地　亀の尾宿（この間中になお一百八所の行所あり、故に若干のみねともいう。其内順序の所のみ、こゝに出して残るところは往古より遺失の霊所なり。）

岩湧寺

岩湧山の中腹にある。文武天皇の勅願寺で、大宝年間（701～704）に役小角の開基と伝える。もとは天台宗で台密系修験道の道場として栄え、葛城二八宿の第十五番目の地とされ、北西の山中には経塚が残る。『葛宿雑記』の岩湧寺の条は、「木尊十一面・神変大士・経塚。妙従地涌出品第十五之地　おもひきや岩湧寺の名におひて経つかさへもふたつありとな」と記す。

『日本輿地通史』は、「さん嶽屹立してその勢い湧出る如し因りて名づく」と記し、『河内名所図会』も、「加賀田村の南にあり、当山紀州九度峠の西界なり、さん岩屹立して湧き出るが如し」と、岩湧山の名がつけられた伝承を残す。

宿坊を遠く離れた仙境には、伽藍がそびえ、法燈が伝えられていた。江戸時代には醍醐寺三宝院正の祈願所となっていたが次第にさびれ、明治の廃仏毀釈で無住となり、現在は臨済念仏宗中本山極楽寺の末寺となっている。

境内には鎌倉時代再建の本堂・表門・客殿、淀君再建と伝える多宝塔が建つ。三間二層の多宝塔は重要文化財に指定されている。本堂には木造の本尊十一面観世音菩薩と左右に役小角と不動明王を安置している。本尊の観世音菩薩は弘法大師の作と伝えられていたが盗難に遭い、今日のは作者不明である。須弥壇にある厨子は、室町時代後期のものとみられ、市の文化財に指定されている。

多宝塔に安置されている大日如来坐像は平安時代末期の作とされ重要文化財に、脇の木造愛染明王坐像は鎌倉時代の作で市の文化財に指定されている。

村人に悪さをする龍を、修行僧が昇天させたと伝える道場の（ほこら）が、参道左手の赤い鳥居の先にある。

岩湧の森

その名の由来ともなっている「湧き出るように屹立した岩」や杉の古木など、深山幽谷の趣深い岩湧寺一帯に整備された「岩湧の森」。園内には、解説員が常駐し様々な自然情報を提供するログハウスの体験所「四季彩館」、5月になると約1000本の花が咲き誇る「しゃくなげ園」のほか、野草園、キャンプ場などがあり、動植物の観察や岩湧山周辺のハイキングコースの中継地となっている。

岩湧にまつわる伝説

岩湧寺の臥龍洞

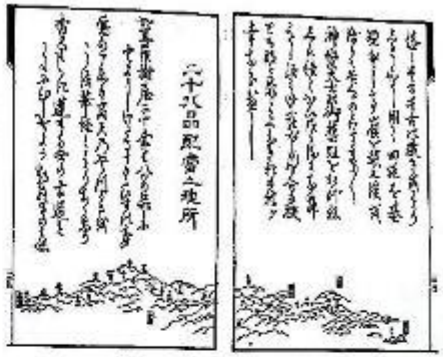
むかしむかし、臥龍洞に住む龍が村人たちの田畑を荒らしたり、いろいろな悪さをしていた。村人が困っているのを聞いた岩湧寺の修行僧は、流に打たれて祈願を続け、法力を身につけ龍を昇天させたという。臥龍堂と洞の付近には杉が天高く茂り、荘厳な雰囲気を漂わせている。

岩湧山の天狗

昔、岩湧山には天狗がいたと伝えられている。「岩湧山には天狗さんがいるさかい、猟師かてこの山では鉄砲うったらあかんていわれてましてん。岩湧山へ行ったら山の木にも触れるなと親によういわれましたよ。」と懐かしそうに話すのは地元の老人。また、今はもうありませんが、その昔岩湧山の東側にあった「天狗松」は天狗がお泊まりになったと伝えられ、他の松より3～4倍も大きかったという。

一丁地蔵

岩湧寺までの道には一丁ごとにお地蔵さんが建てられていた。現在でもいくつかの一丁地蔵が残り、欠けた姿で時の移り変わりを静かに見守っておられる。



墓誌二十八宿（『墓誌雑記』）

コース概観

紀泉山脈の主峰岩湧山（$\frac{\text{897}}{\text{m}}$・7㌔）は、ふっくらとやわらかな優美な山容と、高原状の頂上の広大なカヤの群生地で知られる。修験道の開祖・役小角は大峰の山々で修行をする以前に、この山野を駆けめぐり練行を続けた。山腹にある岩湧寺は高城修験の著名な道場であった。岩湧寺と頂上からの360度の大展望を楽しみに訪れてみた。

関西空港行きの人で賑わう南海難波駅から極楽橋行きの急行に乗り、紀見峠駅で下車。十数名降りたが、全員登山者で昨今の登山ブームをうかがわせる。ダイヤランドトレイル経由金剛山方面であろうか、紀見峠方面に向かって行った。

駅前から左折、踏切を渡りすぐの分岐を右折する。牛頭天王社の森を左に見て、しばらく登って行く。南海電鉄の新紀見トンネル口を左に見ながら桂古谷沿いの林道に入る。清らかな谷で気持ちがよい。ヤマメ釣りの人に出会う。川をよく見ると15㌢位の魚が泳いでいた。しばらくさかのぼると、越ガ滝が4㍍の落差で落ちているのが見下ろされる。分岐点では林道と離れて杉林へ。ここからきつい登りになる。暗い手入れの悪い杉林の中の尾根筋を九十九折りに登る。所どころ三石山（$\frac{\text{736}}{\text{m}}$・6㌔）が見え隠れする。やがて府県界尾根の三合目、ベンチが置かれている。紀見峠からのダイトレに合流する。大阪平野が杉木立の間から望まれる。風がとてもさわやかだ。

道を左にとり緩やかな尾根道を登る。南海電鉄の反射板の立つ根古峰（$\frac{\text{749}}{\text{m}}$・8㌔）の横を過ぎる。階段状の道を登り切ると林道に出る。まもなく左方が大きく開ける。三石山が眼前に横たわり、背後に高野の山群や紀北の山々が望まれ、眼下に紀ノ川がゆったりと流れる。

しばらく進むと座頭城山（$\frac{\text{922}}{\text{m}}$）との分岐点。右にとり阿弥陀山（$\frac{\text{842}}{\text{m}}$・6㌔）の山腹を巻き、大平を経て五ツ辻の狭い鞍部に着く。少しくだると岩湧寺への分岐「いわわきの道」。岩湧寺へのんびりと杉の美林、もみじなどの雑木林を通り、小鳥やリスに出会いながら、家族で楽しめる。

まっすぐに緩やかな坂を登り、岩湧の東峰の頭を踏む。岩湧寺から直登路「ぎゅうざかの道」（兼松新道）が合流している。すぐに岩湧山に到着。山頂付近は広場になっていて、弁当を広げ憩うのに最適。寝ころぶと疲がゆったりと流れていった。

山頂一帯は密にキトラのカヤ山と呼ばれ、茅が波打つ雄大な草原が広がる。この岩湧山の茅は、太く硬く、人の背丈よりはるかに高いので、全国の重要文化財の屋根葺きに利用されている。3～4月にかけて刈り取られ、東京で滝畑へ下ろされる。折れたり倒れた茅は弾力がなくなり役に立たなくなるので、巻先に全て刈り取られる。

左は稜線のたわみにみえる槙尾山（$\frac{\text{897}}{\text{m}}$）、レーダードームが光る三国山、和泉葛城山、関西空港。眼下に青い水をたたえた滝畑ダム湖。右は、金剛山・大和葛城山・二上山・左駒山までの眺望が楽しめる。六甲連峰から淡路島、また遠く大峰の連山へと視界が広がる。真正面にPLの塔が見え、8月1日にここに登れば、PLの花火がどれほどきれいに見えるかと思った。

来た道を少し戻り「ぎゅうざかの道」をくだると岩湧寺。その名の通り、ひどい急勾配だから山登りに自信のある人向き。以前、兼松新道と呼ばれていた頃は、ズルズル滑るは、木につかまるは、で大変な道だった。今は整備された丸太階段が続く。積雪時はアイゼンが必要。ファミリー登山の場合は、時間は余分にかかるが「いわわきの道」をとるのが無難。

岩湧寺は周辺一帯が、森林公園「岩湧の森」として整備されている。

境内には樹齢四百年を超える杉がうっそうと林立し、目を奪われる。滝岩お手植えの桜、樹齢四百年のトチなどがある。多宝塔のすぐそばにあるケヤキは樹齢約二百年。幹回り4㍍、樹高25㍍の大木。根元の巨石を取り巻くように太い根をはる姿は自然の営みのすばらしさを実感させる。

本堂の正面の谷をぞひとものぞいてはしい。これが岩湧きのいわれの由来。ムクムクといまにも岩が成長するかのようで、昔の人は悪にむせんでこの地に寺を建立した。いまでも、その感覚にはうなずけるものがある。そばに近寄って、岩を覗いていると、雲が走っていまにも岩がゆらぎそうな感覚を覚える。

重厚な雰囲気が漂う境内をゆっくり散策した後、かつて山伏たちが岩湧寺に通った山道「いにしえの道」をくだる。美しい自然林の茂る渓流沿いの道は、行者の滝や渓流のせせらぎ、長寿水などを楽しませてくれる。車道に出る。5月中頃は八重山吹の花に彩られる。

民家が見えてくると行司河原分岐。加賀田川沿いにくだり上の組、中ノ組の静かな山里を過ぎれば、河内長野駅前行きのバスが出る神納に着く。

△コースタイム▽

南海紀見峠駅（1時間15分）三合目（1時間）五ツ辻（40分）岩湧山（45分）岩湧寺（1時間20分）神納（南海バス25分）河内長野駅

△地形図▽2万5千＝岩湧山・富田林

△費用▽

南海難波駅～紀見峠駅　620円

△問い合わせ先▽

南海総合サービスセンター
06（6643）1005

岩湧の森・四季彩館　10時～16時30分
0721（63）5986
（月曜日・年末年始休館）

特選コースガイド(1)　兵庫丹波

地蔵の森公園から 高山

中級コース（★★）

慶佐次　盛一

高山は地元では有名な山だが、相変わらず地形図には山名の記載がない。最近は登る人が多くなったようで、以前に比べればやぶもなく、歩きやすくなったので高山から大呂坂へのコースを紹介する。

JR福知山線谷川駅からタクシーで高山の登山口へ向かう。以前は登山口をいちいち運転手に説明しなければならなかったが、高山の登山口あるいは地蔵の森公園へと告げればオーケーである。タクシーの台数も増えた。

15分ばかりで地蔵の森公園に着く。駅から歩くなら40分～50分もみておけばよいだろう。駐車場もあり、マイカーならここに駐車しておけば帰りは便利である。

高山への道標はないが地蔵の森公園が登山口で、セメント舗装された林道高山線をけやき峠へ向かう。東屋風の休憩小屋もあり、林道沿いにはヤマボウシなどの植林もなされている。林道高山線は途中の大堰堤を巻きながらゆるい勾配で登って行く。ふり返ればテンロク（620・1㍍）、「シコロ、天狗山」とも呼ぶ）が鋭い姿を見せている。

一汗かくころ林道終点となり、ここからいよいよ山道になる。残置テープがあるから容易にけやき峠への道が見つかるだろう。少々雑木の枝が張り出した細い道だが、踏み跡がしっかり残る一本道だから迷うことはないだろう。

はっきりしていた踏み跡も、峠が近づくと乱れ、植林のなかを適当に踏み跡を選び登るとけやき峠に着く。着くと言っても、初登のときは正確に着いたが、今回は峠の少し北側に着いてしまった。地形図の奥山へ越す道は見当たらない。峠から左へ向かえば天狗山方面で、右折して西脇市と山南町との境界稜線をめざす。雑木帯のかなりの急登だが、多紀アルプス連山を一望できる所もある。

大呂坂からの林道から高山を望む

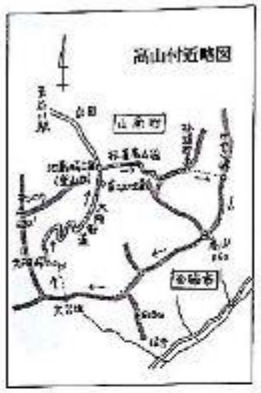
急登をこなせば西脇市・山南町の境界稜線に着く。左の雑木の幹に黄蔵（591㍍）への小さな道標がくくり付けてあるが、高山へは右へ西脇市・山南町の境界稜線を登る。傾斜もゆるみ、気持ちのいい雑木の稜線を登ると高山（660㍍）の頂上である。

4等三角点が埋まっている。初登のときは千ヶ峰方面が見えていたが今は雑木に閉ざされ、東南方のみ展望が開けている。

た。足下に住吉の村や中口山の山並を見下ろし、連綿と続く六甲の山並が見える。トンガリ山に西寺山・西光寺山が見える。北摂の大船山・千丈寺山・羽束山、かわいらしい有馬富士まで見える。

高山でのんびり憩い、大呂坂をめざして境界稜線をくだる。地形図に道の記号はないが、雑木のなかにしっかり踏まれた道が続いている。残置テープもふんだんにある。ただし、150㍍を一気に急降下するから、落ち葉が積もった道はよく滑る。

急降下が落ち着くと、あとは雑木や植林を交互に交えたなだらかな起伏の稜線をたどるだけだから、静かな山の雰囲気が楽しめる。池も多く、鹿の寝床やフンも落ちている。



途中右に首切地蔵へくだるルートに残置テープがあるが、せっかくのいい稜線だから大呂坂まで足をのばそう。さすがに残置テープは少なくなってしまうが、やぶもなく踏み跡もしっかり残っている。小さな起伏を乗り越えて、ちょっとした高みに登ると鹿除けネット越しに西光寺山が目の前に迫り、圧巻だ。

さらに稜線をたどると高圧鉄塔下に出て、すぐに大呂坂に着く。西脇市側は鹿除けネットが張られ、峠の地蔵が立っている。以前はうっそうと茂る雑木やぶだったが、今は切り開かれて明るい峠になった。地形図に道はないが、右へくだれば林道に出る。テンロクが目の前にそびえている。

峠道は林道に切断され、続きはやぶに覆っているので林道を左へくだる。途中、先ほど登った高山が大きく盛り上がり、その全容を見せてくれる。いい山だ。大樋峠からの道は植林のなかに消えているが、ここからは大坂街道で生野銀山の銀も運ばれたそうだ。

林道歩きをしばらく続けると首切地蔵に着く。首の無い地蔵が数体まつられ、昔から上の病にご利益があると信仰されている。平家落人に由来するものとも言われるが、謎のお地蔵さんだ。最近はリストラ地蔵などと呼ぶ人もいて、けっこう参詣者も増えた。首切地蔵から地蔵の森公園までは3分程度である。

◇コースタイム◇

JR谷川駅（タクシー15分）地蔵の森公園（15分）林道終点（15分）けやき峠（25分）山南町・西脇市境界稜線（10分）高山（50分）大呂坂（10分）林道（30分）首切地蔵（3分）地蔵の森公園

〈地形図〉2万5千＝谷川

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6746) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

特選コースガイド 2

南紀

2等三角点のある山

悪四郎山と大蛇峰

山形　歳之

悪四郎山（781・6㍍・点名十丈）

初級コース（★　）

前年「南紀熊野体験博」で賑わった和歌山県では、私は熊野古道が一番興味がある。なかでも中辺路のコースは一度は歩いてみたい所である。

近年有名になったので、地元でもコースの整備に力を入れているようで、東海自然歩道以上に良い道になっているそうだ。

以前からその悪四郎という強烈な名が気になっていて、登るのもハードではないかと漠然と考えていた。しかし調べてみると、熊野古道コースからわずかの距離にあり、簡単に登れることが判った。

この「悪」というのも、何も悪人ということでなく、豪傑とか剛の者という意味らしく、この山に住んでいた悪四郎という者の名前から付けられたようである。

交通としては、JR紀勢本線田辺駅からバスの便があるが、車の場合は、阪和道・湯浅道経由で田辺市に行くか、高野山から高野竜神スカイライン経由で竜神から入る。どちらから入っても周辺にたくさんの山や観光地・温泉があり、何も悪四郎山一つに車を走らせることもないだろう。

私は高野竜神スカイラインから入ったが、車窓の景色もすばらしく、護摩壇山に登ったり竜神の渦を浴びたりと、登山か観光か分からない行程であった。

竜神から中辺路町に抜ける道も立派に整備され快適に走れる。

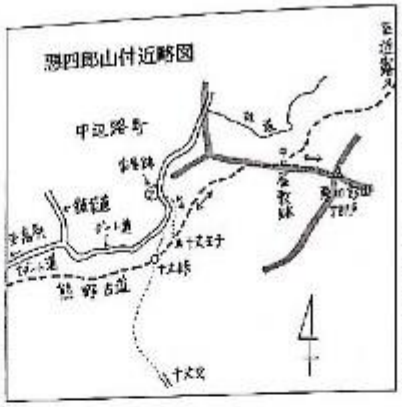
富田川の国道に下り、給油所で古道沿いの林道を十丈峠に行けるかを確認して高原村に登る。所どころ車道と古道が交差し、案内板が各所に見られる。ところが、上地の最後の住宅を過ぎると舗装も切れ砂利の悪路となってしまった。ゆっくりと車を走らせて行くと、やがて下からの舗装路が合流した。国道の大川からの道で、ここにも十丈王子の道標が立っていた。しかし舗装路はここまでで、十丈峠までは未舗装の道が続く。

やがて前方に前山のピークが見えると、石垣で囲まれた建物跡らしい空地が現れた。

大蛇峰展望台

車を止めて道を探すと、「田辺統制無線中継所」の札が見つかった。この道は10分足らずで十丈王子公園の熊野古道に出た。さすがに古道はよく手入れされ、案内板や説明板が完備している。そのまま山に登って行くと、一番高い峰部に悪四郎の屋敷跡があった。古道と分かれてその後ろから山道に登って行く。

悪四郎山付近略図



大蛇峰付近略図

悪四郎山の山頂にはフェンスに囲まれたアンテナが建ち、後ろに2等の三角点が設置されていた。展望はあまり良くない。悪四郎の名前のわりには、何の特徴もない平凡な山であった。

熊野古道はここから近露に向かってくだって行くが、ぜひ一度たどってみたいものだ。

（平成10年12月21日歩く）

△コースタイム▽

林道（10分）十丈王子（15分）悪四郎屋敷跡（15分）悪四郎山

△地形図▽20万＝田辺　5万＝栗栖川

2万5千＝栗栖川

大蛇峰（511・2㍍　点名上芳茂）

初級コース（★　）

田辺市から北上して奇絶峡を通り、秋津川から石神村に到る。村は石神梅林として有名で、時期にはたくさんの梅見客で賑わう。今は田辺梅林とも言われているそうである。周辺の斜面は一面梅畑で、花のシーズンはさぞ見事なことだろう。

農家の主人に道を訊ねたら、「これから登山口の畑に行くから」とのことで、軽トラの後について梅林のなかを登る。登山口の駐車場には有料の大きな看板が立っていた。花見時の駐車場である。

主人は「大蛇峰は展望台まで遊歩道があるが、台風被害のままなので行けるかなぁ」と話していた。

遊歩道は幅1㍍くらい。階段もある良い道なのに、3、4ヶ所も倒木があり、樹の下をかいくぐって展望台に登り着いた。眼下には梅林が大きく広がり、花の時期はさぞかしすばらしい景色が見られるだろう。

大蛇峰は展望台の先の標高457㍍の所で、三角点はさらに落ち葉で埋まった稜線を伝って行く。山頂には「大蛇峰の頭」と十二支会の登頂板が取り付けてあった。雑木林のなかの5～6坪の空地に三角点があった。簡単に登れるので梅見を兼ねて行ってもよいだろう。ちなみに地形図に山名の記入はない。

（平成10年12月21日歩く）

△コースタイム▽

登山口（20分）大蛇峰展望台（20分）大蛇峰の頭（三角点）

△地形図▽20万＝田辺　5万＝田辺

2万5千＝秋津川

特選コースガイド図

木曾

木曾街道北部の奇峰

坊主岳

中級コース（★★）

西尾　秀一

坊主岳の名は全国にたくさんあるものと思っていたが、「コンサイス日本山名辞典」（三省堂）では長崎県福江島と二例だけで意外である。他に「坊主山」が九例あり、そのうち八例が北海道で他の一例が秩父である。これも意外で信じられないくらいである。

坊主の名がなぜ仏教盛んな本州で少ないのか、研究の対象にすればおもしろいかも知れない。

実は前述の山名辞典は落としているが、北アルプス縁岳の北方に立派な坊主山がある。冬期は縁岳へのルートになるほどで、いずれ登らねばならない山である。

今回取り上げる坊主岳（1961㍍）は、木曾谷の北部裾川村にあって経ヶ岳より300㍍余り低いだけの立派な山である。経ヶ岳から西を見ると、深く切れている渋川をぐるりと巻くように北方へのびる尾根の頂点に巨立つドームが見える。これが坊主岳で、残念ながら今のところ道はない。昔修験者が経ヶ岳と峯駆けしたらしいと聞いたことがあるが、今は山名にわずか名残を示すのみである。

この山に登るには残雪が絶る頃、3月末から4月の上旬ということになる。しかし、雪の多少と温度にも左右されるので近くのスキー場の情報と新雪が降らなくなった頃を見計りながらの登行となる。

小生たちは新雪の後でひどいラッセルに泣かされたことがある。坊主岳に最も近い西麓の村である糠沢で情報を仕入れることをおこたらないことはもちろん、村に雪があれば不可、村の上部で古い道が露出し、標高1300㍍以上に固い雪が残っていれば最良のコンディションである。

糠沢の民家で道の存在を聞くとかなり上部まで付いているらしいが、雪が多いと雪面の急登ばかりとなる。沢状の一直線のルートをステップを効かして直登すると小ピークに着く。1400㍍あたりである。この付近まで日界前に登り着くと後が楽で、頂上で360度の大展望が楽しめる。

坊主岳山頂から中央アルプス・木曾駒ヶ岳

小ピークからいったん鞍部へくだると濁木の茂る広い急斜面と対面する。ここはどこを登ってもよいが大筋として東へルートをとる。雪が多いと苦しむ所で木

の枝をつかんで強引に登行を続ける。

この付近でワッパが必要となる場合は、上部で相当時間が必要だとみて山頂をあきらめなければならない。

展望もなく目標とするものもなくただ黙々と登行を続けるが、高度は確実に上昇していてそれだけが楽しみである。

1600㍍付近で茂る木が低くなり、首をのばせば他の山が見えるようになる。中央アルプスの駒ヶ岳の重畳たる山容。木曾の御岳など巨岳が見えるようになるとしめたもので、がんばりがきくようになる。

早く四囲の山を見たい一心でどんどん高度を上げて行くと、ついに山頂が見えてくる。やや左に続く尾根の先に真っ白いピークが続いていて、いやがうえにも登行欲が湧いてくる。

1700㍍からはさらに急登となり、尾根も細くなり完全に木がなくなる。雪面をキックステップを効かして登る。何という楽しさだ。これだから残雪期の山はやめられない。

ここには登りの濁木帯の時にはなかった空気がある。風がある。下界とは全く違う別世界が広がっている。

丸いドームの先端は意外に広い。木の先が雪面からわずかに露出している所もあるが、三角点は雪の下で見ることはできない。しかしここが山頂であることは分かる。

経ヶ岳がずぐ近くにでんとかまえている。駒ヶ岳から南へ続く中央アルプス。乗鞍岳から北アルプスの諸峰と実に360度の大パノラマが展開していて、十分時間を用意したいところだ。

山スキーなら経ヶ岳からの尾根を自由に滑り歩けるだろう。

十分楽しんだら下山である。往路をくだるが森林限界までは問題なしで、踏み跡を忠実にたどればよいが、濁木帯に入ると迷いやすい。自分たちのたどった踏み跡を忠実にくだればよいが、明瞭でない所もあるので登りの時に目印を付け、回収して行くのがよいと思う。

特に1400㍍付近は地形図に出ない複雑な地形なので注意がいる。それを過ぎ、沢状の急斜面に出れば後は一直線の下りで糠沢へくだることができる。

坊主岳への登路としては、伊那側の横川から登る道もあるが、アプローチの横川渓谷沿いの道路が通れない場合が多いので、地元に確認する必要がある。もし通れたら登高点が短縮される。糠沢からのルートは標高点があるかわりにアプローチが確実である。また、雪の状態が良ければ経ヶ岳や天狗山や円沢山などの方面へも縦走が可能である。むろんそれは上級者となる。（平成9年3月19日歩く）

坊主岳付近略図

◆コースタイム◆

小生たちの登った時は降雪直後で7時間近く費したが、普通の状況なら糠沢から山頂まで4～5時間で十分。下山はその半分程度である。

◆地形図◆5万＝伊那

特選コースガイド図　湖南

旗振山と磨崖仏群

相場振山（国中山）

初級コース（★　）

柴田　昭彦

旗振り通信とは、大阪堂島の米相場を旅を振って各地に伝達する方法である。小島昌太郎・近藤文二「大阪の旗振り通信」（『明治大正大阪市史』第五巻所収、昭和8年刊）に詳しく紹介されている。大津方面への中継地点は、吹田千里山、茨木阿武山、柳谷西山、二石山（稲荷山東方の三角点。点名は西野山）、小関山（小関越の南の相場山）と伝わる。

大津線の延長としての彦根・長浜へのルートについては、中島伸男「滋賀県内の旗振り通信ルート」（『瀬生野第30号』昭和60年12月、八日市郷土文化研究会刊）に詳しい。古老たちから綿密な聞き取り調査を実施した貴重な労作である。中島氏は、相場山から安養寺山、相場振山、小脇山、十三仏、荒神山中腹（彦根にも伝達）、佐和山、長浜の順に相場が伝達されたという推定をされている。

彦根と長浜に取引所が設立されたのは明治27年であるが、明治初期から大津以東への旗振り通信が行われていたようである。明治30年代に鉄下の電信網は整ったが、旗振り通信はむしろ全盛となり、明治42年頃まで続いたという。

須磨アルプスの旗振山や、交野山の南にある旗振山が有名なのに対し、滋賀県野洲町の相場振山は地元以外では全く知られていない山名（通称名）であろう。国土地理院の地形図や野洲町の地図には山名の記載がない。

相場振山は三上山・妙光寺山の北方にある双耳峰で、三角点峰（293㍍、3等。点名は小篠原）と西峰（283㍍）からなる。

角川日本地名大辞典『滋賀県』では三角点峰を「兜鉾山（別名は奥山・田中山）」とし、「甲山」を古墳名として、表記上は区別している。一方、伏木真三『近江の山々』（昭和45年）や、ニューエスト『滋賀県都市地図』（昭文社）では三角点峰を「甲山」とする。現地に湖南岳友会が設置した道標では三角点峰を「かぶと山」としている。

大旗の竿を支えた台石（相場振山）［かぶと山は誤称］

ところが、『近江輿地志略』（1734年完成）の桜生村の項には「兜鉾山、同村にあり。高十間許、往還大路の傍也」とある。高さが十間（18㍍）ほどなら、明らかに甲山古墳のことである。中山道の傍らという位置も合う。つまり「甲山」と「兜鉾山」は同一の古墳を指していることがわかる。

『野洲町史』第一巻（昭和62年）では、相場振山に相当する山を「田中山」また

は「奥山」とし、「甲山」とは呼ばない。田中山の北西麓一帯は「細谷山」と称している。

中島伸男氏は相場振山の別名を大岩山・辻山とし、木村至宏編『近江の山』（京都書院、1988年）や長宗清司『長浜湖周辺の山』（ナカニシヤ出版、1998年）でも大岩山と呼ぶ。しかし、大岩山は相場振山の北に続く標高120～150㍍の丘陵（採土で大半が消失）を指し、相場振山の別称にはふさわしくない。なお、角川地名大辞典では、相場振山の東方の「城山（野洲町）」の説明で「辻山ともいう」「古老は相場振山ともいう」と記し、両者を完全に混同してしまっている。

以上のことから、相場振山を「かぶと山」「大岩山」と呼ぶのは不適切であり、「田中山（奥山）」と呼ぶのが適切と考える。中島伸男「三重県向けの旗振り通信ルートについて」（『瀬生野第22号』昭和62年11月）によると、小篠原の「鈴木氏家譜」に「田中山の頂上にて」とあり、現地の呼称である

今回、石仏や遺跡・古墳群の宝庫である相場振山と妙光寺山をめぐるコースを紹介する。

JR野洲駅で降りる。駅前の直線道路を進み、新幹線高架下すぐ手前で養専寺への標識に導かれて中山道をたどる。児童公園（稲荷神社池跡地）、稲荷神社の鳥居を過ぎて、本蓋染工房の案内プレートのある辻（三ツ坂）で右折して国道を横切り、道標に従い左折してすぐ右折すると真福寺（禁制）である。

土手に出て、水のない小川を渡り、山道をまっすぐ行くと福林寺跡石仏群がある。解説板の右手奥に室町時代の磨崖仏（観音・阿弥陀・地蔵）がある。その裏手の平らな岩の側面に十四体の稚拙ではあるが風情のある地蔵磨崖仏が刻まれていて、左端に「森家」とあり、江戸末期頃に森氏が刻ませたものと推定されている（瀬川厳一『近江　石のほとけたち』かもがわ出版、1994年）。さらに奥に寺址の石標と一石五輪塔があり、周辺の巨岩にも石仏が刻まれている。ここの背後に福林寺古墳群（十一基の横穴式石室墳）がある。ことが明白である。

十手に戻り、右手に野洲中学校（福林寺跡地）を見て南下すると岩谷墓地で、背後に三基の古墳がある。左手に六地蔵があり、旗振山の標識に従って登ると鉄塔に出る。さらに登ると次の鉄塔に出て、展望が開けてほどなく西峰に着く。相場振山と記したプレートのそばに穴のあいた岩があり、相場を知らせる大旗の竿を支えた台石であったことがわかる。三上山と妙光寺山の間に見える安養寺山からの旗振り信号を受け、辻ダムの左上方に見える秀麗な231㍍峰（若祥寺山）の彼方にある小脇山十三仏（箕作山系の南西の岩戸山）へ黒い旗で送信したという。

道標は、左が銅鐸博物館方面、右がかぶと山を案内している。右をとり、三角点峰（田中山）への縦走路をたどる。岩が多く特異な風景が広がっている。すぐに展望のよい三角点に着く。草つきの頂上でホッとさせられる。南方の展望岩ピークをめざして、尾根伝いに踏み跡をたどろう。辻ダムの向こう側に城山がよく見える。急坂をくだり、登り返すと整備された逆歩道に出て、展望岩ピークに着く。ここで右にくだるのもよいが、左に進めば県立希望が丘文化公園がよく見え、すぐ次の分岐で右折して階段をくだって行こう。

管理道に出る。右上の配水タンクから西方にかけては田中山古墳群（約三十基）がある。橋を過ぎて左へ進むと、ほどなく左手に「銅鐸古代の里めぐり妙光寺山磨崖仏入口」という看板が目につき、入ってすぐ右手の山道をたどる。このあたりが山脚古墳群（十基）である。途中で小川を渡って左に登ると岩神神社の前に出る。さらに先に進むと妙光寺山地蔵磨崖仏の前に出る。直立した花崗岩に地蔵立像を半肉彫りしたもので、鎌倉時代の元亨四年（1324）の銘がある。

岩神神社のそばに出世不動明王・妙光寺御池方面を示す分岐標識があり、細い山道をたどり、右へ谷を横切って上がって行くと尾根道に出る。右をとり、落ち葉の道をたどると妙光寺山の山頂に出る。雑木のなかで展望はまったくない。六角氏の家臣の三上氏が永享年間（1429～41）に妙光寺山に城を築いたと伝わる。山頂と西方尾根上（標高230㍍付近）の両方に削平地が存在するが、どちらが城跡なのか判明していないようだ。

頂上付近は道が不明瞭なので、迷わないように注意して尾根道を戻る。登り返すと分岐点に出る。右をとり尾根筋をくだる。途中に不明瞭な分岐があるが、道標や目印に注意して左をとれば、やがて左手に横穴式石室墳が現れる。東光寺不動古墳群（約二十基）といい、ここの南斜面や東方の尾根などに分布している。道は左に折れて、ほどなく出世不動明王（不動堂）に出る。巨岩に刻まれた不動磨崖仏（鎌倉時代頃）を見学する場合には、寺僧の許可を得るとよい。

不動堂を出て林道をくだると、右に分岐があり、妙光寺御池（不動池）の北側の三上神社に着く。寛文五年（1665）に御上神社から勧請されたもので、ここには十世紀末創建と伝わる東光寺があったが、大永四年（1524）に兵火により焼失したという。御池の北側の山麓には三上神社古墳群（約三十基）が分布する。

御池の堰堤を通り、元の道に出て途中で宗泉寺に立ち寄る。天文十六年（1547）に宗泉が東光寺の一院を再興したものという。階段上の薬師堂に木造薬師如来座像（秘仏）が安置されている。本堂は平成10年に改築されている。寺の北西斜面に宗泉寺古墳群（十数基）がある。

寺から西側に出ると右手に宅地の森が見え、三上館下屋敷という方形館城の遺構である。東方に中屋敷と上屋敷の遺構も存在する。道なりに右に曲がり妙光寺道をたどると行事神社の前に出る。ここは行畑といい、行合と中畑の合併町名である。広場の横のお堂には背くらべ地蔵と呼ばれる大小二体の石仏がある。大きい阿弥陀仏が鎌倉後期、小さい地蔵が室町末期という（清水俊明『関西石仏めぐり』創元社）。『近江輿地志略』には長比の地蔵とある。辻で右折すると中山道と朝鮮人街道（江戸時代に朝鮮通信使が往来した道）の分岐点（外和木の橋）に出る。ここにあった道標は西方の延照寺に保存されている。朝鮮人街道を経て野洲駅に戻る。

妙光寺山磨崖仏（普賢地蔵）

なお、紹介したコースの山林内は、磨崖仏も含めて、松茸シーズンの9月下旬から11月下旬頃までは入山禁止なので留意されたい。

野洲中学校保育館の南250㍍にある鉄塔の北東10㍍下に元山八海石という名石がある。凹凸石で、須弥山を中心とした仏教的世界観を象徴している。西方の墓地の北側（逆歩道直下の鉄柱・碧が目印）から入れる（次に注意）。四ツ家の頭丁寺の名石である虎の石もかつて同じ場所にあった。これらは『野洲町物語』（昭和62年。銅鐸博物館で入手可）と『湖国百選石／岩』（平成3年）に紹介されている。

また、国史跡大岩山古墳群は、桜生史跡公園（野洲駅南口から近江バス「希望が丘西ゲート」「桜田製作所」行き「辻町」または「三ッ坂」下車8分）として公開され（平成11年3月）、案内所にはパネル展示があるので、歴史公園と銅鐸博物館の見学の際に立ち寄るとよい。

（平成11年12月5日・11日・19日歩く）

≪コースタイム≫

JR野洲駅（30分）福林寺跡磨崖仏（40分）相場振山（5分）三角点峰（45分）妙光寺山磨崖仏入口（25分）磨崖仏（25分）妙光寺山山頂（35分）出世不動明王（55分）野洲駅

＜地形図＞2万5千＝野洲

（道記）

相場振山の山体に相当する範囲の小字地名を野洲町役場の資料で調べてみると、西峰（283㍍）を中心として、ほぼ尾根筋が境界となって六つに分けられている。東側の「奚山」は両北に長く、辻ダムに接している。北西側（桜生の南東）は「銀谷山」と呼ぶ。西側には、北西端の「津倉郭山」、福林寺跡のある「堂山」、岩谷墓地のある「岩谷」の三つの小字がある。南西側が田中山低区・高区配水池がある「砂山田中山」となっていて、田中山の呼称のもととなっているようである。

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公園ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽東海自然歩道シリーズ「山の辺の道コース」　5月7日(日)雨天中止（集合）桜井駅前10時～11時（コース）桜井駅（バス）柳本―黒塚古墳―長行天皇陵―玄賓庵―大神神社（三輪明神）―金屋の石仏―桜井駅（約10㌔）参加自由・無料（バス代・入場料別途）、名古屋事業052（583）9332
5

▽近鉄文学散歩「天翔る役行者の道・折りの中に透き通った蔵王権現吉野」　5月14日(日)雨天延期（延期の場合は5月20日(日)）（集合）吉野駅前10時～10時30分（コース）吉野駅―（宮滝会）―吉水神社―東南院―金峰山寺蔵王堂―吉野神宮―役行者像―都の眺し―六田駅（約6㌔）参加費3300円（拝観料別途・朱印料各300円）講師國田保造氏、天王寺事業06（6624）0382～3

▽読売ふれあいハイキング「歴史街道花の道を行く・青山高原（つつじ）」　5月16日(月)雨天中止（集合）伊賀上津駅前9時30分～10時（コース）伊賀上津駅―奥山愛宕神社―青山高原三角点―滝見台―東青山駅（約10㌔）参加自由・無料（拝観料別途）幼小学生以下と75才以上の方の単独参加はご遠慮下さい。天王寺事業06（6624）0382～3

▽近鉄フリーハイキング「大和三山と周遊」　6月17日(日)雨天中止（集合）橿原神宮前駅中央改札前9時30分～10時（コース）橿原神宮前駅―橿原神宮―畝傍山―神武天皇陵―本薬師寺跡―香久山―藤原宮跡―耳成山―八木駅（約14㌔、係員は同行しません）参加自由・無料、上本町事業06（6775）3566

▽近鉄万歩ハイキング「役行者出生の地、吉祥寺寺を訪ねて」　6月17日(日)雨天中止（集合）市尼駅前9時40分～10時10分（コース）市尼駅―市尼墓山古墳―天満神社―椎ノ上姉子塚古墳―満願寺―孝安天皇玉手岡上陵―金比羅神社―吉祥寺寺―円祥寺―正楽寺―浄示寺―軽部皮神社―近鉄河内駅（約10㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、天王寺事業06（6624）0382～3

▽近鉄・京阪ジョイントハイク「金剛寺・鷲峰山」　6月18日(日)雨天延期（延期の場合6月25日(日)）（集合）新田辺駅前9時30分～10時（コース）新田辺駅（バス）郷之口―衛栗塚神社―（真言自然歩道）―金胎寺・鷲峰山山頂―（温屋谷道）―長宮明神社―海屋谷（バス）京阪宇治駅（約12㌔）参加自由・無料（バス代・拝観料別途）、上本町事業06（6775）3566、京阪ハイキング係06（6947）3702

南海

▽歴史ヘルシーハイク「飯盛山ハイキング」　5月13日(日)雨天中止（集合）みさき公園駅10時（コース）みさき公園駅―飯盛山―畑―淡輪駅（約3㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき「虚空の音を聞きながら宇村の里を歩く」　5月14日(日)雨天中止（雨の場合は5月20日(日)）（集合）高野下駅10時10分（コース）高野下駅―長田庵―慈尊院・丹生官省符神社・陰刹寺―船戸の滝―学文路駅（約10㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽南海沿線会員探訪「泉佐野の歴史館から重要文化財の中家住宅を訪ねる」　6月4日(日)雨天中止（集合）泉佐野駅10時（コース）泉佐野駅―妙光寺―歴史館いずみさの―ダンバラ公園―熊取―降井家事務所―中家住宅―奈加美神社―井原里駅（約7㌔）参加自由・無料（歴史館入場料別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき「史跡を訪ね関西空港を眺めながら淡輪通りを歩く」　6月10日(日)雨天中止（雨の場合は6月17日(日)）（集合）樽井駅10時（コース）樽井駅―長慶寺―丘神社（史跡海会寺跡）―呉羽大橋―春日神社―田尻スカイブリッジ―マーブルビーチ―りんくうタウン駅（約10㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

京阪・叡山電鉄・江若交通

▽比良連峰アタック「堅田岳・金糞峠」　5月7日(日)雨天中止（集合）JR比良駅6時～10時（コース）比良駅（バス）イン谷口―ノタノホリ―堅田岳―金糞峠―（シャクナゲ尾根）―山上駅―カラ岳―シャカ岳駅（リフト）山頂駅（バス）JR北良駅（約5㌔）健脚向・無料、上本町事業06（6775）3566

▽近鉄フリーハイキング「石上神宮から大国見山へ」　5月20日(日)雨天中止（集合）天理駅前9時30分～10時（コース）天理駅―石上神宮―桃尾の滝―大国見山―岩屋の磨崖仏―天理駅（約14㌔、係員は同行しません）参加自由・無料、上本町事業06（6775）3566

▽歴史街道あるく道「忍びの里から花の郷」　5月21日(日)雨天延期（延期の場合5月28日(日)）（集合）赤目口駅前9時30分～10時15分（コース）赤目口駅―白山・秋葉神社―龍口―西谷―花の郷滝谷花しょうぶ園―宝生口大野駅（約15㌔）参加自由・無料（入園料別途）、上本町事業06（6775）3566

▽朝日・五私鉄リレーウォーク「役行者の里　吉野山」　5月28日(日)雨天延期（延期の場合6月4日(日)）（集合）吉野駅前10時～11時30分（コース）吉野駅―如意輪寺―花矢倉―吉野水分神社―金峰神社―ドライブウェー―竹林院―桜本坊―悲願院―光福寺―大日寺―吉水神社―東南院―金峰山寺蔵王堂（仏拝殿）―吉野駅（約13㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、天王寺事業06（6624）0382～3

▽近鉄フリーハイキング「明日香・橘寺わたり歩き」　6月1日(水)雨天中止（集合）岡寺駅前9時40分～10時10分（コース）岡寺駅―高松塚古墳―亀石―橘寺―伝飛鳥板蓋宮跡―飛鳥寺―水落遺跡―大官大寺跡―紀寺跡―本薬師寺跡―永楽寺跡―橘諸兄邸駅（約10㌔、係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料別途）、天王寺事業06（6624）0382～3

▽南河内観光キャンペーン「第8回役小角の岩瀧寺から水と緑の滝畑ダムを訪ねて」　6月4日(日)雨天中止（集合）河内長野駅東出口9時～9時30分（コース）近鉄河内長野駅（バス）青葉台ハイツ口―岩瀧寺―滝畑民族資料館―滝畑ダム―烏帽子形八幡神社―近鉄河内長野駅（約24㌔）参加自由・無料（バス代・拝観料別途）、天王寺事業06（6624）0382～3、松原市役所南河内観光キャンペーン協議会事務局072（334）1550

▽近鉄ファミリーハイキング「斉宮跡の道コース」　6月9日(日)雨天中止（集合）斉宮駅前10時（コース）斉宮駅―竹神社―ハナショウブ群生地―孝子女王墓伝承地―斉宮歴史博物館―斉宮の森―斉宮駅（約3㌔、係員は同行しません）参加自由・無料（入場料別途）、名古屋事業052（582）9332
5

▽近鉄・南海・朝日合同企画「二上山（当麻寺へ）」　6月11日(日)小雨決行（中止の場合6月18日(日)または6月25日(日)に延期）（集合）磐船駅前8時30分～8時40分（コース）磐船駅―当麻町スポーツセンター（受付）―綱引塚（竹ノ内峠）―長家―岩橋峠―岩橋山―二上山（雌岳）―拓泉寺―鎌倉―当麻寺（ゴール解散）―当麻寺駅（約14㌔）参加自由・無料（拝観料別途）幼小学生以下と75才以上の方の単独参加はご遠慮下さい。天王寺事業06（6624）0382～3

▽近鉄フリーハイキング「大和三山と周遊」　6月17日(日)雨天中止（集合）橿原神宮前駅中央改札前9時30分～10時（コース）橿原神宮前駅―橿原神宮―畝傍山―神武天皇陵―本薬師寺跡―香久山―藤原宮跡―耳成山―八木駅（約14㌔、係員は同行しません）参加自由・無料、上本町事業06（6775）3566

▽近鉄万歩ハイキング「役行者出生の地、吉祥寺寺を訪ねて」　6月17日(日)雨天中止（集合）市尼駅前9時40分～10時10分（コース）市尼駅―市尼墓山古墳―天満神社―椎ノ上姉子塚古墳―満願寺―孝安天皇玉手岡上陵―金比羅神社―吉祥寺寺―円祥寺―正楽寺―浄示寺―軽部皮神社―近鉄河内駅（約10㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、天王寺事業06（6624）0382～3

▽近鉄・京阪ジョイントハイク「金剛寺・鷲峰山」　6月18日(日)雨天延期（延期の場合6月25日(日)）（集合）新田辺駅前9時30分～10時（コース）新田辺駅（バス）郷之口―衛栗塚神社―（真言自然歩道）―金胎寺・鷲峰山山頂―（温屋谷道）―長宮明神社―海屋谷（バス）京阪宇治駅（約12㌔）参加自由・無料（バス代・拝観料別途）、上本町事業06（6775）3566、京阪ハイキング係06（6947）3702

南海

▽歴史ヘルシーハイク「飯盛山ハイキング」　5月13日(日)雨天中止（集合）みさき公園駅10時（コース）みさき公園駅―飯盛山―畑―淡輪駅（約3㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき「虚空の音を聞きながら宇村の里を歩く」　5月14日(日)雨天中止（雨の場合は5月20日(日)）（集合）高野下駅10時10分（コース）高野下駅―長田庵―慈尊院・丹生官省符神社・陰刹寺―船戸の滝―学文路駅（約10㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽南海沿線会員探訪「泉佐野の歴史館から重要文化財の中家住宅を訪ねる」　6月4日(日)雨天中止（集合）泉佐野駅10時（コース）泉佐野駅―妙光寺―歴史館いずみさの―ダンバラ公園―熊取―降井家事務所―中家住宅―奈加美神社―井原里駅（約7㌔）参加自由・無料（歴史館入場料別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき「史跡を訪ね関西空港を眺めながら淡輪通りを歩く」　6月10日(日)雨天中止（雨の場合は6月17日(日)）（集合）樽井駅10時（コース）樽井駅―長慶寺―丘神社（史跡海会寺跡）―呉羽大橋―春日神社―田尻スカイブリッジ―マーブルビーチ―りんくうタウン駅（約10㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

京阪・叡山電鉄・江若交通

▽比良連峰アタック「堅田岳・金糞峠」　5月7日(日)雨天中止（集合）JR比良駅6時～10時（コース）比良駅（バス）イン谷口―ノタノホリ―堅田岳―金糞峠―（シャクナゲ尾根）―山上駅―カラ岳―シャカ岳駅（リフト）山頂駅（バス）JR北良駅（約5㌔）健脚向

参加自由・参加費大人1200円小人600円（リフト・バス代含、京阪ハイキング係06（6944）3702

▽スポニチファミリーハイク「静原・鷲峰山」　5月14日(雨天中止（集合）叡電鞍馬駅3時～10時（コース）鞍馬駅―蓮土坂―静原―江文峰―寒谷峠―鷲峰山―上高野分岐―叡電八幡前駅（1.5㌔健脚向）参加自由・無料（交通費各自）、京阪ハイキング係06（6944）3702

▽こうじゃくMIハイキング「マキノ赤坂山」　5月18日(雨天中止（集合）JR安曇川駅9時（コース）安曇川駅（バス）マキノ高原―黒河林道口―野坂峠―不動尊―渡坂山―プナの木平―マキノ高原（バス）JR近江今津駅（13㌔健脚向）参加費申込制（1ヶ月前から）参加費1500円（バス代等）（申込先）江若交通本社0777（573）2701

▽歴史散策「沿線の幕末遺跡」　5月23日(小雨決行（集合）叡電岩倉駅10時（コース）叡電岩倉駅―岩倉幡旧宅―三修寺―興光寺―金福寺―叡山―乗寺―叡山電鉄（約5㌔）参加費1500円（バス代等）（申込先）江若交通本社0777（573）2701

▽歴史散策「沿線の幕末遺跡」　5月23日(小雨決行（集合）叡電岩倉駅10時（コース）叡電岩倉駅―岩倉幡旧宅―三修寺―興光寺―金福寺―叡山―乗寺―叡山電鉄（約5㌔）参加費申込制（1ヶ月前から）参加費1500円（バス代等）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521

叡山電鉄鉄道部075（702）8111

▽比良連峰アタック「小女郎ヶ池・権現山」　6月4日(雨天中止（集合）京阪出町柳駅コンコース8時30分～8時30分（コース）出町柳駅（バス）坂本―比叡寺―（ナカ谷道）―小女郎ヶ池―小女郎峠―ホッケ山―権現山―アラキ峠―中（バス）出町柳駅（約8㌔健脚向）参加自由・参加費大人1600円小人850円（往復バス代等）、京阪ハイキング係06（6944）3702

▽北山ウィークデーハイク「静原・釜蓋ヶ岳」　6月7日(雨天中止（集合）叡電鞍馬駅9時30分（コース）叡電鞍馬駅―薬王坂―静原―村松分岐―釜蓋ヶ岳―鞍馬坂―屋根坂―叡電木野駅（約12㌔）参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075（702）8111

▽こうじゃくMIハイキング「新緑の芦生ブナ原生林」　6月16日(雨天中止（集合）JR安曇川駅（バス、朽木市場経由）生杉―三国岳―杉尾峠―生杉（バス）JR安曇川駅（約13㌔健脚向）参加電話申込制（1ヶ月前から）参加費2000円（バス代等）（申込先）江若交通本社0777（573）2701

京都バス・比良ロープウェイ

▽比良山平日ハイキング「シャクナゲ鑑賞」　5月8日(雨天の場合10日(・6月11日(雨天中止（集合）JR比良駅8時45分～9時15分（コース）比良駅（バス）山麓駅（リフト・ロープウェイ）山上駅―八雲ヶ原（未発表のシャクナゲ群生地へ当日コース発表）―シャカ岳駅（リフト）山麓駅（バス）JR比良駅（約6・5㌔健脚向）参加定員100名（1ヶ月前より電話申込制）参加費2200円（リフト・ロープウェイ・バス代等）（申込先）比良ロープウェイ事業課077（596）0516

▽京都北山三角点トレック第2回「白倉岳コース」　5月13日(雨天中止（集合）京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分（コース）出町柳駅（バス）桑ノ花―鷹ヶ峰―烏帽子岳―白倉岳三角点―白倉山岳―白倉岳―朽木市生（バス）出町柳駅（約12㌔健脚向）参加定員300名（1ヶ月前より電話申込制）参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521

▽比良山平日ハイキング「高峰の新緑と・横綱の滝」　6月8日(雨・6月14日(雨天中止（集合）JR比良駅8時45分～9時15分（コース）比良駅（バス）山麓駅（リフト）シャカ岳駅―新道岳―ヤケオ―ヤケオ山―権現峰―高峰―横綱の滝―JR北小松駅（約8㌔健脚向）参加定員100名（1ヶ月前より電話申込制）参加費1000円（バス・リフト代等）（申込先）比良ロープウェイ事業課077（596）0516

▽京都北山三角点トレック第3回「88谷山・廃寺八丁コース」　6月10日(雨天中止（集合）京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分（コース）出町柳駅（バス）佐々里峠―ダンノ峠分岐―鼻谷山三角点（バス）宇宙観キャンプ村―五隅滝―コロ谷出合―中滝―南ヶ岳―ホタガ谷―宇宙観キャンプ村（バス）大安駅（約12㌔健脚向）参加自由・参加費200円（バス代別途）、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

▽鈴鹿の山を歩こう「緑の渡瀬渓谷」　6月11日(雨天中止（集合）近鉄富田駅二番線ホーム8時（コース）富田駅（徒歩）―渡瀬渓谷―松尾尾根―新道ヶ岳―猫岳―羽鳥峠―明明キャンプ場（バス）大安駅（約11㌔健脚向）参加予約申込制200名・参加費200円（バス代1000円別途）（申込先）三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

▽鈴鹿の山を歩こう「緑の渡瀬渓谷」　6月25日(雨天中止（集合）近鉄富田駅二番線ホーム8時（コース）富田駅（徒歩）―渡瀬渓谷―鈴鹿峠―鈴鹿峠―西藤原駅（約9㌔・一般向）参加自由・参加費200円、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

京―梁谷峠―廃村八丁―制札谷―ダンノ峠―ホトケ谷―高野（バス）出町柳駅（約10㌔健脚向）参加定員300名（1ヶ月前から電話申込制）参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「三木ホースランドパーク・三木周遊ハイク」　5月27日(雨天中止（集合）志染駅10時35分（コース）志染駅―小林―三木ホースランドパーク―高木―三木駅（約7㌔家族向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「鬼が島と古寺山ハイク」　5月31日(雨天中止（集合）有馬口駅10時（コース）有馬口駅―水無谷―鬼が島―水無山―法谷―逢山峠―長尾川―古寺山―神鉄六甲駅（約9㌔家族向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「緑モミステリーハイク」　6月11日(雨天中止（集合）大池駅北約2㌔（バス）当日発表（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「中島海水公園・明石海浜公園ハイク」　5月14日(雨天中止（集合）魚住駅下車在吉公園10時（コース）中島海水公園―東二見駅―アサヒ飲料イベント会場―遠回バス―東二見駅（約9㌔家族向）参加自由・無料、須磨海浜園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「明石海峡を渡り明石西公園へ」　5月28日(雨天中止（集合）東垂水駅下車平磯緑地公園10時（コース）平磯緑地公園―マリンピア神戸―ナジュール舞子―明石海峡大橋の袂―明石西公園―西新町駅（約11㌔一般向）参加自由・無料、須磨海浜園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「高倉野水池から山麓リボンの道へ」　6月11日(雨天中止（集合）西代駅下車南西すぐ山陽電車水走駅10時（コース）山陽電車水走駅前―高取山―長者町―丸山町―鵯越―鳥原野水池―山麓リボンの道―平野―高丘駅（約12㌔一般向）参加自由・無料、須磨海浜園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「雨水・史跡めぐりハイク」　6月25日(雨天中止（集合）西舞子駅下車北0・7㌔大歳山遺跡公園10時（コース）大歳山遺跡公園―多聞寺―雨滝院―舞子墓園―五色塚古墳―鍛ヶ丘駅（約9㌔家族向）参加自由・無料、須磨海浜園ハイキング係078（731）2520

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「花の御池岳」　5月13日(雨天中止（集合）近鉄富田駅三岐線ホーム9時（コース）富田駅（電車）西藤原駅（バス）御池岳登山口―コグルミ谷―カタクリ峠―御池岳（丸山）―鈴北岳―鞍掛峠（バス）西藤原駅（約11㌔・一般向）参加予約申込制150名・参加費200円（バス代1000円別途）（申込先）三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の藤ヶ岳」　5月21日(雨天中止（集合）近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―五隅滝―コロ谷出合―中滝―南ヶ岳―ホタガ谷―宇賀渓キャンプ村（バス）大安駅（約12㌔健脚向）参加自由・参加費200円（バス代別途）、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

▽鈴鹿の山を歩こう「緑の藤ヶ岳」　6月11日(雨天中止（集合）近鉄富田駅二番線ホーム8時（コース）富田駅（徒歩）―藤ヶ岳―鈴北岳―鈴鹿峠―西藤原駅（約9㌔・一般向）参加自由・参加費200円、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2143

せせらぎ

顕宇・小林玻璃三

10月の連休を利用して徳島県の四国霊場を巡拝した。

白装束の歩き遍路を多く見かけたし、体験記もいくつか出版されている。若い人たちの姿も目につくようになったと思う。

この雑誌がみなさんのお手元に届くのは4月の中旬だろうか。3月になると、菜の花畑のなかを白装束姿の遍路が多くなる。遍路は春の季語になっている。

山馴れしたみなさんには少々不満が残るかも知れないが、私が歩いた遍路みちのうち、よかったと思うコースを紀行文として投稿してみた（本誌42ページ）。四国遍路を始めてみようと思われる方々の参考になれば幸いだ。

（杉本　高）

年末年始の山行報告

①戒長寺から城場山・頭井岳へ

霰が降った。松原は快晴だったのに。頭井岳山頂は広く展望も良好。城場峠から南への下りは、倒木をくぐる所が二ヶ所あった。

②都介野岳と三陵墓古墳

階段道に雪が積もり美しかった。山頂から能祁の里を望む。古墳は整備され、往時がしのばれる。前方後円墳の上は憩うのに好適。

③野中浅間山（多気町）

初登り。鉄塔巡視路あり。鉄塔からの眺め良し。海まで見えた。1491年、伊勢神宮と熊野の僧兵が争ったという。

④耳成山・香久山・畝傍山

三山それぞれに良いが、登った満足感は畝傍山が一番。見晴らしも最良。東にくだる道は急だが、落ち葉に埋まり美しい道だった。

⑤光渡山（多気町）

地形図には山名無く三角点も無い。密花畑の上から山道をたどり、行者祠のある山頂へ。五桂池が、眼下に見える。城山とも呼び、山中に五桂城があったと伝えられる。（藤木伸人）

「災害は忘れたころにやってくる」、阪神大震災からもう5年、また東日本大震災からは10年の歳月が過ぎた。2000年という一つの区切りに世は騒がしいが、この20世紀の百年は日本の文明開化ともいうべき世紀で、政治や行政が私たちを痛めつけたことか。このような災害は自然のそんな人間社会に対するリベンジともいえよう。

ここ数年、ようやく宿泊えを終え、そうした山近環境保護に山歩きの趣味を生かして第二の人生活動をしている。

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐登山　小白倉―大白倉―甲子・笠置への縦走基地　1名でも乗合の場合送迎有（要予約）　貸天幕（ドーム内泊）

福島・二岐温泉　日観連　大和館
〒962-0621
福島県須賀川市二岐温泉
電話 0248-84-2001
FAX 0248-84-2208

草千里山・草千里湖
東岸道自然歩道
（石割山・ハリモミ縞枯）

三国山の麓　ペンション　コットンテール
〒401-1502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話 0555-65-8515

大会場（収容千人）から松尾峠分岐点（国立・石割山）あり
JR中央線谷村町駅下車タクシー10分
バス30分登山口下車後往復2時間

山小屋　福ちゃん荘
〒401-0022
山梨県都留市上谷原
電話（自宅）0555-23-4639
（山小屋）090-1425-8128

尾根、平ヶ岳縦断と約5の山小屋
縦走三山口見山荘公園内

清四郎小屋
はんものの手打そばと寒天は
樹海
〒946-0000　新潟県北魚
新潟県魚沼市日渡の里（東京山）
電話 090-1255-8128
新開小（11月～4月）は
0257-91-2150

昨年秋から冬、長崎と京都の山で、私なりに自然を考えた。10月末「一等三角点研究会」で雲仙普賢岳に登り、自然の強さを見た。そして12月末には新ハイ関西の京都北山歩きに参加。ここ3年ばかり北山を歩いているが、この日は京都特有の北山時雨も底冷えもない。そして持越峠の原風景は林道が出来て変貌していた。グラノ坂をおりて来た京見峠は、日本海からの海の幸を運んだ鯖街道で、小浜から京都のお公家衆への荷が届いた所。そしてその丘陵に豆をつくり、天然の冷蔵庫としたという。そうした氷室街道を歩く時、自然との共生を少しでも感じて欲しいと願うのである。

（安藤正義）

山を歩いていると、地形図と全く異なる場面に遭遇することがある。紀泉高原の西部は低山の連なりだが、変化に富んでいておもしろい。しかし里に近いため破壊されやすい山域でもある。

1月16日に歩いた三峰山では、山頂から南にのびる縦走路が、尾根まで達した採石工事のため完全に断ち切られていた。西斜面の樹林帯を迂回して何とか通過したが、このコースは危くておすすめはできない。

3月5日の四石山でも、頂上の手前で登山道が採石場のブルドーザで壊されていた。破壊は50㍍ほどの距離だが、続きの道が見つけづらくなっていて迷惑このうえない。

山は権利者が勝手に姿を変えてよいものだろうか。少くともハイカーが安心して歩けるよう、登山道に配慮した工事を心がけてもらいたいものだ。

（塚元一恵）

山行短歌

12月8日　河内長野峰～二上山
裏たたみ踏まれるまほろしの岩根
あるいは冬の陽に翔び立つも

12月18日　美濃金華山
落葉樹常緑樹それぞれの越冬
それぞれの物語を生きて

12月23日　紀北座ヶ瀬峠
南海の風吹くときは古き歴記の
絵巻を俺れ石だたみ道に

1月1日　六甲蓬莱峡～座頭谷
希望峰めざして山様行き行くは
涸れし谷にも尋来るからに

1月2日　備前備ノ口山
それはグリーンシャワーの春の森
汚れ洗ぎ艙で生まれ変われと

1月3日　京都水尾～竜ヶ岳
滅ばざるもの枝には黄金の果実
山あおぐれば緑かがやなき

1月9日　鈴鹿羽黒山～羊捨山
光矢せし柴垣去るべし場を巡れて
山にあまたの岳人つどう

1月11日　京都愛山にて新年会
二年年紀を酒に寿ぎ夜明ければ
同志よ愛宕へ駆けのぼろう

1月20日　湖国西野山～竜王山
みずうみのみなみ越え行く山旅を
若帰りゆく風花舞びっ

2月10日　硬水分神社～金剛山
水瓶座より零れし蘇氷の使者の
時空はるけき伝言とどく

（木村太郎）

昨年末と年始の2回、あわただしく日帰りで奈良へ行きました。

山を歩き始めてからというもの、長らく休日には山行に没頭していましたが、久しぶりに足を踏み入れた寺院のたたずまいからも、見上げた仏さまの姿からも、胸に染みわたるような暖

汗をたっぷり流せる温泉と
姫ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-2100　新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電話 0255-86-2261

湯山の花、温泉の花
姫高山と火打山
百名山を二つ望める山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒945-2100
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電話 0255-86-2261

快適居食入浴も快適
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-0631　神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1-39
電話 0460-4-9041

「伊豆の踊り子」の情緒、レトロな箱根下駄用の浴衣
湯ヶ野温泉　**湯ヶ野荘**
バス運行時間外は送迎いたします。
天城峠・七滝・河津駅等
〒413-0507
静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野93
電話 0558-35-7225

びを感じることができました。

私には仏教美術の知識はありませんから、ごくポピュラーな仏像に関心が集中するわけです。東大寺三月堂の不空羂索観音と日光・月光菩薩、戒壇院の四天王、興福寺の阿修羅、秋篠寺の伎芸天、薬師寺の薬師三尊と聖観音、中宮寺の弥勒菩薩（寺伝は如意輪観音）などなど、飛鳥・白鳳・天平の、清純で柔和な、あるいは匂い立つような色香を漂わせた仏たちの世界と寺院境内の時間を超えた空間に、何度訪れても心に静かな感動を残してくれるのです。

仏像にひかれ始めたのは18年前、職場の銀座旅行で奈良を訪れた時からでした。小学校の修学旅行以来であり、当時、奈良にはさほどの興味もありませんでしたが、2月の小雪が舞う薬師寺金堂で薬師三尊像に向い合ったとき、思いもかけず、電撃に打たれたように立ち尽くしてしまったのです。

それから時々冬の季節に奈良へ通うようになり、様々な仏さまと出会いました。東大寺三月堂で双眼鏡の視界にとらえた日光月光菩薩の合掌した指に、はっとするような温もりを感じ、そのまま数時間堂内で過ごしたり、戒壇院広目天の射るかのごとく彼方を見つめる眼差しに思わずたじろいだり、秋篠寺伎芸天の美しさにすっかり魅惑されたりしたのでした。

やがて山にも心が動き、ハイキングにいそしむこととなってからも、奈良はずっと私の「憧れ」でした。今回、改めて奈良に赴き気付いたことですが、奈良の地でふつふつと湧き上がる感情は、山頂で抱く至福感と深くつながっているような気がするのです。

いつか、私なりの古寺巡礼ハイキングを企画してみたい……そんなことを夢見ています。

（鷲見守康）

私の知る限り、最初に「鈴鹿百山」を選定した人は「山想山歩の集い」代表の加藤紘四天氏であると思います。氏は、東海の岳人で鈴鹿を歩いている人たちにはよく知られた方で、「鈴鹿の主」「歩く生き字引」とも言われています。しかし、単に歩いているだけではこれ程までに名声が広がるはずがありません。氏は「山想山歩きの集い」という本を数百部も自費で出され、活動初期の頃は無料で参加者に配布されていました。

彼の容姿は昔テレビで見た悲劇博士のようで、「ブッシュ」「荒道」が口癖です。ナタを振るってルートを開拓していったとも聞いています。かなりの年数をかけて鈴鹿を歩かれ、百山を選定されたそうです。

私は「何とか百山」には関心がないので、「集い」の百山がどのような山であったかは知りません。「百山」という言葉の重みを思うと、単なる数合わせでなく、山名が地図に載っているとか、雑誌や各地のガイドブックで紹介されているとか、山伸開と呼ばれる山でないとその価値はないと思います。「集い」の百山はどのような山であったのでしょうか。

「集い」が本格的に活動する以前、加藤氏が鈴鹿を一人でオートバイで走っておられたことや、2、3名を連れて活動を始めら

四季彩りなす温泉旅館のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき沢りと浜の宿・日帰地
温泉旅館　けやき山荘
〒390—1500
長野県南安曇郡安曇村奥穂高原
電　0263—93—2555

さわやか信州
霧天風呂　山次の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381—0400　長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉郷穂波
電　0269—33—3578

標高2000m平下の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384—0000
長野県小諸市菅平高原
電　0267—25—2000

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　鉛の温泉平底下車
電　0269—34—2421
東京本社・東京都新宿区新宿3—20—5（新光第2ビル）
第4スポーツサービス
電　03—3341—0311

れた頃のことを私は知っていますので、たとえそれがどのような山であっても、それまでだれも考えなかった「鈴鹿百山」を選定され、やり遂げられたのはすばらしいことです。鈴鹿はまさに氏の生きがいであり、人生そのものであると改めて思っています。

（小出良春）

1月11日、夜来の雨は午前9時過ぎには止んだ。

思い立って、ザックに温いお茶のポットだけを入れて、和束可動から鷲峰山に行った。

登山口はJR原山バス停前で、鷲峰山参道と刻まれた石柱がある。でわかりやすい。

見渡す限り、茶畑が山上まで広がる美しい所である。薄霧の十枚山を彷彿させるその光景に何度も感を止めて眺めた。

檜や杉の木立のなかの道には、雨上がりのため霧が立ち込め、しっとりとした空気が漂っている。巻山口から40分歩くと休憩所があり、地蔵様がまつってあるのが実に可愛らしい。小鳥の声を聞きながら歩き、最後の急な段状の道を登りきると、大道寺からの林道と出合った。

金蔵寺山門から空海峯の山頂へと進んだ。登山口から山頂まで一時間である。きょうは琵琶湖の景色は見えないが、一人だけの静かな山と、大道寺や湯屋谷コースとは全く違う顔を見せてくれたこのコースに満足した。

下山後、「和束町道の駅」あたりから始めて全山が見えた。山名の由来の通り、鷲が羽を広げた形と言われてみれば、そうかも知れないと思われた。

（柴津典子）

私が初めて本誌を目にしたのは柴田附医さんの特選コースガイド3「奈良中部の鳥見山中霊時と中世の山城跡」が掲載されている31号でした。

こんな身近に神話の世界が。立派な鎮座碑、そして奥深い神社には歌碑が、山頂へとたどりながら九基。「とみ」と読む字だけでも、鳥見・跡見・等弥・登美等、地名としてなじんできたものが結び付いているなんて、考えたことがありませんでした。

このページを見た時、私の世界が急に広がったのです。

16人の仲間を案内したおりは、それぞれに感じ入った様子でした。荘厳な境内に心奪われる人、山頂の落ち着きにほおを当て大地のぬくもりを感じとろうとする人、竹林の美しさに釘付けになる人と、感じ方は違っても、このコースは今もしっかりと心に残っていると思います。

それ以後、すっかり新ハイキングの虜となった私は、山行きの日程が優先され、木の届く日が待たれてなりません。

（前川和佳子）

佳奈さんおめでとう。

一度、電話しようと思っていたら、いつの間にか受話器を取りキーを叩いていた。

モシ、モシと元気な声が返ってきた。佳奈さんである。

突然、彼女の名が出てきたので、いぶかる仲間もいると思うが、何度かこの冊子に登場している。彼女が小学3年生の夏、大台ヶ原へ家族と登っていた時に出会った。その後、文通や往来が続き、あっという間に10年

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬プランシェ
〒399—9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261—72—4452

八ヶ岳連峰北縁走の中心地
99年秋新増築完成全館暖房
木の香り漂う新設室温生活大浴場
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末営業
〒391—0215
茅野市豊平2720　小平奈美
電　0266—72—1279

北八ヶ岳の登山基地　冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
渋御殿湯
プチホテル　カナール
〒391—0301
茅野市北山渋御殿湯字丸平55
1泊の1
電　0266—67—2266

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コース案内
〒381—4100
長野市戸隠村鍋水ヶ原
電　026—254—2081

が過ぎ、今年で10回目の春を迎えたのである。

モシ、モシ、須磨岡です。あぁ、須磨岡さん。どこへ行ってたんよ、電話したのに。

ごめん、何かあったん

「大学合格したん」よー。と嬉しさではちきれんばかりの声が聞こえてきた。目の前ににこやかな彼女の顔が浮かぶ。

よかった。おめでとう！　本当によかった。言葉を探すが、とっさに思いだせない。最近、心から「おめでとう」と言うチャンスに恵まれなかったので、彼女からのプレゼントに感謝している。受験当日、須磨岡さんから頂いたお守りを持って行ったとも報告してくれた。それがあったから合格したとは思わないが、嬉しい一言である。ちなみに、そのお守りは西国33所28番天竺、成相寺と、天の橋立にある知恩の文殊堂のであった。

昨年一年をかけ、西国33所観音巡礼を終えた旅は、彼女の大学合格祈願と、私自身の体力の見定めをかねてであった。共に、まずはめでたしで納まったのである。

桜の咲くころには彼女は奈良から京都へ通学するので、少し落ち着いたら、新しい学校のことを聞きながら、京都デートすることと、京都近郊の山へ登ることも楽しみにしている。

次に、佳春さんとの報告が書けるのは、いつになるのだろうか、2人で山に登った話ができたら幸せなのだが。

（須磨岡　巍）

前3・4月号の平一郎氏の記事は同感の一言に尽きる。

昨年、悪天候のなかでの強行登山で15名前後の方が亡くなった。

代表的なのが、3月、那須岳吹雪のなかを強行したのと、装備が不健全だったのが原因。

そして、5月、霧島山で、雨天なのに強行して死亡。教訓にいとまがない。

平氏が挙げられていることとともに、一緒に行く仲間の方が、これはどうかなと首を傾げるようなことを平気で公言している。

その一つに杖のことがある。なぜ、岩場でも使わなければならないのか理解に苦しむ。誤った知識を多くの人に伝えていて、それを信じている人もまた多い。

（羽柴克巳）

今年から始めた鈴鹿百山の山行は名前の響きがよいのか、1月は人数制限をしなかったので、76名の申し込みがありました。実際には66名の参加になり、二グループに分かれて時間差で歩きました。今後は人数制限の方向で計画を実施する予定です。

小生は今回も1年分の予定を参加者に渡しました。これは各自の予定を事前に決めやすくしているためで、事前申し込みのために渡したものではありません。

ところが、全ての山行に事前（雑誌発行前）に申し込みをされる人もおられ困惑しています。

現在は定員枠外で処理していますが、事前申し込みが増えるとそれもできなくなります。

新ハイキングの山行申し込みのルールを守っていただくようお願いします。

（山巨明男）

日本唯一の女人禁制の山「大峰山（山上ヶ岳）」の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡大川村西川
電話　07466-4-0369

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電話　0997-46-2021

御在所登山に
愛知山渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菰野町千草
電話　0593-82-1789

◎サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで必ず予約をしてください。

◎予約のときに料金を確認して下さい。

山行計画

（5・6月）

新ハイキングクラブ広報

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込みお断りします。「参加」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発当時の際、係に保険料日額50円と救援対策費三組50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

	日額	
死亡・後遺障害保険金額		1000万円
入院保険金	5000円	
通院保険金	2500円	

保険の対象は集合時から解散時までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所　〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

奈良・経ヶ塚山（一般向き）

期　日　5月3日(祝)　日帰り

集　合　近鉄名古屋駅北口6時50分／近鉄桜井駅西口9時40分

コース　桜井駅（バス）下居—音羽山観音寺—音羽山—経ヶ塚山—熊ヶ岳—大峰—細峰—竜在峰—冬野—談山神社（バス）桜井駅（解散16時30分頃）

費　用　約4500円（名古屋から）

地　図　2万5千—敢楊山・古市場

係　◎小出長春　○中村英雄

申込み　〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください

音羽山観音寺から談山神社へ縦走します。雨天中止

鈴鹿を歩く92
滝谷山・サンヤリ・天狗堂
（健脚向き）

期　日　5月3日(祝)　日帰り

集　合　君ヶ畑バス停広場8時30分

コース　君ヶ畑出発（車）ミノガ

山行例会の実施について

山行例会に保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、記載すべき事項にもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は締切が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース
（初級向）どなたでも歩けます
（一般向）ハイキングの標準コース
（中級向）かなり経験者のコース
（やや健脚向）・（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

峠—滝谷山—サンヤリ—天狗平—君ヶ畑（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「霊仙・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

ミノガ峠から南に延なる長大な稜線を歩く。岩稜にはイワウチワとシャクナゲが続く。雨天中止

近畿百名山を登る（第14回）
伯母子岳・牛巻山・護摩壇山（一般向き）
期日　5月3日(祝)～5日(祝)　2泊3日
集合　〈3日〉JR・南海橋本駅10時00分
〈3日〉橋本駅（バス）立里荒神社—古荒神岳往復（バス）奥善四郎自然の里（泊）
〈4日〉自然の里（バス）大股—松峠—伯母子岳—上西跡—五右郷（バス）十津川温泉・緑秀苑（泊）
〈5日〉宿（バス）牛巻峠—越道アリノ越—上瀬山—大峠—大クボ山—寺垣内（バス）湯泉温泉（入浴・バス）護摩壇山（バス）橋本駅（解散16時頃）
費用　約30000円（バス・宿泊代等）
地図　2万5千＝国崎・伯母子岳・高野・神・高野
係　◎村田智愛　○安倉正蔵
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智愛まで
＊定員23名（会員に限る）

連休を奥高野の山々で過ごします。熊野古道（小辺路）歩きと温泉も楽しめます。雨天決行

北摂・中山連山（一般向き）
期日　5月5日(祝)　日帰り
集合　JR名古屋駅中央改札口6時15分／阪急宝塚線山本駅10時00分
コース　山本駅—最明寺—中山山頂—奥ノ院—荒神神駅（解散15時30分頃）
費用　約6200円（名古屋から）
地図　2万5千＝伊丹・武田尾・宝塚・広根
係　◎小出良春　○鷲巣　邦
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください

稜線からの展望の良さと少しばかりスリルのある岩場があります。雨天中止

自然観察山行41
芙蓉・小津権現山（中級向き）
期日　5月6日(日)　日帰り
集合　JR大垣駅6時40分
コース　大垣駅（バス）久瀬村小津—登山口—芙蓉山—小津権現山—高屋山—登山口—小津（バス）大垣駅（解散）
費用　約3300円（大垣駅から貸切バス・資料代等）
地図　2万5千＝芙蓉広瀬・横山・横見・谷汲
係　◎鷲見守夏
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守夏まで
＊定員17名（4月2日まで）

特徴的な鋭峰を見せる小津権現山を登ります。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。小雨決行

三重・局ヶ岳（一般向き）
期日　5月7日(日)　日帰り
集合　近鉄名古屋駅北口8時00分／近鉄松阪駅9時50分
コース　松阪駅（バス）堀出—局ヶ岳神社—登山口—ガレ—局ヶ岳—林道登山口—局ヶ岳神社—堀出（バス）松阪駅（解散16時30分頃）
費用　約4600円（名古屋から）
地図　2万5千＝宮前
係　◎小出良春　○朝倉利巳
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください

高見山地の霧峰で、十二単衣をまとった麓人に模される伊勢の名山に登りましょう。雨天中止

平日水曜ハイク28
朽木・白倉岳（一般向き）
期日　5月10日(水)　日帰り
集合　湖西線堅田駅8時00分
コース　堅田駅（バス）村井—松

本地蔵—牛コバ—烏帽子岳—白倉岳—白倉南岳—蛭生（バス）堅田駅（解散）
費用　約3000円（昼飯から）
地図　2万5千＝久多・朽木・野
係　昭文社＝「比良山系」
申込み　◎渡辺次男　○青木一雄　〒569—1133　高槻市川西町1の18の20　渡辺次男まで
＊定員50名（会員優先）

新緑の美しい山系で比良の山々が一望できます。小雨決行

週末ハイク23
比良・蛇谷ヶ峰（中級向き）
期日　5月13日(日)　日帰り
集合　JR湖西線近江高島駅8時55分（59分発バス乗車）
コース　近江高島駅（バス）畑—ヨコタニ峠—ボボフダ峠—蛇谷ヶ峰—桑野平（バス）堅田駅（解散）
費用　約2100円（バス代）
地図　昭文社＝「比良山系」
係　◎狩野良彦　○加藤元彦
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

上皮北端にある静寂峰で、以前は比良の秘境と呼ばれた蛇谷ヶ峰へ登ります。雨天中止

三重の山51
鈴鹿・雲指路岳（やや健脚向き）
期日　5月13日(日)　日帰り
集合　椿大神社駐車場8時30分
コース　椿大神社駐車場（車）小岐須渓谷山の家駐車場—大石橋—東海展望—雲指路岳—小社峠—仙ヶ谷—小岐須林道—大石橋—小岐須渓谷山の家（解散）
費用　1550円（交通費各自）
地図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係　◎長崎英五　○新町幸夫
申込み　〒513—0843　鈴鹿市平田東町4の5　長崎英五まで
＊マイカー山行

新緑のヤケギ谷・東海展望コースを登ります。小雨決行

地図読み山行40
北摂・剣尾山（一般向き）
期日　5月14日(日)　日帰り
集合　阪急淡路駅バスターミナル8時45分
コース　池田駅（バス）行者口—行者山—剣尾山—国境—槙尾山—岩峰—能勢の里（入谷・バス）能勢電鉄山下駅（解散）
費用　約2000円（大阪から）
地図　2万5千＝妙見山・埴生
係　昭文社＝「北摂の山々」
申込み　◎堀元一彦　○中村　登　〒536—0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　堀元一彦まで
＊定員30名（5月8日まで）

新ハイキング関西と部合同新緑・展望・沼泉の三点セットの山歩きです。地図読みとコンパスの使い方を学習しながら山の楽しさを満喫します。初心者歓迎。
＊指定の地図とシルバーⅢ型コンパス必携。雨天中止

鈴鹿を歩く93
三国岳・美山（健脚向き）
期日　5月14日(日)　日帰り
集合　国道306号線百々女鬼橋広場8時30分
コース　広場—遠望峠—稜線—奥山（769m）—縦走路—三国岳—三角点—遠望峠—鳴谷林道—集合広場（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「霊仙・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明
申込み　〒510—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

306号線から北畿屋根に取りつき、あまり歩かれていない奥山から三国岳へ登る。シャクナゲの大群落がみごとです。雨天中止

鈴鹿百山5
岩ヶ峰・北山（健脚向き）
期日　5月14日(日)　日帰り
集合　近鉄鈴鹿の山温泉駅9時25分
コース　湯の山温泉駅（車）大谷—岩ヶ峰—（縦走往復）—北山—尾根—大谷（車）湯の山温泉駅（解散17時頃）
費用　500円（車代）
地図　2万5千＝御在所山
係　◎山田明男　○高原芳彦

申込み　〒503―0535
岐阜県海津郡南濃町松山
624の19　山田昨羽まで
＊マイカー参加の人はその旨記入ください
岩ヶ峰は板取ヶ岳の孫生峰ですが、北東の展望（絶景）に一見の価値あり。小雨決行

自然観察山行42
美濃・伊吹北尾根（一般向き）
期　日　5月14日(日)　日帰り
集　合　JR大垣駅8時40分
コース　大垣駅（バス）国見峠―国見岳―大茶山―御座峠―静馬ヶ原―笹又―さざれ石公園（バス）大垣駅
費　用　約3500円（大垣駅から貸切バス・保険代等）
地　図　2万5千＝美束・関ヶ原
係　◎鷲見幸康
申込み　各務原市森原村南町1の19の5　鷲見幸康まで
＊定員17名（4月28日まで）
5月の北尾根は春爛漫の花盛りです。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。小雨決行

鈴鹿・上水晶谷から国見岩（能舞向き）
期　日　5月14日(日)　日帰り
集　合　朝明千種発電所上広場8時30分
コース　千種発電所―排砂谷―根ノ平峠―上水晶谷―ヤシオ谷―国見岩―ブナ清水―朝明―駐車場（解散）
費　用　2000円（交通費各自）
地　図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ谷」
係　◎笹井克治
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
アカヤシオの花とブナ林の新緑に会いに行きます。雨天中止

平日ふれあいハイク20
鈴鹿・鈴子ヶ口（一般向き）
期　日　5月18日(火)　日帰り
集　合　JR近江八幡駅8時00分
コース　近江八幡駅（バス）紅葉尾登山口―長尾山南尾根―鈴子ヶ口―西峰（往復コース）紅葉尾（バス）近江八幡駅（解散）
費　用　約4300円（京都から）
地　図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係　◎川上久堅　○寺井恒夫
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
鈴鹿中央の山塊にそびえ、南の雨乞岳や北の御池岳など、展望のよい鈴子ヶ口に登ります。雨天中止

平日木曜ハイク38
北山・桑谷山（一般向き）
期　日　5月12日(木)　日帰り
集　合　叡電出町柳駅京都バスのりば7時40分（30分発のバスに乗車）
コース　出町柳駅（バス）大悲山口―桑谷林道―東峰―桑谷山―長戸谷―能見口（バス・解散）北大路駅他
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「京都北山2」
係　◎岡中　毅
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
桑谷山は未ハイではまだクリヤーしてない京都での高峰です。東峰へは巨大台杉が点在する関電の巡視路を登ります。雨天中止

裏六甲・地獄谷から長峰山（一般向き）
期　日　5月21日(日)　日帰り
集　合　神戸電鉄大池駅9時40分
コース　大池駅―地獄谷―三国池―仙谷峠―長峰山―阪急六甲駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝神戸首部・有馬
係　◎井上　保
申込み　〒674―0057
明石市大久保町西島3の1・20の104　井上　保まで
六甲を横断する長一坂コース。裏六甲の静かな地獄谷から登ります。雨天中止

鈴鹿・御在所岳から国見岳（中級向き）
期　日　5月21日(日)　日帰り
集　合　近鉄名古屋駅北口8時00分／近鉄四日市駅湯の山線ホーム8時50分
コース　湯の山温泉駅（タクシー）中道登山口―キレット―御在所岳―国見峠―国見岳―裏道―湯の山温泉（バス）湯の山温泉駅（解散17時頃）
費　用　約2500円（名古屋から）
地　図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係　◎小出長春　○弱倉利己
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください
アルペンムード満点の尾根からの展望や奇岩怪石を楽しみながら登ります。藤内壁の眺めも圧巻。雨天中止

鈴鹿を歩く94
ダイジョウ・鈴子・イブネ（健脚向き）
期　日　5月21日(日)　日帰り
集　合　藤切谷旧林道入口8時00分
コース　旧林道―桜地蔵―アケビグン―ダイジョウ―佐目小谷源流―鈴子―イブネ―佐目峠―杉峠―旧林道入口（解散）
費　用　交通費各自

特別企画　2000年企画
静岡・大谷崩ハイキング（一般向き）
期　日　5月26日(金)夜～28日(日)前夜発～26日
集　合　JR京都駅八条口近鉄改札付近21時00分
コース　(26日)京都駅（夜行バス）静岡
(27日)静岡インター（バス）梅ヶ島温泉ホテル（バス）新田―大谷崩・山伏分岐―山伏登山口―ワサビ田の小屋―峯峠―ブナの大木―山伏―鉄線ワンヤー―新窪茶屋―大谷崩ノ頭―新窪茶屋―扇ノ要―新田（バス）ホテル（泊）
(28日)ホテル―富士見台―ホテル（バス）静岡インター（バス）京都駅（解散19時頃）
宿　泊　梅ヶ島温泉ホテル「梅薫楼」
費　用　3000円（バス・宿泊代・4食付）
地　図　2万5千＝梅ヶ島
係　◎坂元一彦
企　画　近畿日本ツーリスト㈱難波支店
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員40名（5月10日まで）
2000年の記念すべき年に2000㍍の大谷崩をめざす。山伏から南アルプス・安部奥東山稜を望み、日本三大崩れの一つ大谷崩を眺めながらの山行。富士見台からは富士山が間近に美しく見える。雨天決行

京都北山歩き91
佛坂峠から知井谷山（一般向き）
期　日　5月28日(日)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスターミナル8時30分
コース　出町柳駅（バス）大悲山口―修学寺―ナメラ谷―佛坂峠―小ナメラ谷林道―871㍍―こもれびの道―星巻古道―知井谷―山―チャロ林道―花背又流の森（バス）出町柳駅（解散時30分頃）

費　用　約3000円（バス代）
地　図　昭文社＝「京都北山2」
係　◎村田智俊
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで

山村都市交流の森にある自然歩道をのんびり歩きます。希望者は交流の森で入浴できます。
小雨決行

湖北・行市山（一般向き）
期　日　5月28日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口
7時30分／JR木ノ本駅
9時40分
コース　木ノ本駅（バス）小谷－林道－尾根－行市山－剣所山－中谷山－毛受兄弟墓－今市（バス）木ノ本駅（解散15時30分頃）
費　用　約3700円（名古屋から）
地　図　2万5千＝木ノ本
係　◎小山良春　○中村英雄
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

＊集合駅を明記ください
戦国時代砦のあった山。消れる人の少ない山で歴史に包まれたコースです。雨天中止

自然観察山行43
美濃・大白木山（一般向き）
期　日　6月3日(日)　日帰り
集　合　JR大垣駅8時40分
コース　大垣駅（バス）上大須（バス）折越峠－送電鉄塔－大白木山－折越峠（バス）大垣駅（解散）
費　用　約3600円（大垣駅から徒歩バス・資料代等）
地　図　2万5千＝下大須・能郷白山
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0628
各務原市鵜沼羽根町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員17名（5月15日まで）

標高1234.4m　山頂からの景観が良く緑濃の深さが味わえる山です。自然の観察と写真撮影に停う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。小雨決行

名山調歩8
東北・岩木山と早池峰山
（中級向き）
期　日　6月2日(土)夕～4日(日)
前夜発1泊2日
（2日）新大阪駅新幹線のりば18時00分
（2日）新大阪（新幹線）東京駅（バス）弘前（バス）岩木山八合目－鳴鳴ヒュッテ－岩木山－八合目（バス）盛岡市（泊）
（4日）盛岡（バス）小田越－田代平－早池峰山－河原の坊（バス）盛岡（バス）上野駅
費　用　約48,000円（交通費・宿泊代）
地　図　2万5千＝岩木山・早池峰山
係　◎秋山俊司　○内田恵子
○渡辺　武　○小田幸雄
○伊東三智子
○瀧川さつき
申込み　〒120－8691
足立郵便局私書箱第17号
新ハイ常陽グループまで
＊5月20日まで（会員に限る）

東京新ハイ常陽グループ合同東北の日本百名山二座のピークをハントします。雨天決行

甲斐・石津周辺から多度山
（一般向き）
期　日　6月4日(日)　日帰り
集　合　近鉄名古屋駅北口8時25分／近鉄養老線石津駅10時00分
コース　石津駅－御嶽登山道－甲斐神社－石津御嶽－林道－無線中継所－多度山－養宮神社－多度大社－多度駅（解散15時頃）
費　用　約1100円（名古屋から）
地　図　2万5千＝駒野・津島・阿弥陀寺・桑名
係　◎小出良春　○朝倉利巳
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください
養老山地の南麓沿を新緑のシャワーを浴びてのんびり歩きます。雨天中止

レ　鈴鹿を歩く95
日本コバから衣掛の泉新ルート
（健脚向き）
期　日　6月4日(日)　日帰り
集　合　国道421号線水沢寺前役場出張所8時00分

コース　広場（車）東近江開閉所－奥広場－林道－遊覧路－白鹿背山－852m－日本コバ－衣掛の泉－明神岩－831m－622m－水沢寺山門（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「霊仙・伊吹・藤原」
係　◎宮野　明
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー－山行

白鹿背山から日本コバに登ります。そして衣掛の泉と明神岩からの展望を見て、知られていない日本コバの広大な山域を歩きます。雨天中止

レ　鈴鹿百山6
桜木・仙香山・三池岳
（健脚向き）
期　日　6月4日(日)　日帰り
集　合　近鉄湯の山温泉駅9時25分
コース　湯の山温泉駅（車）八風射撃場－流谷－桜木－中峠－仙香山－八風峠－三池岳－お菊池－射撃場（車）湯の山温泉駅（解散17時頃）
費　用　500円（車代）
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎山田明男　○宮野万彦
申込み　〒503－0535
岐阜県海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで
＊マイカー参加の方はその旨御記ください

梅雨の前に秋鈴ヶ岳の北東の山を一廻りしますが、桜木から真下に見える大きな鉄塔が今もって謎です。小雨決行

大峰・観音峰から法力峠
（中級向き）
期　日　6月10日(土)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅9時15分
コース　下市口駅（バス）観音峰登山口－観音峰－三ツ塚－法力峠－荒川（バス）下市口駅（解散）
費　用　約2700円（バス代）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　◎村野東彦　○加藤元彦
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
山上ヶ平と接村ヶ岳の南稜峰で、これらの展望台ともなるパノラマコースを楽しみます。雨天中止

比叡・八王子山から三石岳
（一般向き）
期　日　6月11日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口6時30分／JR湖西線比叡山坂本駅9時35分
コース　坂本駅－日吉大社－八王子山－三石山－桃川中堂－松禅院－坂本駅（解散15時30分頃）
費　用　約4600円（名古屋から）
地　図　2万5千＝大原・京都東北部
係　◎小山良春　○中村英雄
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊集合駅を明記ください
千日回峰の行者道と有名寺院を見て歩くのんびりハイクです。雨天中止

近畿百名山を登る（第15回）
若狭・西方ヶ岳（一般向き）
期　日　6月11日(日)　日帰り
集　合　JR敦賀駅9時30分
コース　敦賀駅（タクシー）浦底－長谷水－蝶蝶ヶ岳－西方ヶ岳－オーム岩－奥の院展望台－常宮（タクシー）敦賀駅（解散16時頃）
費　用　約8000円（大阪駅から電車・タクシー代）
地　図　2万5千＝彩雲
係　◎村田智俊　○吉田裕美
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで

敦賀湾を眺めながら、蝶蝶ヶ岳から縦走します。小雨決行

平日水曜ハイク29
摂津・阿武山から摂津峡
（初級向き）
期　日　6月14日(水)　日帰り
集　合　JR摂津富田駅北側8時30分
コース　富田駅（バス）塚原－登山口－阿武山－阿武山口－スポーツ公園－東海自然歩道－桜公園－摂津峡－上の口（解散・バス）高槻駅北口
費　用　約1000円（大阪から）
地　図　昭文社＝「京都西山」
係　◎清浅欣男　○青木一雄

申込み　〒569－1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで
地振山ともいわれ昔大阪・京都間の米相場の連絡をしたとか。低いながら見晴らしはよい。摂津峡は山麓が涼しい。小雨決行

自然観察山行44
殺生・三方岩岳と初穂山
（一般向き）
期　日　6月17日(土)～18日(日)
1泊2日
集　合　〈17日〉JR岐阜駅8時50分
コース　〈17日〉岐阜駅（バス）白山スーパー林道三方岩駐車場―三方岩岳―駐車場（バス）白川村（民宿泊）
〈18日〉民宿（バス）天生峠―天生湿原―初穂山―天生峠（バス）岐阜駅（解散）
＊天生峠への道が未開通の場合は、大日ヶ岳と思沙門岳に変更します。
費　用　約19000円（岐阜駅から貸切バス・宿泊・資料代等）
地　図　2万5千＝鳩谷・中宮温泉・平瀬
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0628
各務原市蘇原村雨町1の13の5　鷲見守康まで
＊定員20名（5月15日締切）

二百名山の三方岩岳とブナ林などの原生的自然がすばらしい初穂山を歩きます。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。雨天決行（コース変更あり）

スズランの入笠山と守屋山
（初級コース）
期　日　6月17日(土)～18日(日)
1泊2日
集　合　〈17日〉JR大津駅8時30分
コース　〈17日〉大津駅（バス）入笠山登山口―マナスル山荘（泊）―夕食まで山頂・大阿原湿原・入笠湿原散策
〈18日〉マナスル山荘―登山口（バス）杖突峠―守屋山往復―杖突峠（バス）高遠温泉（入浴・バス）大津駅（解散19時頃）
費　用　約22000円（バス・宿泊代等）
地　図　昭文社＝「中央・南アルプス総図」
係　◎秦熊弘子　○岡田　昇
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊定員40名（会員を優先）

花の名山入笠山にスズランを見に行きます。梅雨時ですが雨の湿原はひとさわ美しく、晴れればすばらしい展望が楽しめます。雨天決行

鈴鹿を歩く96
イハイガ岳から綿向山新ルート
（健脚向き）
期　日　6月18日(日)　日帰り
集　合　国道477号線白倉谷林道入口8時30分
コース　林道入口(出)―巻渡谷広場―大峠―縦走路―登り谷コル―イハイガ岳―綿向山―ブナの木平―城尾谷出合（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・鈴ヶ岳」
係　◎岩野　明
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

白倉谷林道からイハイガ岳・綿向山へ登り、ブナの木平へくだる新ルートです。雨天中止

三河・いも毛湿原と神石山
（一般向き）
期　日　6月18日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口8時10分（京都駅発5時29分で）
コース　名古屋駅（電車）豊橋駅（バス）岩崎―豊毛湿原―一宮峠―座談山―神石山―梅田峠―新所原駅（電車）名古屋駅（解散16時頃）
費　用　約2600円（名古屋から）
地　図　2万5千＝豊橋・二川
係　◎小出良春　○朝倉利三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

低山ながら1等三角点の山。群手湿原ではどんな花々が迎えてくれるかな。雨天中止

平日木曜ハイク69
比良・武奈ヶ岳西南稜
（一般向き）
期　日　6月22日(木)　日帰り
集　合　叡山電鉄出町柳駅京都バスのりば7時40分（46分発のバスに乗車）
コース　出町柳駅（バス）坊村―御殿山―武奈ヶ岳―細川越―八雲ヒュッテ―北比良峠―ダケ道―イン谷口（バス）比良駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎前中　敏
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

年に一度の武奈ヶ岳山行ですがもう五回目になりました。西南稜ではサクサクリに出会えるとラッキーですが。雨天中止

湖北・天吉寺山（一般向き）
期　日　6月25日(日)　日帰り
集　合　JR長浜駅9時40分
コース　長浜駅（バス）野瀬―大吉寺―大吉寺跡―後藤―天吉寺山―松尾尾根―野瀬（バス）長浜駅（解散16時30分頃）
費　用　約6000円（大駅から）
係　◎村田智俊　○吳比琢美
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

広々とした大吉寺跡を探訪し、天吉寺山に登ります。小雨決行

北山ちょっと歩き10
北山・八丁尾根から愛宕山
（一般向き）
期　日　6月28日(水)　日帰り
集　合　京都駅前JRバス停山行きのりば8時00分
コース　京都駅（バス）高雄―八丁尾根―百井地蔵―峠の小屋―芦見谷渓流―愛宕神社―大杉谷―清滝（解散15時頃）
費　用　約1500円（京都から）
地　図　昭文社＝「京都北山1」
係　◎吳山琢美
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

涼しい木陰の芦見谷渓流を愛宕山へ歩きます。雨天中止

「新ハイキング」創刊50周年記念特別企画

スイス・アルプスを歩く花と氷河の山旅【旅特選5コース】

A コース　グリンデルワルトコース　¥348,000　片桐恭子リーダー同行
B コース　ミューレン・サースフェーコース　¥348,000　川添文男リーダー同行
C コース　ブライトホルン登頂コース　¥378,000　市川静子リーダー同行
D コース　シャモニ・モンブランコース　¥348,000　野沢和紀リーダー同行
E コース　内田康男講師同行・カメラコース　¥348,000　半藤和己リーダー同行

【旅行期間】2000年7月2日(日)～9日(日)8日間
・利用航空会社：キャセイ・パシフィック航空（予定）
・東京・名古屋・大阪・福岡発着、同一料金。
・食事：全行程、朝食、夕食込み。
・各コース、アルパインツアーより添乗ツアーリーダー同行
・創刊50周年記念記念旅。（ツェルマットにて 川）

●お申し込み・お問い合わせは
「新ハイキング社50周年記念海外ツアー」係
〒111-0033　東京都台東区浅草1-17-6-13
TEL：03－3915－6110（担当：麻後）
※各コースの残席20人以上は受付を締め切ります。お問合せリンクレット配送致します。

旅行説明会のご案内
●4月26日(水) アルパインツアー大阪支店
〒550-0004 大阪市西区靭本町1-10-22（ボロッカビル4階）
※開催時間は16:30～20:00　TEL：06－6444－3033

【旅行企画】新ハイキング社
【旅行主催】アルパインツアーサービス株式会社

山行報告
（1・2月）
新ハイキングクラブ関西

大島・三原山（名山縦歩6）
11月26日(金)夜～28日(日)
前夜発一泊2日（前号未掲載分）
〈26日・27日　晴れ〉名古屋駅20・05（新幹線）東京駅21・00＝東京港竹芝桟橋21・30～22・00一大島・岡田港5・40～50＝元町港6・05～7・10＝五合目地蔵尊登山道入口9・05～15一登山道出口時30・05～15一御神火茶屋10・25～40一三原山神社11・20～30一三原山山頂展望台12・20～55一御神火茶屋13・27～14・00＝元町港14・25～15・30一波浮港15・40＝甚の丸郡15・55～16・00＝泉島16・30（泊）
〈28日　晴れ〉宿8・04＝大島公園動物園8・30～9・20一絵物園一海岸遊歩道入口10・03一笠松11・00～25一泉津バス停12・25～57＝岡田港13・03～14・50＝東京港竹芝桟橋19・45（解散）
大島の三原山は元町港の海抜0対地点から登ったため、なかなかの登りがいがあった。五合目からの旧登山道は明瞭で、風情のあるいいコースだった。
（参加者）熊木秀雄　三浦美穂子　高山三郎　川崎和美　柳田生於美　箕田信弘　森川とよ　金子義光
○小田金雄　○瀧川せつ子
◎秋山俊司　（計11名）

北八ヶ岳を歩く
12月31日(金)～1月2日(日)2泊3日
〈31日　晴れ〉JR小淵沢駅11・26（電車）海尻駅12・16～35（バス）稲子湯13・06～13一しらびそ小屋14・50（泊）
〈1日　晴れ〉しらびそ小屋8・15一本沢分岐8・25一中山峠8・57～9・05一東天狗岳11・18～25一黒百合平12・15～30一ニュウ14・05～15一白駒荘15・40（泊）
〈2日　晴れ〉白駒荘8・10一麦芽峠8・50～55一大石峠9・10一中小場9・30～45一茶臼山10・21～45一展望台11・15～20一縞枯山11・30～35一ロープウェイ山上駅12・10～20一山麓駅12・28～13・00（バス）プール平13・20～14・13（バス）茅野駅14・50（解散）
3日間共快晴に恵まれて予定のコースを完歩。ニュウでは富士山を展望し、茶臼山では南アルプス・中央アルプス・北アルプスの大パノラマを満喫した。プール平の温泉で汗を流して帰阪。
（参加者）澤田惟之　◎渡辺一彦　（計2名）

北山・愛宕山
（京都（初級山行））
1月2日(日)　晴れのち曇り
清滝バス停集合9・50～10・00一表参道一水尾渡れ11・45～53一愛宕神社前12・15（昼食・参拝）13・17一月輪寺13・56～14・05一巴橋14・45～50一梨木谷林道一清滝バス停15・45（解散）
正月の愛宕山は春秋の行楽シーズン並みのにぎわいだった。積雪もなく暖かい山行だった。空也の滝に寄り道し、役行者と前鬼・後鬼の像があったのは個人的には大発見でした。（記録・亜五洋子）
（参加者）太間　隆　太間愛子　小林　稔　山岸勝雄　中村英雄　亜井洋子　杉本　高　国松義雄　占部信廣　長沢佑夫　吉條孝次　川島勝美　森　晴代　伊藤則男　松本忠雄　鷹巣　邦　三井千鶴子　湯浅康夫　南　寛子　森澤愛子　和田直樹　林　弘毅　伊藤恵美子　近田智子　伊藤　真　○川上久雄
◎小出良春　（計30名）

鈴鹿・入道ヶ岳
1月4日(日)　晴れ
近鉄四日市駅集合9・00～05（バス）椿大社10・00～10一北尾根一入道ヶ岳12・20（昼食）13・00一二本松尾根一椿大社14・10（解散）
椿大社は初詣客でにぎわっていた。ササにおおわれた山頂は風がきつかったが、鎌ヶ岳の峰々を始め鈴鹿の山々を360度望できた。アセビ・イヌツゲの群生する二本松尾根や巣の天然記念物のミシなどに出会え、花の頃に再訪したい。（記録・石濱絢子）
（参加者）岩田育士　飯島　啓　飯島節子　阪　文子　国松義雄　石濱絢子　高原芳彦　中尾美智子　森　晴代　岡田直規　岡本美子　西村上春　浦阪利明　石田直田美　中村和子　島居信吾　山本京子　多賀居二　多賀久子　松上美代子　山口春江　徳田勢子　野々山　寛　岡田豊治　田中　茂　渡辺美代子　木村光江　中上和代子
○鷹巣　邦　◎小出良春　（計30名）

伊豆・天城山縦走と達磨山
1月8日(日)～10日(祝)　2泊3日
〈8日　晴れ〉JR大津駅集合9・00（バス）中伊豆荘16・30（泊）
〈9日　晴れ〉中伊豆荘6・30（バス）登山口7・00（朝食）7・30一万二郎岳8・30～40一万三郎岳9・50～10・00一八丁池12・15（昼食）13・00一旧天城トンネル15・00～10一天城バス停15・30（バス）土肥ふじみ荘17・00（泊）
〈10日　晴れ〉ふじみ荘9・00（バス）達磨山駐車場10・00一小達磨山10・20～30一戸田峠11・00（バス）大津駅18・00（解散）
うっすらかな日だまりのなかを、海と富士を眺めながらのんびりと縦走を楽しんだ。天城の良さは森の良さ、ということを再確認した。
（参加者）栗岡功子　兼田幸子　中村静香　中川光郎　三浦松雄　宮本真幸　宮本博子　武部美美子　森　弟代　岩城清美子　上田王子　前田精一　堀尻吉雄　森宮登美子　森崎真義　角田一江　砂原恵美子　岩田育士　藤本紀子　岡田恵美子　加藤元彦　吉花　清　久保田順一　斉藤妙子　鮎越利明　鮎越みよ子
○武田　昇　◎斉藤弘子　（計23名）

湖東・八幡山
1月9日(祝)　曇り
JR近江八幡駅集合9・30～39（バス）日牟礼八幡宮9・50一八幡山頂直一ノ九10・35一村雲御所瑞龍寺11・00一新町バス停11・45（解散）
小学生の頃遠足で出会ったが、暖かい日で厳寒にはならなかった。琵琶湖・比良連峰の展望は残念ながら霧大のため見られなかった。解散が早かったので、瓶割山にも登ってきた。（記録・速水保）
（参加者）駒　久子　稲木芳雄　速水　保　伊東博一　北川田智子　大黒　均　松本　博　小田勢子
○中村英雄　◎小出良春　（計10名）

美濃・金ヶ谷山と津屋山・城山
（自然観察山行）
1月9日(祝)　1泊2日
〈9日　曇り〉JR長谷駅集合9・50（バス）平日良キャンプ場9・40～50一甘南美寺奥の院10・45一金ヶ谷山11・35（昼食）12・30一かじか小屋13・45一伊自良キャンプ場14・30（車）岐阜県勤労福祉センター15・40（泊）
〈10日　晴れ〉勤労福祉センター7・30（車）名鉄六軒駅7・50～8・11（電車）名鉄新鵜沼駅8・25（タクシー）追間不動8・40～45一追間山9・10一大岩不動10・30一追間山10・50一金比羅山11・40（昼食）12・40一城山13・35一城山登山口14・20一戸良駅着14・40（解散）
個人山行のような和気あいあいの雰囲気で、天気にも恵まれ冬枯れの里山ハイキングを堪能しました。宿では、恒例のスライド映写会を開催、景品付きの山名・植物名クイズも楽しみました。
（参加者）鷹巣　邦　鈴木美代子　森　晴代　若松朝子　○近藤和明
◎鷲見守康　（計8名）

観音山・華厳山・花の木
（三重県山・関西山（鈴鹿百山））
1月9日(祝)　曇り
JR関駅集合8・45一関西本線西広場9・15一関西本線9・25一観音山遊歩道入口9・40一華厳山10・50一小野川林道11・10一花の木11・40（昼食）12・27一羽黒山分岐13・05一羽黒山13・50一関学生西広場14・45一観音山15・30一関学生西広場15・30（解散・タイムは第2グループ）
風のない暖かい日で、65名の参加者があり、二グループに分かれて歩いた。花の木へは道のない所を歩き、羽黒山への岩場はけっこうスリルもあって好評でした。300メートル程の山とは思えないハードな山歩きが堪能できた。
（参加者）安藤　雅　瀬木美恵子　岩下祐夫　石濱絢子　伊藤恵美子　井上　光　今井武司　今井みよ子　上田孝男　上田政子　奥川孝夫　小田妙子　岡本和子　岡本美千代　大村俊子　鎌陳運司　落合ひろ子　亀本廣治　木村本郎　木村　恵　北川直雄　北川明子　高津智美　後藤康幸　櫻井康一　櫻井光子　佐賀章一　真田明子　上田久子　谷　守　多賀居二　多賀久子　竹田善英　堀　良男　吳居信吾　徳田勢子　中居国子　中村和江　橋爪市郎　中元孝子　西内正弘　藤野裕子　林　進　原　光一　原　幸子　東中次夫　福陽　章　本間　隆　松村雅子　松上美代子　松本　亮　松本節子　森本　勝　森本淳子　三井益一　宮村孝次郎　山縣勝美　山村善男　山野司保江　渡浅康夫　和田四郎　○水谷俊之　○鎌部　純　○真田芳彦　◎山田明男　（計62名）

美濃・養老山
（養老山系自然観察ハイク4）
1月15日(日) 晴れ
JR大垣駅集合8・40―近鉄大垣駅8・53（電車）近鉄養老駅9・22（車）滝上駐車場10・00―三方山11・30―小倉山12・00（昼食）12・50―養老山13・10―小倉山13・40―旧牧場15・00―笙ノ木平15・40―滝上駐車場16・30（解散）
よく晴れ上がり、広々とした濃尾平野の眺望を満喫。今年は雪のない養老山でしたが、自然観察には理想的な参加者数で、常緑樹の葉や落葉樹の木肌など樹木を中心にした観察を楽しみながら歩きました。
［参加者］石原若子 稲本秀瑞
岩田育士 北川浩催 北川明子
杉山 滋 西村正春 ○岡田直規
◎柴田守康 （計9名）

竜王山・綿向山・水無山
（鈴鹿を歩く85）
1月16日(日) 晴れ時々曇り
熊野バス停広場8・20（車）西明寺登山口8・35―竜王山9・35―綿向山11・40（昼食）12・30―水無山13・05―熊野14・30（車）八丁野広場14・55（解散）
竜王山から見た綿向山の樹氷は登り着いた頃には融ってしまっていた。昭文社の地図では綿向山東斜面に「ブナ原生林」と記されているので、くだってみると杵築のブナ林があり、みんなびっくりした。
［参加者］後藤東平 今井武司
谷 守 山田昌三 武藤由美子
水戸鉄治 森本 勝 森本淳子
高橋智美 神野秀允 石田眞由美
加藤国昭 池田繁美 別所保夫
樫田勝利 西岡廷雄 奥村一平
武村千鶴 ◎岩野 明 （計19名）

吉野・竜門岳
（近畿百名山に登る第9回）
1月16日(日) 曇り時々晴れ
近鉄大和上市駅集合9・30（バス）山口神社9・50～10・00―竜門滝10・25～35―竜門岳12・00（昼食）13・00―三津峠14・00―大峠14・40～15・00―不動滝15・40～16・10（バス）近鉄桜井駅16・30（解散）
今年のエトにちなみ竜門岳を歩いた。山頂や鉄塔広場からの展望を楽しんで大峠からくだった。ひと倒木で歩きづらかった道もよく整備されていた。
［参加者］吉川武司 西岡信男
本庄富夫 保田 正 草野美雅子
平田典美 山岸勝雄 前川和佳子
近藤 恭 三井紘一 馬鍋忠明
原 文子 国松義雄 永田洋子
占部信成 長沢佑美 木村 豊
秋田晴郎 東山道夫 木村千代子
木村正弘 亀本勝治 中村佳津子
妹尾一正 藤本紀子 武部美奈子
福岡 章 佐藤新一 佐藤妙子
辻村学裕 山岸義治 山岡多賀子
林 進 堀 久子 中尾美智子
青木一雄 秋野智子 森 美香子
馬向内東洋明 辻 嘉一郎
森 昭代 川上久堅 佐田次男
眞田久子 和田直樹 西村文明
血原満男 寺本幸明 若木修一
藤井洋子 小寺直子 鈴木恵美子
速水 保 中谷孝多 宮坂敏彦
山本京子 徳川明子 湯浅次男
吉様幸次 小谷和子 野里マツヨ
小林 桂 原 幸子 ○呉比裕美
◎村田智俊 （計65名）

御池岳で雪と遊ぶ①
1月16日(日) 曇り時々晴れ
JR関ヶ原駅8・20／三岐西野尻駅集合9・00（車）コグルミ谷登山口9・30―長命水10・00―カタクリ峠10・30―幻池11・00―道泊11・30―昭和の谷11・45（昼食）12・15―池の平めぐり―鈴北岳14・30―県境1148ピーク14・45―長命水15・20―コグルミ谷口15・50（車）関ヶ原駅16・35（解散）
翌日の雪が全くなく、雪と遊べなかったが、池めぐりを楽しみ、途中で狩猟のグループに会って犬に追われる四頭の鹿が見られました。
［参加者］永谷義之 佐古田文子
鳥居信若 池田隆一 網木美恵子
安田良剛 木村光江 伊藤富美子
小田妙子 山村嘉男 坂井三良明
金森須子 広阪利明 鈴木美代子
岩下裕夫 飯田 昇 西居桜弥
西居裕子 □川昭彦 ○西居琴彦
◎山田明男 （計21名）

稲荷山から将軍塚
（北山ちょっと歩き5）
1月19日(水) 晴れ
JR稲荷駅集合9・05～20―稲荷大社9・30―稲荷山10・30～40―すべり石峠11・10～20―豊臣秀吉の墓所12・10（昼食）13・05―清水山13・50～14・00―将軍塚14・30～50―粟田神社15・30（解散）
福の神本家本元の稲荷大社に始まり、東山三十六峰を粟田神社まで、

京都の歴史を回顧しながら、冬の日差しを浴びて歩きました。
［参加者］山岸勝雄 中村啓一
国松義雄 中村英雄 中村恵美子
吉藤幸久 本部富夫 富田道子
南 育子 芝野修明 森実喜美子
渡辺康夫 松本文男 大西喜佐雄
辻 富子 藤田健一 波多野恵子
中田茂子 島田冴子 田中真知子
松本忠雄 松本淳子 和田直樹
谷 守 石原君子 成川みさお
川原勝恵 中尾博子 白神文子
細井和子 藤崎悦子 宮原雅子
◎呉山繁三 （計53名）

ニュージーランド
ミルフォードトレック
（名山特歩7）
1月19日(水)～26日(水) 晴れ 中2日雨
成田20・50（機中泊）オークランド11・50～13・30―クライストチャーチ14・50～15・10―クィーンズタウン16・30（泊）～8・30＝ティアナウ12・00～13・20＝ティアナウ湖―グレイドハウス16・20（泊）～8・35―ポンポローナハット16・20（泊）～8・30―マッキノン峠16・00―クィンティンハット17・00（泊）～8・20―サンドフライポイント15・40～16・10＝ミルフォードサウンド17・20（泊）～7・45―ミルフォードサウンドクルージング8・10～10・30＝ティアナウ12・05～13・00＝クィーンズタウン15・30～16・10＝クライストチャーチ18・00（泊）～9・40＝オークランド11・00～12・15＝成田19・10
（往路および復路のオークランド間は、日本より4時間早いニュージーランドの夏時間で表示しました）
世界各地からの参加者46名の内、日本人が20名。4日間で約54kmを歩いた。軽登山靴に通常のハイキングの装備が必要だ。
［参加者］里見紀生 山上紀代子
塚田ホマ子 金子久子 鈴木美代子
中村金吾 人越喜代子
○島田三郎 ○中津川良太郎
◎秋場俊司 （計10名）

湖南・金勝アルプス
（平日木曜ハイク64）
1月20日(木) 晴れ
JR草津駅9・00（バス）上桐生9・30～45―落ヶ滝10・10～20―鶏冠山11・10～25―天狗岩12・20（昼食）13・00―竜王山13・40～50―狛坂磨崖仏14・35～45―上桐生15・45～16・00（バス）草津駅（解散）
奇岩奇石と松の緑がコントラストの妙をなしていた。終日かなり寒かったが元気にクリヤーした。
［参加者］塩所香織 松村絹子
和川常雄 大村俊子 曽東 邦
長船出明 田中 明 森 瑞代
妹尾一正 妹尾公代 東山澄夫
小西静雄 木村 豊 三宅 明
藤井松子 宮内節子 川越富士江
川上久堅 国松義雄 松下美智子
速水 保 平 幸子 永見貞紗子
上田久子 中村 稔 中村佐代子
古藤幸次 岡本和子 三浦真左子
山口春江 木村太郎 米谷延治
国見瑞子 中村和江 石田眞由美
渡辺達郎 佐田次男 ○永見周二
○小林 稔 ◎前中 毅 （計40名）

松阪・堀坂山（三重の山49）
1月22日(土) 晴れ
松阪森林公園駐車場集合9・00―古寺谷林道終点9・30―お休みピーク10・00―堀坂山11・15（昼食）12・10―堀坂峠12・50―観音岳13・25～45―森林公園駐車場15・00（解散）
風もなくポカポカと暖かく展望も最高。いつもは遠く雲にかくれている高見山が真っ白に天を突いてそびえているのが印象的だった。いつも素通りする観音岳一帯が整備され、歩きよい展望の山に変身していた。
［参加者］伊藤則夫 藤堂國男
木村昇和 小坂忠男 岡本美千子
池田繁美 森 芙蓉子
石田眞弓美 ○新町幸夫
◎尾崎英五 （計10名）

西播・小野アルプス縦走
1月23日(日) ◎井上 保
＊雨天のため中止しました。

奈良・談山神社から石舞台
1月23日(日) ◎小出良春
＊雨天のため中止しました。

奥比叡・水井山から釈迦堂へ
（平日ふれあいハイク18）
1月25日(火) 晴れ
出町柳駅集合8・20～39（バス）戸寺9・07～20―仰木峠10・30～40―水井山11・25～35―横高山12・15（昼食）12・55―釈迦堂13・30～40―八瀬ケーブル山頂駅14・30（解散）
風のない上々の天候だった。北方には比良連峰が頭を雪にかく

し中腹は白く輝いて見えた。道には雪がなかったが、周辺には3～4㎝の積雪でいろいろな動物の足跡があった。

（参加者）岩尾善織　保田　正　本藤宗夫　榊　鶴司　榊　美米子　山本京子　木村　豊　木村千代子　妹尾一正　吉藤孝次　真山敏夫　本間繁子　藤田温一　榊原司　後子　榊木敏子　国松義雄　川崎信士江　辻　行子　呉山繁三　吉益吉之助子　石原君子　大橋云造　岩城孝子　大島光雄　青木一雄　上田久子　岡原定夫　高木　哲　橋本金三　川原勝恵　星野止弘　久世美紗子　若木悠二　下西　親　辻　嘉一郎　寺本幸男　今里哲也　山本千鶴子　山原清男　○中村英雄　◎川上次堅　（計41名）

金剛山

（近畿百名山に登る第10回）

1月30日(日)　曇りのち雪

近鉄御所駅集合9・10（タクシー）高天彦神社9・30～40―郵便道―ダイトレ合流点11・00～10―源出臣三角点11・30―国見城跡12・00（昼食）13・30―太尾滝跡14・00―太尾―水越峠バス停15・15～25（バス）富田林駅15・45（解散）

静かな郵便道を金剛山へ登った。山頂ではボタン雪が降っていたが、寒さは感じなくのんびりとくつろいだ。次尾のくだりは静かなコースだった。

（参加者）上田久子　前川和佳子　三井紘一　那木貴雄　長尾節子　国松義雄　中村敬香　中村敬香　佐藤栄一　東山澄夫　田中　明　妹尾公代　中村佳郎子　南　寛子　藤木紀子　高村孝次郎　佐藤恭子　福隅　泰　徳田鶴子　高岡信男　亀木敏治　亀谷秀子　渡辺次男　小林　稔　上田王子　辻村幸裕　青木一雄　上田王子　星野止弘　岩田育士　加藤元彦　森　晴代　小林　桂　中尾美智子　中村和江　小西輝雄　中井ひろみ　乙垣雄雄　呉山繁二　中西信行　小谷和子　○狩野東彦　◎村田智慶　（計49名）

京都西山ポンポン山から釈迦岳

（冬季ハイク21）

2月5日(日)　晴れ

阪急茨木河原駅集合8・30～46（バス）茨木日町9・06～20―小塩山10・35～11・05―鳴滝遊歩道―11・40～6―9村鉄塔ピーク12・10（昼食）13・10―ポンポン山13・40～14・00―釈迦岳14・20～50―大沢越14・55―立石（バス停）16・15・35～50―西山キャンプ場口16・10―長岡天満宮16・50（解散）

早春のような暖かさに恵まれ、霧んだ京都の街を眺めながらパノラマコースの景観を楽しみました。小塩山・ポンポン山にはうっすらと雪が残っていました。

（参加者）角田一江　荒野智雄子　吉積　清　中村敬香　妙原恵美子　占部信義　吉藤孝次　馬場出男　今井武司　長尾節子　賀松雅子　水間繁子　佐藤裕子　佐藤新一　山下恒三　中田茂子　中田茂子　岸本節夫　妹尾公代　武部美美子　秋田博師　堤　良男　上田久子　宮内節子　亀木貞治　本間俊次　塩原香織　高津智英　加藤　孝　上田正子　森本澄子　広田不佐子　大谷孝子　中谷孝子　石田哲一　綾　昌子　細野欣也　熊田千枝子　嶋田幸子　今森健子　鷲原一男　松本忠雄　中村和江　球本節子　戸田サエミ　小谷和子　長沢佑美　谷　守　木下恵子　速水　保　石田孝子　松本文男　若木悠一　寺本幸男　血原清男　高木泰次　中川光郎　小林　稔　呉山繁三　雑野孝允　原　文子　南　寛子　前嶋みち子　竹田美英　和田直樹　小田節子　○若木一雄　○川上久堅　○田辺保夫　○加藤三彦　◎狩野東彦　（計73名）

鈴鹿・三国岳

（信楽高原鉄道山行35）

2月5日(日)　晴れ

JR関ヶ原駅集合8・30～45（タクシー）時山バンガロー村9・10～20―ダイラ10・40―三国岳12・00（昼食）13・00―ダイラ14・00―バンガロー村15・10～30（タクシー）関ヶ原駅15・50（解散）

移動性高気圧におおわれ、すばらしい青空と穏やかな日差しの下のスノーハイキングでした。雪の斜面でアニマルトラッキングを楽しみ、終始トレースのない雪面をラッセルし、やせ尾根からは遠仙山を始め鈴鹿北部の山々の景観を満喫しました。

（参加者）増本芳雄　岩田育士　近江秀子　岡田直規　堅田美恵子　堅田　弘　北川直樹　加納由紀子　北川明子　木村光江　小松志信　○三井紘一　◎鷲見寺原（計13名）

湖東・鎧通山

2月8日(日)　◎小出良春

＊雨天のため中止しました。

京都北山・愛宕山

（平日水曜ハイク26）

2月9日(水)　晴れ

清滝バス停集合8・50～56―表参道―水尾観れ10・50―愛宕神社11・30（昼食）12・30―三角点12・55―日星岩展望13・46―高雄展望台15・30―高雄バス停15・50（解散）

前日から降った粉雪がサラサラしていて、歩き心地は最高だった。雪に恵まれた冬の愛宕山を楽しんだ。

（参加者）荒澤勝春　横澤ふみ子　吉藤孝次　東山澄夫　千葉千枝子　木村　豊　辻　行子　吾妻百合子　上田久子　妹尾一正　諏訪孝子　高沢智美　森本澄子　広田不佐子　大谷孝子　平敏美子　俣田久子　杉山寿子　石原君子　本藤宗夫　国松義雄　金森節子　辻　行子　白根澄子　岡田節子　中村敬香　堅田美恵子　中西節子　岡田孝美　成川みさお　川上次堅　神井初子　中上紀代子　城月義雄　谷　守　井林次郎子　兼田孝子　堀　久子　砂原恵美子　○青木一雄　◎渡辺次男（計40名）

魚谷山から芦生坪

（会報北山歩き69）

2月13日(日)　曇り

出町柳駅集合8・00～15（電車）二ノ瀬駅8・40―宮本神社8・45～9・00―二ノ瀬コリ屋去10・30―魚谷峠11・20―柳谷峠12・10（昼食）12・45―魚谷山13・00―横谷峠13・15―尾根道―芦生坪14・10～20―奥芦生神社15・20～30―芦生口駅16・00（解散）16・15（電車）出町柳駅16・50

魚谷山付近の積雪は30㎝位で、雪の北山歩きを楽しんだ。柳谷峠から芦生坪の尾根道は歩きやすく北山の展望がよい。

（参加者）本間　隆　宮村孝次郎　岩田育士　三井紘一　松村雅子　水藤孝夫　吉藤孝次　植本芳雄　森本紀子　木村　豊　小坂博子　佐藤新一　佐藤秒子　川崎信士江　岸本節夫　妹尾一正　押鍋司待子　本間俊次　塩原香織　森本　勝　森本澄子　高津智英　入江武史　小坂博子　湖田　京　武部　剛　武部美恵子　隅　昭子　梶　良男　中村佳郎子　明　久子　秋田博師　吉川武司　藤田純一　渡辺孝郎　国松義雄　川上次堅　神井初子　谷　守　井林次郎子　兼田孝子　堀　久子　砂原恵美子　○青木一雄　◎渡辺次男（計40名）

雲仙山西麓尾根を歩く

（鈴鹿を歩く86）

2月20日(日)　雪のち曇り

寺院坂駅集合8・30～40―表参道9・20―汗かき峠10・35―見晴し台12・00―ゆるる岩屋―00―ドリーネ13・10（昼食）13・55―お花ヶ池14・10―見晴し台14・20―茶合15・10―寺院広場16・50（解散）

4、5日降り続いた雪は深くてカンジキでのラッセル。汗ふき峠に着いても踏み跡がない。へとへとになった時、学生5、6名が追い越していったが、彼らも見晴し台の下で休んだ。（鈴鹿の雪原を直登し、激風とガスのなかをお花ヶ池まで行ったが引き返す。真冬の一番厳しい雲仙山を体験し思い出に残る山行だった。

（参加者）今井武司　山田繁二　小林　稔　高澤智美　小林　実　神野孝允　谷　守　高村孫三郎　永戸鉄治　奥村敬明　小林　桂　池田隆一　信田信広　加藤国野　森本　勝　森本澄子　◎矢野　明　（計17名）

三河・猿投山

2月20日(日)　◎小出良春

＊雨天のため中止しました。

鈴鹿山から釈迦ヶ岳

（鈴鹿百山2）

2月20日(日)　曇り

近鉄湯の山温泉駅集合9・25～30（電）尾平鉄駅発9・55―尾平山10・55―釈迦ヶ岳根（昼食）―九合目付近14・30（後発）―尾平山16・05―尾平鉄駅17・10（解散）

雨の予報でしたが、駅に来られた20人での山行になりました。先日降った雪が1・5㎞程で山頂まで行けず、九合目付近で引き返しました。

（参加者）渡辺孝子　山脇勝美　後藤康平　高松雅子　佐古田文子　鳥居清吾　山本良子　鳥飼利明

山村英男　亀本廣治　武藤由美子
宮田佳子　水谷俊之　伊藤嘉美子
原　光一　原　幸子　西西正弘
月下巳子　○高橋宏彦
◎山田順治　（計20名）

奥濃・小島山

（自然観察山行36）

2月20日（◎春日宇郎）
＊疲労のため中止しました。

緑光院から金毘羅山・鷲塚崩山

（北山ちょっと歩き6）

2月23日(水)　晴れ
出町柳駅集合8・30～39（バス）大原9・20—緑光院前9・40—寂蓮山10・45～55—金毘羅山11・20～40—江文峠12・05（昼食）12・50—実谷峠14・00—鷲塚崩山14・10～25—実谷峠到着15・30（解散）
マンサクにはまだ早く、早春の味わいはやや後の楽が代用してくれました。緑光院山の雪もアイゼンの必要なく全員足並みが揃って心地よい山行でした。
（参加者）中村啓一　松上英代子　南　寛子　広田不佐子
木村　徹　山本京子　坂多野恵子　岩本いすゞ
林尾二正　石原君子　山岸陽雄　大谷章子　若大義一　岩本いすゞ
藤田健一　吉俣孝次　中村　保　菊本敬子　長沢佑夫　高田久美子
柳川常雄　湯浅勝夫　中村英雄　寺本幸夫　高田久美子
血原清男　松井美子　久世芳紗子
白坂清子　辻　行子　辻　嘉一郎
辻　章子　鶴尾保治　砂原宏芳子
土井孝夫　磯部　純　木村千代子
吉田豆二　川上久堅　◎長山孝三
（計38名）

京都西山・南禅寺

（平日本縦パイク65）

2月24日(木)　曇りのち雨
阪急上桂駅集合9・45～9・00—愛宕山10・40～50—王子社林道11・30（昼食）12・05—みずき山13・00～15—三尾寺13・50—JR嵯峨駅14・10（解散）
ほとんど急な坂のない歩きやすい縦走路だったが、以前より林道がのびていて……、仕方ないですね。時々しぐれたがあまり気にならない程度だった。
（参加者）吉藤孝次　田中　明
小西静雄　冨松雅子　大西喜佐雄
塩尻倉織　岡田豊子　井林秀彦子
芝野栄明　石原君子　小野しげ子
藤田健一　鉄尾公代　砂原宏芳子
国松義雄　本間翠子　中上紀代子
東山澄夫　安宮敏子　高橋信男
川上久堅　富西節子　中西正義
森　増代　中村和江　速水　保
中田茂子　堀月満幸　升方清一
木村太郎　川崎拓也　藤井孝子
岡田春夫　○水見岡二
○小林　稔　◎到中　敏（計35名）

山科・音羽山から上醍醐

2月22日(日)　曇り時々晴れ
京阪大谷駅下車蝉丸神社集合9・00～15—音羽山展望休憩所10・10～20—音羽山10・30～40—パノラマ台11・00—東千頭岳12・00（昼食）12・50—西千頭岳三角点13・10—ゴルフ場13・30—陸軍陸14・00—上醍醐五大堂14・20～30—女人堂15・30（解散）
道案かわずかにあり息わぬ滑りやすい道だった。音羽山からの展望を楽しみ、東海自然歩道から分かれて千頭岳・上醍醐へのんびりと歩いた。
（参加者）角田一江　本橋孝夫
向田　徹　横澤吉春　横澤ふみ子
馬淵忠男　東山澄夫　佐野智雅子
百松雅子　小林　稔　中西振次好
山岸勝雄　吉原　清　大橋宗雄
永宮紳子　秋田勝郎　前川和佳子
入江武史　西野幸夫　西野加代子
速水　保　藤原羽美　伊藤千鳥
松本中華　土岡　康　村松美智子
小林　桂　辻　行子　白坂清子
小谷初子　若木義一　遠藤二郎子
吉木一雄　吉田誠宏　吉田ソノ子
磯部　純　森澤昌子　中尾芳智子
血原清男　三田久子　辻　嘉一郎
亀木廣治　亀本秀子　宮村孝次郎
佐田次男　中村静香　那井洋子
陣　勇子　小田洞子　谷　守
福島　幸　武村千鶴　林田　道
長島節子　関塚保夫　今里哲也
松本　博　○吉藤孝次
◎荒田治夫　（計59名）

高尾山

大峰八経ヶ岳・大台ヶ原山

（名山関歩5）

11月6日(土)～7日(日)　一泊2日
◎秋場俊司
＊後日、報告ありましたが、紙面の都合で掲載できません。

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、仲間達かで健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間も活動のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で9年目に入りますが、すでにたくさんの会員が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で弁当を買い茶代を払い、交通料もすべてワリカンです。

会員には毎月「新ハイキング関西の山」をお送りします。

四季の自然に触れながら歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手500円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号4178番から4224番まで

【京都】　小栄内一郎
【神戸】　寺島　隆
【愛知】　古山義則
【三重】　名倉宇一　山村義男
伊藤喜久男
【滋賀】　幸村和彦　福島　昭
福島美子
【兵庫】　土岡　康　公文啓一
今里哲也　川上　晃
橋本好夫　斎藤美子
早佐西郎　豊佐久美子
【大阪】　岩本愛吉　高田久美子
中谷幸子　今森陽子　鈴木美美子
松井敏子　高田示子　黒川ウメ子
盛迫正義　神田敬夫　中嶋日出男
服　正志　木村俊子　大須賀　貫
加藤治一　小北静子　小松砂知子
【奈良】　吉田敏之　松田和彦
藤井節子　西田佳代
【兵庫】　桑田　結　津吉昭一
津吉日陽子　小山　輝　加地美代子
【山口】　湊　但明　和田　守
（47名）

訂正とお詫び

59号（緑巻）65ページ下段20行目（平成10年11月19日歩く）は（平成10年5月15日歩く）が正しい。

51号（緑巻）17ページ中段1行目「北西にあるピーク」は「北・東にあるピーク」、同ページ下段9行目「北東に望む」は「北西に望む」が正しい。

51号（緑巻）32ページナブタイトル「新ハイ例会」とありますが、山行例会は行っておらず単なる自然観察山行が正しい。

51号（緑巻）52ページ中段6行目・53ページ上段1行目「十巳の節句」は「三巳の節句」が正しい。

51号（緑巻）60ページ下段写真説明文「笠形山頂にて」は「笠形山頂にて」が正しい。

（編集者）

「毎号お求めになりたい方へ」
前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。例紙月の20日ごろ（隔月刊）の発売です。